

診療部門の現況と研究研修事項

- I 医務局の現況と研究研修事項
- II 中央診療局の現況と研究研修事項
- III 薬剤部の現況と研究研修事項
- IV 看護部の現況と研究研修事項
- V がん診療部の現況と研究研修事項
- VI 患者総合支援部の現況と研究研修事項
- VII その他の部門の現況と研究研修事項
- VIII 新型コロナウイルス感染症にかかる取組みについて

I 医務局の現況と研究研修事項

〔医務局の現況〕

令和5年度の診療科数は、内科、外科が専門領域に分かれ、形成外科が新設された。その結果、31科で構成されている。内科（総合内科）、内分泌・代謝内科、呼吸器内科、血液内科、腎臓内科、脳神経内科、消化器内科、循環器内科、精神科、小児科、外科、消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、形成外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、病理診断科、救急科、歯科、歯科口腔外科、麻酔科）

年度当初の医師・歯科医師数は、総数199名で令和4年度末に56名が退職、令和5年度初めに55名が入職された。

医務局内の人事では、4名が部長に昇格された。

当院では医師・歯科医師の自治組織として「医会」が組織されており、毎月第2月曜日に本会が開催され情報伝達や意見交換を行っている。今年度は新型コロナウイルス感染症が5類に移行したが、新入職者の歓迎会や懇親会、忘年会等の医局行事は開催されなかった。

新型コロナウイルス感染症が5類となり、新型コロナウイルス感染症での入院患者数は減少したものの一定の数の入院はあり、一般病棟での対応をすることとなった。新型コロナウイルス感染症で縮小していた診療体制はすこしずつ従来の状態をめざすこととなった。減少していた外来患者数、入院患者数を増加させることが課題となった。

1. 内科（総合内科）

<現 況>

当院の「内科系診療科」は、令和5年度より「血液内科」、「内分泌・代謝内科」、「腎臓内科」、「呼吸器内科」、「脳神経内科」、「消化器内科」、「循環器内科」の7つの専門診療科で構成されることになった。それぞれの診療科は専門性の高い診療を行っているが、高齢者の肺炎や尿路感染症など、専門性の低い疾患については、これら内科系診療各科が輪番で担当することとなるため、それらを統括する存在として「総合内科」が設置された。「総合内科」は、主任部長1名（血液内科部長が兼任）を置き、これを補佐する3名のコアメンバー（腎臓内科、内分泌・代謝内科、呼吸器内科の各医長1名ずつが兼任）を設定した上で、内科系診療科医師全員が所属するという形をとっている。

令和5年度に総合内科として診療した入院患者は810例にのぼり、その内訳は以下のとおりである。

誤嚥性肺炎	50例	腸炎	35例	不明熱	56例	アナフィラキシー	8例
肺炎	205例	敗血症	8例	脱水	23例	その他	107例
尿路感染症	110例	COVID-19	206例	熱中症	2例		

入院経路としては、救急外来からが692例と最も多く、次いで内科外来初診患者64例、他院からの転院患者52例、外科系診療科からの転科2例となっている。

外来に関しては、月曜、水曜、木曜、金曜に「内科（総合内科）」外来を設置し、血液内科、内分泌・代謝内科、呼吸器内科、腎臓内科の各部長が、地域の実地医家の先生方からの紹介に対応している。専門診療が適応と判断された場合には、前述の当院における各専門診療科へと繋いでいくこととしているが、膠原病関連疾患については当院に専門医がいないため、腎、肺、消化器の臓器障害が中心的病態でなければ、専門医のいる他院へ診療を委ねることが多くなっている。

今後も益々、地域の中核病院として、救急患者を含めた新入院患者数を増加させ、急性期医療に貢献していきたい。

<今後の課題>

年度内に退院した778例の退院先の内訳は、自宅退院470例、施設退院83例、転院136例、専門診療科への転科44例、死亡45例であった。自宅退院症例の平均在院日数が10.7日であるのに対し、施設退院例は18.3日、転院症例は25.1日と長くなっており、明らかに後送医療機関との連携に時間を要していることが見て取れる。今後、新規入院患者の増加を図るためには、こうした後送患者を受け入れてもらえる地域医療機関との連携を迅速かつスムーズに行うことが必要である。

<研究研修事項>

病院内研究研修会

内科医会……………週1回

2. 内分泌・代謝内科

<現 況>

今年度は常勤医が、清水医員（H29卒）、懸高医員（H28卒）、稲田医長（H20卒）、岡内部長（H13卒）、岩橋部長（H2卒）の5名、専攻医が、斉藤医師（H31卒）の1名の構成メンバーであった。

今年度から診療科再編に伴い内分泌・代謝内科として独立して病棟・外来運営を行うこととなり、入院患者については専門疾患は内分泌・代謝内科として、内科一般疾患については総合内科として入院治療を担当した。

糖尿病（内分泌）専門外来は、月曜日から金曜日まで毎日予約診療を行い、糖尿病透析予防外来も、毎月第一水曜日の午後に実施した。当科への紹介患者は、糖尿病以外にも、甲状腺疾患、副腎疾患、下垂体疾患、電解質異常、脂質代謝異常、痛風など多岐にわたるが、豊中市を含め、広く豊能地区以外からもご紹介いただいている。ご紹介していただいた患者は、外来および入院で診断が確定し、治療方針が固まれば、逆紹介を行っている。また通常の専門外来と並行して肥満外来を週1回（水）実施し、消化器外科や肥満症治療チームと連携して適応例に対しては肥満外科手術に繋げている。

令和5年5月に新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が5類感染症に移行したことを受け、同症での入院患者が一般内科診療扱いとなり、当科が通常受け入れている専門疾患の患者数は257例と前年度と比して若干増加し、総合内科として担当した一般内科疾患の患者数は166例であった。当院の他診療科に入院し、当科が共観として診療に携わった患者数は535名に上り、糖尿病を併存する患者が、他疾患の精査加療目的で入院された場合には、当科が専門的に血糖コントロールを行い、当院で安心して治療にあたることができるように努めている。糖尿病の教育入院、血糖コントロール目的の入院は、主に1週間パスや2週間パスを稼働させ、治療の標準化を図っている。原発性アルドステロン症の機能検査目的のパス入院も、今年度は12例に対して行った。副腎腫瘍については、機能性であれば手術を考慮して副腎静脈サンプリングを行い、泌尿器科に院内紹介し、必要に応じて腫瘍摘出術を行っている。救急入院患者には、呼吸器・尿路感染症を中心とする一般内科疾患と、糖尿病ケトアシドーシス（DKA）・高浸透圧高血糖状態・低血糖症などがある。

学術活動は、英文論文が3編、日本語論文が1編、学会発表は9件であった。また、糖尿病センターとして毎年出展してきた豊中市の市民健康展は、COVID-19の5類移行を受けて4年ぶりに出展し内臓脂肪測定会や糖尿病・メタボリックシンドロームの疾患啓発ポスターの展示を行った。また当院の糖尿病患者会の「とよなか倶楽部」も、その関連行事を再開し、5月、11月の講演会では岩橋病院長、岡内部長がレクチャーを行い、また11月に4年ぶりに開催されたウォークラリーにも患者会メンバーとともに参加した。

<今後の課題>

これまででも内分泌・代謝内科は糖尿病診療・患者教育にあたって看護師や薬剤師、栄養士など様々な職種と連携してきたが、令和6年度からより効率的で適切な診療を行うために、「糖尿病センター」という院内組織として活動を行っていくこととなった。本センターでは内分泌・代謝内科の医師のみならず、小児科医師も新たにメンバーに加わり、小児糖尿病の医療も当センターで協力して担う体制を整えた。またこれまで同様、専門性を有する看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床心理士、理学療法士、臨床検査技師もメンバーとして運営する。これら多職種で患者指導を行うことで、糖尿病に対する患者の理解を深め、また合併症管理を目的として、循環器内科、脳神経内科、腎臓内科、皮膚科、精神科と、また妊娠糖尿病の管理を目的として産科と、さらにがんの早期発見と発症後の予後改善を目的に消化器センターと、医師同士だけでなく、多職種間での連携を図る。人生の様々なステージにおいて「糖尿病のない人と変わらない人生」の達成をめざし、「患者の人生に寄り添った診療」を提供することを目的とする。

1. 地域の医師に広くアピールすることによって入院・外来患者数を増やし、適切な集患、逆紹介の推進で病院の経営基盤を安定させる。

2. 地域と連携した糖尿病患者の継続診療と合併症予防の取組みを行う。地域に逆紹介した患者も必要に応じ

糖尿病連携手帳などを用いてかかりつけ医と連携を取りながら治療動向を把握し、定期的に合併症評価を行う。

3. これまでも北摂医療圏で糖尿病ケトアシドーシスや感染症などでシックデイ状態に至った糖尿病患者の受入れを積極的に進めており、糖尿病緊急症、シックデイ患者の受入れや糖尿病併存がん患者の治療支援を進めていく。

<研究研修事項>

病院内研究研修会

内科（内分泌代謝）カンファレンス……………週1回

学術・研修活動（市立豊中病院主催・共催・その他）

◎市立豊中病院主催・共催

■とよなか倶楽部 第50回糖尿病講演会 ◎

「人生百年時代を”生ききる”ための心構え」

岩橋博見

豊中市、市立豊中病院

参加者：16名

令和5年6月17日

■第47回豊中糖尿病勉強会 ◎

「より進化・深化した病診連携へ～市立豊中病院糖尿病センターの新たな挑戦～」

岡内幸義

豊中市、市立豊中病院

参加者：32名

令和5年6月17日

■第48回豊中糖尿病勉強会 ◎

「GLP-1RA, SGLT2阻害薬を安全に使うために」

斎藤 匠

豊中市、市立豊中病院

参加者：34名

令和5年11月11日

刊行論文

■Glucose control in the early phase of hospitalization is associated with severe prognosis in coronavirus disease 2019 (COVID-19) patients with diabetes in Japan.

Okauchi Y, Sakamoto R, Kaketaka T, Yamabayashi E, Kubori M, Inada S, Morimura O, Otani Y, Abe K, Nishida T, Iwahashi H.

Diabetol Int. 14 (4) : 406-412, 2023

■A case of IgG4-related hypophysitis maintained remission of diabetes insipidus for over 3 months after completion of steroid treatment.

Kubori M, Fujimoto M, Okauchi Y, Matsuno K, Yamabayashi E, Sakamoto R, Inada S, Iwahashi H.

Endocrinol Diabetes Metab Case Rep. 2023 (4) : 23-0007, 2023

■糖尿病性舞踏病の発症を契機に新規に診断された非高齢肥満2型糖尿病の1例.

横山太陽、岡内幸義、懸高知子、久堀元博、塩出俊亮、伊藤直彦、岩橋博見

糖尿病 66 (9) : 691-696, 2023

■Gastrointestinal symptoms in 609 Japanese patients with COVID-19: a single-center retrospective study.

Kuriki S, Nishida T, Chang LS, Hosokawa K, Fujii Y, Osugi N, Nakamatsu D, Matsumoto K, Yamamoto M, Morimura O, Abe K, Okauchi Y, Iwahashi H, Inada M.

Scand J Gastroenterol. 58 (10) : 1139-1144, 2023

学会発表

■進行食道胃接合部癌に対してニボルマブ投与終了後に副腎皮質機能低下症を発症した1例

富山幸穂、岡内幸義、平野誠也、吉田侑佳、懸高知子、稲田慎也、川瀬朋乃、岩橋博見

医学生・研修医の日本内科学会ことはじめ2023東京

東京都 千代田区、東京国際フォーラム

令和5年4月15日

■胃前庭部に孤発した異所性インスリノーマの1例

平野誠也、稲田慎也、吉田侑佳、懸高知子、岡内幸義、岩橋博見

第66回日本糖尿病学会年次学術集会

鹿児島県 鹿児島市、かごしま県民交流センター 令和5年5月11日－13日

■多職種による治療支援により血糖改善、減量を維持し得た当院第一例目の肥満外科手術例についての検討

井上文子、岡内幸義、下須賀香奈子、柳本喜智、岩橋博見

第66回日本糖尿病学会年次学術集会

鹿児島県 鹿児島市、かごしま県民交流センター 令和5年5月11日－13日

■高齢糖尿病患者の治療効果に関連するセルフケア能力とその関連因子の検討

柴田明日香、岡内幸義、下須賀香奈子、橋本千穂

第66回日本糖尿病学会年次学術集会

鹿児島県 鹿児島市、かごしま県民交流センター 令和5年5月11日－13日

■術後約40年の経過で再発した原発性副甲状腺機能亢進症の1例

吉田侑佳、岡内幸義、平野誠也、懸高知子、稲田慎也、岩橋博見

第95回日本内分泌学会学術総会

愛知県 名古屋市、ハイブリッド開催（名古屋国際会議場） 令和5年6月1日－3日

■灸治療による熱傷受傷後にMSSA椎体炎を来した糖尿病症例

山野 茜、岡内幸義、吉田侑佳、平野誠也、懸高知子、稲田慎也、岩橋博見

第240回日本内科学会近畿地方会

兵庫県 神戸市、神戸国際会議場 令和5年6月24日

■DM合併COVID-19患者において新規指摘のDMは血糖値と独立した重症化リスク因子である

清水 成、岡内幸義、齊藤 匠、懸高知子、稲田慎也、岩橋博見

第60回日本糖尿病学会近畿地方会

兵庫県 神戸市、神戸国際会議場 令和5年10月14日

■PRO (patient reported outcome) から考える糖尿病治療の在り方～治療意欲（モチベーション）の重要性～

岩橋博見

第60回日本糖尿病学会近畿地方会

兵庫県 神戸市、神戸国際会議場 令和5年10月14日

■軽症～中等症対応病院において栄養障害と糖尿病はCOVID-19重症化にどう影響するか

齊藤直輝、岡内幸義、金谷愛子、井上文子、岩澤 卓

第37回日本臨床栄養代謝学会学術集会

神奈川県 横浜市、パシフィコ横浜ノース 令和6年2月15日－16日

研究会・集談会発表

■診断・治療においてSASI testの必要性について検討した胃前庭部孤発異所性インスリノーマの一例

平野誠也、稲田慎也、吉田侑佳、懸高知子、岡内幸義、岩橋博見

第16回大阪内分泌・代謝クリニカルカンファレンス

大阪市、グランフロント大阪 令和5年6月10日

■DM合併COVID-19患者において新規指摘のDMは血糖値と独立した重症化リスク因子である

清水 成、岡内幸義、齊藤 匠、懸高知子、稲田慎也、岩橋博見

第74回 月曜会（大阪大学内分泌・代謝研究会）

Web開催 令和5年12月2日

診療部門の現況と研究研修事項

I 医務局の現況と研究研修事項

講習・講演

■当院におけるエンレストの使用状況～糖尿病患者における使用前後の変化とともに～

岡内幸義

豊能糖尿病・代謝を考える会

豊中市、千里朝日阪急ビル

令和5年6月23日

■胆汁排泄型選択的DPP-4阻害剤は幅広い2型糖尿病患者さんに対応可能か

岡内幸義

糖尿病治療のRoadmap2023

大阪市、ハービスプラザ

令和5年9月15日

■感染症と糖尿病：血糖コントロールの重要性

岩橋博見

第7回 糖尿病治療ネットワーク in Toyonaka

豊中市、千里ライフサイエンスセンター

令和5年10月21日

■糖尿病性腎臓病(DKD)の外来管理について～糖尿病専門医の立場から～

稲田慎也

第7回 糖尿病治療ネットワーク in Toyonaka

豊中市、千里ライフサイエンスセンター

令和5年10月21日

■市立豊中病院糖尿病センターの新たな挑戦～より進化した病診連携、市民啓発に向けて～

岡内幸義

Diamond Seminar～地域で繋がる糖尿病診療～

Web開催

令和6年3月16日

■高TG血症合併の糖尿病患者さんにペマフィブラートをどう使うか

岡内幸義

豊中市病診連携の会

豊中市、千里ライフサイエンスセンター

令和6年3月23日

司会・座長・その他

■司会：岩橋博見

「より進化・深化した病診連携へ 市立豊中病院糖尿病センターの新たな挑戦」

演者：市立豊中病院 岡内幸義

第47回 豊中糖尿病勉強会

豊中市、ハイブリッド開催（市立豊中病院 講堂）

令和5年6月17日

■座長：岩橋博見

「糖尿病を持つ人の視点からPRO（patient reported outcome）で読み解くGLP-1製剤の評価」

演者：公立大学法人 奈良県立医科大学 医師・患者関係学講座 教授 石井 均

第14回 北摂インスリンセミナー

豊中市、千里阪急ホテル

令和5年6月30日

■closing remarks：岡内幸義

「糖尿病×肝疾患」病診連携セミナーin北摂

豊中市、千里ライフサイエンスセンター

令和5年8月26日

■座長：岩橋博見

「糖尿病高齢化時代におけるリベルサスのポジショニング」

演者：市立藤井寺市民病院 病院長 内本定彦

第7回 糖尿病治療ネットワーク in Toyonaka

豊中市、千里ライフサイエンスセンター

令和5年10月21日

- 座長：岩橋博見
「GLP-1RA、SGLT2阻害薬を安全に使うために」
演者：市立豊中病院 斉藤 匠
第48回 豊中糖尿病勉強会
豊中市、ハイブリッド開催（市立豊中病院 講堂） 令和5年11月11日
- 座長：岡内幸義
「CGMを活用した糖尿病診療について」
演者：国立病院機構大阪医療センター糖尿病・内分泌内科部長 加藤 研
2023年度 豊中CDEセミナー
豊中市、市立豊中病院 講堂 令和5年11月18日
- 座長：岩橋博見
「代謝栄養学は日常診療にどう生かされるか？」
演者：藤田医科大学医学部 臨床栄養学講座教授 飯塚勝美
第74回月曜会（大阪大学内分泌・代謝研究会） Web開催 令和5年12月2日
- 座長：岩橋博見
「トリグリセライド管理の重要性とSPPARM α への期待」
演者：地方独立行政法人りんくう総合医療センター理事長 山下静也
豊中市病診連携の会
豊中市、ハイブリッド開催（千里ライフサイエンスセンター） 令和6年3月23日

3. 呼吸器内科

<現 況>

呼吸器内科の診療担当医は、スタッフ4名、後期研修医3名、初期研修医1～2名である。病棟が再編され5階北病棟に専門病床を持っているが、他病棟入院も含めて常に25～35名程度の入院患者があり、他科からのコンサルトにも応じている。

令和5年度は4年度に引き続きCOVID-19への対応が必要であったが、COVID-19用病床数確保に伴う一般病床の削減は徐々に減らすことができた。但しCOVID-19は継続して発生しており、今後も対応が必要である。令和5年度の入院患者数はCOVID前に比べてほぼ同程度まで回復している。気管支鏡施行数もほぼ例年どおりに回復している。入院患者を疾患別にみると、肺炎は主に総合内科が担当することになったため呼吸器内科としては減少しており、肺癌が入院の主要疾患となった。肺癌は外科・放射線科・脳神経外科と連携し集学的治療を行っており、外来化学療法も積極的に行っている。肺癌治療は新規薬剤、抗癌剤の新規適応が続いており、治療対象の患者も年々増加傾向である。肺癌・肺炎・気管支喘息・COPD等はガイドラインに準拠して治療を行っている。肺癌・自然気胸・膿胸に対しては早期より外科と相談しながら治療方針を決めており、手術対象となる症例がスムーズに外科へ転科できるよう配慮している。個々の患者のQOLも考慮して、なるべく長期入院にならないようクリニカルパスを活用している。

令和5年度の気管支鏡の症例数は149例となっている。

日本呼吸器学会・日本呼吸器内視鏡学会認定施設に認定されている。

<今後の課題>

日本において肺癌、COPDの死亡数は年々増加してきているが、全国的に呼吸器科医が不足している。大学医局と連携し、呼吸器科医の確保をめざしている。また大阪府は後期研修医採用数にシーリングをかけられており、後期研修医の確保が困難になってきている。

COVID-19は令和5年5月8日に5類に変更されたが、大阪府から確保病床の継続を求められていた。その後確保病床は原則なくなったが、COVID-19患者は今後も隔離が必要で有り、症例増加時の病床確保が課題である。

肺癌治療に関しては遺伝子検査が重要となり、診断時に十分量の組織採取が課題である。

当院では気管支喘息に対する生物製剤の使用例が少ないように思われる。保険適応が限られているが、今後中等症にも適応拡大されれば、使用例も増えてくるものと思われる。

<研究研修事項>

病院内研究研修会

呼吸器内科・外科合同カンファレンス……………週1回 呼吸器内科カンファレンス……………週1回

刊行論文

■Impact of Lymphopenia Recovery After Chemoradiotherapy on Durvalumab Consolidation Therapy in Stage III NSCLC

Tomoki Kuge, Takayuki Shiroyama, Akihiro Tamiya, Motohiro Tamiya, Masaki Kanazu, Yuhei Kinehara, Tsunehiro Tanaka, Osamu Morimura, Yoshihiko Taniguchi, Toshie Niki, Satoshi Tetsumoto, Kazuhiko Hayashi, Kazumi Nishino, Izumi Nagatomo, Atsushi Kumanogoh.

JTO Clinical and Research Reports 4 (5) : 100505, 2023

■Pneumonitis During Duvalumab Consolidation Therapy Affects Survival in Stage III NSCLC

Yuhei Kinehara, Takayuki Shiroyama, Akihiro Tamiya, Motohiro Tamiya, Seigo Minami, Masaki Kanazu, Osamu Morimura, Toshie Niki, Satoshi Tetsumoto, Yoshihiko Taniguchi, Tomoki Kuge, Kazumi Nishino, Izumi Nagatomo, Atsushi Kumanogoh, Isao Tachibana.

JTO Clinical and Research Reports 4 (11) : 100586, 2023

- Real-world outcomes of nivolumab plus ipilimumab and pembrolizumab with platinum-based chemotherapy in advanced non-small cell lung cancer: a multicenter retrospective comparative study
Kinnosuke Matsumoto, Takayuki Shiroyama, Motohiro Tamiya, Toshiyuki Minami, Yuhei Kinehara, Akihiro Tamiya, Yasuhiko Suga, Tomoki Kuge, Masahide Mori, Hidekazu Szuki, Satoshi Tobita, Kiyonobu Ueno, Yoshinobu Namba, Satoshi Tetsumoto, Toshie Niki, Osamu Morimura, Akio Osa, Kazumi Nishino, Izumi Nagatomo, Yoshito Takeda, Takashi Kijima, Atsushi Kumanogoh.
Cancer Immunology, Immunotherapy 73 (4) : 2024

学会発表

- MPO-ANCA、PR3-ANCA両者陽性となったEGPAの1例
和田紘実、森村 治、中坪彩恵子、大崎 恵、佐伯志歩、甘中亮佑、阿部欣也
日本内科学会第242回近畿地方会
大阪府 豊中市、千里ライフサイエンスセンター 令和5年12月9日
- 乳び胸水を契機に悪性リンパ腫の診断に至った2例
甘中亮佑、森村 治、中坪彩恵子、大崎 恵、佐伯志歩、和田紘実、阿部欣也、政家寛明、小澤孝幸
日本内科学会第243回近畿地方会
大阪府 大阪市、梅田スカイビル 令和6年3月16日

研究会・集談会発表

- タグリッソンの適正使用に関するクリニカルクエション
和田紘実
EGFR陽性肺がん治療研究会 Web開催 令和5年8月23日
- Discussion～注射はまだいいです～
大崎 恵
北大阪BIO導入を考える会 Web開催 令和5年12月6日

司会・座長・その他

- 座長：阿部欣也
重症気管支喘息の最新治療
大阪刀根山医療センター 辻野和之
One Airway Meeting in HOKUSETSU Web開催 令和5年6月7日
- 座長：森村 治
EGFR遺伝子変異陽性非小細胞癌の治療戦略～Dose intensity の重要性と後治療への繋げ方～
日本医科大学大学院医学研究科呼吸器内科分野 清野正博
EGFR陽性肺がん治療研究会 Web開催 令和5年8月23日
- 座長：森村 治
長期生存を目指した肺癌薬物治療レジメン選択～イミフィンジが果たす役割～
一宮西病院副院長・呼吸器内科部長 竹下正文
北摂エリア肺がん診療サミット2024 Web開催 令和6年3月14日

4. 血液内科

<現 況>

血液内科は、小杉 智主任部長、田所誠司部長、政家寛明部長、木田 亨医長、小澤孝幸医長の5名のスタッフ、高橋知也専攻医、江崎彩乃専攻医の計7名の体制で診療している。当科は豊中市内において、完全無菌室2床、準無菌室6床計8床を備える唯一の施設であり、北摂地区における血液疾患の基幹病院の1つとして多くの患者を受入れている。また日本血液学会専門医研修施設として、研修医の教育・指導にも励んでいる。

当科の令和5年度の入院患者数は延べ622名(内科輪番患者含む)で、令和3年度の484名、令和4年度の553名より大幅に増加し、コロナウィルスパンデミック以前(令和2年度より前)の水準に回復した。患者の多くは、化学療法、放射線療法を中心に長期の治療期間を必要とするが、外来化学療法への早期移行や短期入院対応などを行い、在院日数の軽減と受入患者数の確保に努めている。疾患別内訳では、例年同様悪性リンパ腫(特に非ホジキンリンパ腫)が最も多く、以下骨髓異形成症候群、多発性骨髓腫、各種白血病、骨髓増殖性腫瘍等の悪性疾患、さらに再生不良性貧血、特発性血小板減少性紫斑病、溶血性貧血、巨赤芽球性貧血等の良性疾患と多岐にわたる(表1参照)。治療成績は、急性骨髓性白血病で約80%、悪性リンパ腫で約90%の寛解率を得ている。再発難治悪性リンパ腫と多発性骨髓腫の適応症例には自家末梢血幹細胞移植を施行している(表2参照)。

血液疾患の治療については、分子標的薬・免疫調節薬などの新薬が次々と開発されており、同種造血幹細胞移植、キメラ抗原受容体導入T細胞療法(CAR-T細胞療法)など新たな治療選択肢も増えてきている。当科では患者に可能な限り最新の情報を提供し、移植やCAR-T療法を希望された場合には、大阪国際がんセンター血液内科や大阪大学血液・腫瘍内科との密接な連携をとりつつ、迅速な対応をとっている。

(表1：新規入院患者数)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
急性白血病	5	13	13	19	16
悪性リンパ腫	57	45	41	58	79
多発性骨髓腫	14	7	12	17	9
骨髓異形成症候群	12	12	9	9	15
特発性血小板減少性紫斑病	5	3	2	7	8

(表2：自家末梢血幹細胞移植症例数)

	平成29年度以前	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
悪性リンパ腫	104	1	2	2	1	4
多発性骨髓腫	39	2	2	1	1	1
急性白血病	4	0	0	0	0	0

<今後の課題>

可能な限り外来化学療法や外来輸血への移行をめざすことで入院日数の短縮をはかり、受入れ人数の確保に努めている。また、積極的治療不適応患者や緩和医療適応患者をホスピスや在宅医療に円滑に移行していくことで、新入院患者数の維持にも努力している。しかし、病状の急速な悪化、発熱・出血などの緊急事態のための緊急入院対応が重なり、ベッド確保が困難となる事態がしばしば生じる。今後も継続した努力により、入院ベッド確保を確実にしたい。

現在、高齢者を含めた外来化学治療の症例が年々増えてきており、緊急時の初期対応がさらに重要になる。また、新しい機序の薬剤が増えたことにより、新たな副作用・合併症が多くなっており、救急外来・外来治療センターなど他部門やコメディカルとの連携が重要である。部門間の協力や情報共有により、より安全安心な医療をめざす。また、前述のように新規薬剤により治療の選択肢が増えてきているので、最新の情報の収集に努め、適切な治療の選択と患者への情報提供に努める。

＜研究研修事項＞

病院内研究研修会

血液内科カンファレンス……………週1回

学術・研修活動（市立豊中病院主催・共催・その他）

◎市立豊中病院主催・共催

■地域医療従事者セミナー ◎

「非ホジキンリンパ腫の治療 ～2023 overview & UPDATE～」

小杉 智

豊中市、市立豊中病院

参加者：約20名

令和5年11月30日

■豊中市薬剤師会2月研修会

「非ホジキンリンパ腫の治療～「これまで」と「これから」～」

小杉 智

豊中市、ハイブリッド開催（豊中市医療保険センター）

参加者：82名

令和6年2月13日

著書

■壊血病、Möller-Barlow病

田所誠司

別冊日本臨牀：血液症候群（第3版）III 日本臨牀社

令和5年11月

刊行論文

■Nocardia Subcutaneous Abscess in a Waldenström Macroglobulinemia Patient

Taiyo Yokoyama, Daichi Hayashi, Satoru Kosugi.

Intern Med. 62 (8) : 1247-1248, 2023

■Real-world data on induction therapy in patients with transplant-ineligible newly diagnosed multiple myeloma: retrospective analysis of 598 cases from Kansai Myeloma Forum

Yuji Shimura, Hirohiko Shibayama, Aya Nakaya, Ryosuke Yamamura, Kazunori Imada, Hitomi Kaneko, Hitoshi Hanamoto, Shin-ichi Fuchida, Hirokazu Tanaka, Satoru Kosugi, Miki Kiyota, Toshimitsu Matsui, Junya Kanda, Masato Iida, Mitsuhiro Matsuda, Nobuhiko Uoshima, Masaru Shibano, Takahiro Karasuno, Tsuneyoshi Hamada, Kensuke Ohta, Tomoki Ito, Hideo Yagi, Satoshi Yoshihara, Chihiro Shimazaki, Shosaku Nomura, Masayuki Hino, Akifumi Takaori-Kondo, Itaru Matsumura, Yuzuru Kanakura, Junya Kuroda.

Int J Hematol. 118 (5) : 609-617, 2023

■Impact of cytogenetic abnormalities in symptomatic multiple myeloma; a Japanese real-world analysis from Kansai Myeloma Forum

Aya Nakaya, Hirohiko Shibayama, Nobuhiko Uoshima, Ryosuke Yamamura, Satoshi Yoshioka, Kazunori Imada, Yuji Shimura, Masaaki Hotta, Toshimitsu Matsui, Satoru Kosugi, Hitoshi Hanamoto, Hitoji Uchiyama, Satoshi Yoshihara, Shin-ichi Fuchida, Yoshiyuki Onda, Yasuhiro Tanaka, Kensuke Ohta, Mitsuhiro Matsuda, Junya Kanda, Adachi Yoko, Miki Kiyota, Eri Kawata, Ryoichi Takahashi, Kentaro Fukushima, Hirokazu Tanaka, Hideo Yagi, Teruhito Takakuwa, Naoki Hosen, Tomoki Ito, Chihiro Shimazaki, Akifumi Takaori-Kondo, Junya Kuroda, Itaru Matsumura, Masayuki Hino.

Leuk Res Rep. 20 : 100395, 2023

学会発表

■多発性骨髄腫に合併しボルテゾミブ投与で寛解した免疫性血小板減少性紫斑病

山野 茜、小澤孝幸、木田 亨、政家寛明、田所誠司、小杉 智

第118回近畿血液学地方会

大阪市、大阪国際交流センター 令和5年5月20日

■VRD導入と移植の有無の治療成績－関西骨髄腫フォーラム後方視的研究－

高桑輝人、吉原 哲、吉岡 聡、堀田雅章、志村勇司、諫田淳也、淵田真一、魚嶋伸彦、太田健介、小杉 智、福島健太郎、田中宏和、柴山浩彦、伊藤量基、黒田純也、高折晃史、島崎千尋、保仙直毅、松村 到、日野雅之

第48回日本骨髄腫学会学術集会

東京都、浜松町コンベンションホール 令和5年5月26日－28日

■The effect of elotuzumab deteriorates after daratumumab: a multicenter retrospective study

Naokazu Nakamura, Nobuyoshi Arima, Teruhito Takakuwa, Satoshi Yoshioka, Kazunori Imada, Kentaro Fukushima, Masaaki Hotta, Shinichi Fuchida, Junya Kanda, Nobuhiko Uoshima, Yuji Shimura, Hirokazu Tanaka, Kensuke Ohta, Satoru Kosugi, Hideo Yagi, Satoshi Yoshihara, Ryosuke Yamamura, Yoko Adachi, Hitoshi Hanamoto, Hirohiko Shibayama, Naoki Hosen, Tomoki Ito, Chihiro Shimazaki, Akifumi Takaori, Junya Kuroda, Itaru Matsumura, Masayuki Hino.

第85回日本血液学会学術集会

東京都、東京国際フォーラム 令和5年10月13日－15日

■R-CHOP in elderly patients with DLBCL assessed by CGA: A prospective multicenter analysis

Takayuki Ozawa, Tomoaki Ueda, Jun Ishikawa, Shuji Ueda, Satoru Kosugi, Megumu Inoue, Hideki Hattori, Hiroyuki Kurakami, Kentaro Fukushima, Hirohiko Shibayama, Naoki Hosen.

第85回日本血液学会学術集会

東京都、東京国際フォーラム 令和5年10月13日－15日

■Survival and cause of death in CLL patients of our institute: a retrospective study

Tomoya Takahashi, Toru Kida, Takayuki Ozawa, Ayano Ezaki, Hiroaki Masaie, Seiji Tadokoro, Satoru Kosugi.

第85回日本血液学会学術集会

東京都、東京国際フォーラム 令和5年10月13日－15日

■Pseudo-thrombotic thrombocytopenic purpura の一例

林 利空、木田 亨、高橋 知也、江崎彩乃、小澤孝幸、政家寛明、田所誠司、小杉 智

第119回近畿血液学地方会

豊中市、千里ライフサイエンスセンター 令和5年11月25日

■メトトレキサート排泄遅延に対して血液透析を実施した急性リンパ性白血病

河合莉央、木田 亨、高橋知也、小澤孝幸、政家寛明、田所誠司、小杉 智、楠 康生

第243回日本内科学会近畿地方会

大阪市、梅田スカイビル 令和6年3月16日

研究会・集談会発表

■Ibrutinibにより速やかに貧血・血小板減少が改善した再発難治性Waldenstrom macroglobulinemia(WM)

小杉 智

JanssenPro Web Seminar：EvidenceとReal Worldから紐解くBTKi時代のWM/LPL治療戦略

Web開催 令和5年6月16日

■WM2例で経験したチラブルチニブの有害事象

小杉 智

第5回北摂MM・リンパ腫セミナー

豊中市、千里阪急ホテル 令和5年7月14日

■多発性骨髄腫に合併しボルテゾミブ投与で寛解した免疫性血小板減少性紫斑病

小杉 智

HEMATOROLOGY UPDATE SEMINAR

大阪市、ホテルグランヴィア大阪

令和5年8月31日

講習・講演

■2023年、初発DLBCLを「どうする？」～今確かな事と、迷う事～

小杉 智

DLBCLの治療を考えるweb seminar in 大阪

Web開催

令和5年5月19日

■How I treat chronic ITP ～タバリス使用経験とともに～

小杉 智

タバリスWeb講演会

Web開催

令和6年3月15日

司会・座長・その他

■司会：小杉 智

パネル・ディスカッション

「ポマリドミドベース治療の適正使用について考える」

演者：松下記念病院 清田実希、大阪国際がんセンター 多田雄真、府中病院 原田尚憲

ポマリスト・エムプリシティWEBセミナー

Web開催

令和5年4月25日

■座長：小杉 智

「DLBCL治療～The Answer～」

演者：関西医科大学 伊藤量基

北摂Clues 2023

Web開催

令和5年4月27日

■座長：小杉 智

「移植後シクロフォスファミド（PTCy）による薬剤性腎障害が疑われた真菌感染症合併急性骨髄性白血病の1例」

「精巣腫瘍に伴う多発肺腫瘍を伴った症例の検討」

演者：大阪公立大学 西本光孝、関西医科大学 福田直樹

第37回 大阪 DIC 研究会

大阪市

令和5年6月28日

■座長：小杉 智

一般演題「悪性リンパ腫①」

演者：奈良県総合医療センター 山本雅美、北野病院 野々原洋輔、

京都第二赤十字病院 山田大智、京都大学医学部附属病院 佐野 瞳、

大阪大学医学部 濱田雅隆、国立病院機構大阪医療センター 中川悠太、

日本生命病院 阿部凌子

第119回近畿血液学地方会

豊中市、千里ライフサイエンスセンター

令和5年11月25日

■座長：小杉 智

「DLBCL治療の新たな幕開け～初発治療と再発治療～」

演者：埼玉県立がんセンター 関口康宣

北摂Clues 2024

Web開催

令和6年2月16日

受賞

■優秀演題賞

山野 茜

第118回近畿血液学地方会

大阪市、大阪国際交流センター

令和5年5月20日

5. 腎臓内科

<現 況>

【体制】 令和5年4月から、部長：竹治正展（継続）、医長：楠 康生（継続）、医員：福田俊悟（継続）、医員：上野憲子（継続）、専攻医3年目：堅田梨穂（当院プログラム復職・前年度は県立西宮病院に出向）、専攻医2年目：中山芙美（関西労災プログラム所属、当院に今年度出向）の6名と、非常勤医師の池田夏子（外来と人工透析室担当）で診療にあたった。なお、前年度専攻医3年目の大河原桃子は退職し大阪大学大学院医学系研究科に入学した。また、医師1名が令和5年5月中旬より年度末まで産休・育休であったため、実質1人人員減の状況ではほぼ1年を乗り越えたことになる。他の長期病欠者などが無かったのが幸いであり、また他の職員が精力的に働いてくれたことで下記のように増加した業務量进行处理することができた。医師の業務量に対して補充人員確保困難（臨時職員などの制度がない）問題は常に悩ましいところである。

【業務概要】腎臓内科専門外来、およびCAPD（腹膜透析）専門外来枠は従来どおり行い、また令和3年度から開始している「腎・電解質コンサルト」の院内紹介枠も継続して行った。令和2年から継続していた新型コロナウイルス感染症流行に伴う対応（感染症病棟業務、発熱外来診療）は令和5年5月8日から5類感染症扱いとなり終了となった。令和5年度から内科系4科（血液内科、呼吸器内科、内分泌・代謝内科、腎臓内科）の独立と、総合内科新設に伴い、業務量と内容には若干の変化が生じた。特に一般内科疾患の入院（「輪番入院」）はこれまで入院病床によって扱いが異なっていたのが、機械的に順番で決まるようになり、腎臓内科医師は22分の5の割合で輪番入院を担当することとなった（産休育休中は21分の4）。入院患者については従来どおりネフローゼ症候群、慢性腎炎、慢性腎不全、電解質異常、末期腎不全からの透析導入、および他院で維持透析中で入院を要する疾患の発症などに対処した。各種疾患に応じたクリニカルパスを活用し治療の均一性と安全性の改善にも努めた。また、近隣の腎臓内科を持たない病院からの転院依頼や、当院他科で加療中に腎機能悪化が見られたため紹介されるケースもしばしばあり、積極的な受入れに努めた。また、私共の大きな責務として、病院業務のみならず、豊中市民の健康向上・保健事業への協力も担っており、豊中市保健所の透析予防事業にも積極的に協力し、今後の対策の協議にも参加した。

【各種指標】 令和5年度の、腎臓内科医師による外来診察患者数は6,316名/年（令和4年度比+873名、過去最高だった平成29年度の5,655名を大きく上回った）、腎臓内科+総合内科の腎臓内科医師受け持ちの入院患者数は510名/年（令和4年度比+143名、過去最高だった令和元年の498名を越えた）といずれも増加、特に新型コロナウイルス感染症流行の影響は大きかったと実感した。「腎・電解質コンサルト」の件数は116件/年であり、令和3年度の132件から若干減ったが、何らかの手違いで8月に1件しかなかったことが影響したものと思われる。その他、腎生検41件/年（前年度比+5）、IgA腎症に対する扁桃摘出+ステロイドパルス療法 5名/年（当院耳鼻いんこう科と共同で実施、前年度比-1）、多発性のう胞腎に対するトルバプタン使用開始は今年度1人（前年度なし）。透析に関しては、「人工透析部」の項を参照されたい。

<今後の課題>

腎臓内科としての重要な役割である慢性腎臓病の進行抑制は国を挙げて対策が求められているところであり、一般市民及び医療機関での認識も徐々に広がっているが、そもそも腎臓病は自覚症状が現れにくいこともあってまだ十分とは言えず、当科でも啓発をさらに進めるべく努力していく。今後も、豊中市保健所とも意見交換しつつ対策を考えて実行していく予定である。地域での会合等で、健診や地域医療機関での慢性腎臓病発見・紹介を進めて頂くよう周知を行い、入院患者・病棟稼働率の上昇に努めるとともに、広い視野での豊中市の財務状況改善に資するよう関わって行きたいと考えている。

急性腎障害(AKI)は生命予後や将来の慢性腎臓病の危険因子であり、また例えば血清ナトリウム異常は死亡を含むいろいろな有害事象との相関が報告されている。院内発生のAKIおよび電解質異常に対して速やかに対処すべく令和3年度より「腎・電解質コンサルト」枠を設定し、利用数は増加しているが、さらに認識を広めていきたいと考えている。

慢性腎臓病、腎不全の患者の高齢化は年々進んでおり、他の合併症や生活上の困難を抱えている場合も増えており、そのサポート・バックアップ体制のさらなる整備が望まれる。

透析導入前後の期間においては、他の診療科やメディカルスタッフの協力が重要である。また、高齢化に伴い、介護システムの協力が必要になるケースも多くなっている。特に、診療報酬にも現れている国の方針として、腎代替療法の選択における多職種の間わり、血液透析以外の治療法の選択肢の推進が望まれている。多職種での診療体制が成長することが望まれる。

＜研究研修事項＞

病院内研究研修会

腎臓内科カンファレンス……………週1回	腎臓病教室……………年1回
透析カンファレンス……………週1回	

学会発表

■エルトロンボパグ投与後の重度急性腎障害に対して血漿交換が有用であった一例

堅田梨穂、楠 康生、木田 亨、上野憲子、大河原桃子、福田俊悟、池田夏子、難波倫子、竹治正展
第68回日本透析医学会学術集会

兵庫県 神戸市、神戸国際会議場 令和5年6月16日

■COVID-19に併発した細菌性肺炎に対するタゾバクタム/ピペラシリン投与中に乏尿性急性腎障害を来した1例

立山みあり、福田俊悟、中山芙美、堅田梨穂、上野憲子、池田夏子、楠 康生、竹治正展

第241回日本内科学会近畿地方会

大阪市、大阪国際交流センター 令和5年9月2日

■COVID-19治療中に突然の呼吸困難を呈して心肺停止に至ったAlport症候群由来の維持透析患者の1例

中山芙美、福田俊悟、堅田梨穂、上野憲子、池田夏子、楠 康生、竹治正展

第53回日本腎臓学会西部学術大会

岡山県 岡山市、岡山コンベンションセンター 令和5年10月8日

■L-アルギニン製剤使用中に著明な代謝性アシドーシスと高Ca血症を来した緊急透析を要した1例

稲見佳奈、堅田梨穂、楠 康生、中山芙美、上野憲子、福田俊悟、池田夏子、竹治正展

第53回日本腎臓学会西部学術大会

岡山県 岡山市、岡山コンベンションセンター 令和5年10月8日

講習・講演

■多発性嚢胞腎のkey point

竹治正展

腎臓病Webセミナーin Toyonaka

Web開催

令和5年4月13日

司会・座長・その他

■座長：竹治正展

腎性貧血治療基礎講座

演者：国立循環器病研究センター 有里哲哉

高齢者診療のピットフォール

Web開催

令和6年2月8日

診療部門の現況と研究研修事項

I 医務局の現況と研究研修事項

■座長：竹治正展

ARNI Renal Web Seminar

演者：神戸労災病院 佐藤 稔

腎臓内科医が考える高血圧治療

Web開催

令和6年2月28日

6. 脳神経内科

<現 況>

常勤医4名、非常勤医1名、専攻医3名の体制であった。北摂地域の神経内科・脳卒中専門医療機関として、神経系疾患全般を受入れた。入院患者の8割以上が、救急・当日入院であった。脳卒中センターでは、脳外科と連携し24時間体制で脳卒中を中心とした神経救急疾患に対応した。令和元年度春よりSCU病棟が発足し、脳卒中のみならず、神経救急疾患全般にわたり救急患者の対応を行っている。入院の約6割が脳血管障害であった。脳梗塞超急性期治療として、t-PAによる血栓溶解療（36例）、カテーテルによる脳血管内治療（37例）を行い、早期リハビリテーションに努めた。他職種と合同で脳卒中カンファを行うなどチーム医療を進めた。神経難病では、パーキンソン病、多発性硬化症などの入院があった。北摂難病協議会に参加、他の専門施設とも連携し、きめ細やかな医療を行った。近隣施設からの転院で脳炎、髄膜炎、てんかんなど神経緊急症を受入れた。脳波・筋電図などの電気生理学的検査を行った。地域連携では紹介、逆紹介を推進し、脳卒中地域連携パスを使用して脳卒中地域連携を進めた。大阪大学医学部学生の学外実習を担当した。

令和5年度 入院患者

脳血管障害		脱髄性疾患	
脳梗塞	364	多発性硬化症	4
TIA	22	変性疾患	
その他	10	パーキンソン症候群	46
感染症		運動ニューロン病	5
脳炎・髄膜炎	20	多系統萎縮症	1
脊髄炎	4	末梢神経疾患	
機能性疾患		ニューロパチー	10
てんかん	98	ギランバレー症候群	6
頭痛・めまい・意識消失発作	33	その他	45
筋疾患			
重症筋無力症	6		
その他	4		

<今後の課題>

当科の特徴として、救急外来からの入院が多い。最近は複数の病院でSCUが発足するなど地域の脳卒中救急体制の変化に伴い、超急性期治療適用患者数も増加したものの、コロナ禍で減少し、新型コロナウイルス感染症流行後となっても脳卒中患者の受入れ数は伸び悩んでいる。今後も新規入院患者数を増やすため積極的に救急疾患を受入れることが必要であり、そのために引き続き人員確保や診療体制づくりに努める。北摂地域の神経内科専門施設とも連携し、脳血管障害症例以外にも神経変性疾患など神経難病をさらに診療できる北摂の中核施設として神経疾患診療の充実を図る。地域医療機関との連携強化を図り、紹介患者数の増加、紹介率・逆紹介率の向上、入院患者在院日数の短縮などを更に進めたい。さらに、大学や学会などと連携し、臨床研究の充実を図るとともに、神経疾患の新規治療薬の治験も積極的に行っていきたい。

<研究研修事項>

病院内研究研修会

神経内科カンファレンス……………週1回	脳卒中カンファレンス……………週1回
SCUカンファレンス……………平日毎日	

学会発表

■Basedow病による脳静脈血栓症の1例

小松由華、杉浦由理、古谷祥吾、佐野 齊、早野絵梨、村田 尚、仲谷利栄、来 真希子、長束一行、横江 勝

日本内科学会第240回近畿地方会

兵庫 神戸市、ハイブリッド開催（神戸国際会議場） 令和5年6月24日

■人工呼吸器管理から自宅退院可能となった高齢抗MuSK抗体陽性重症筋無力症の一例

小松由華、横江 勝、山田雅彬、古谷祥吾、田中亮弘、早野絵梨、村田 尚、仲谷利栄、杉浦由理、来 真希子

日本神経学会第127回近畿地方会

豊中市、千里ライフサイエンスセンター 令和6年3月3日

■ネフローゼ症候群に合併した左総頸動脈閉塞症による脳梗塞の一例

山田雅彬、小松由華、古谷祥吾、田中亮弘、早野絵梨、村田 尚、仲谷利栄、杉浦由理、来 真希子、横江 勝

日本神経学会第127回近畿地方会

豊中市、千里ライフサイエンスセンター 令和6年3月3日

■急性期の穿通枝梗塞における症状の進行とその後の回復要因の検討

小松由華、来 真希子、山田雅彬、古谷祥吾、田中亮弘、早野絵梨、村田 尚、仲谷利栄、杉浦由理、横江 勝

第49回日本脳卒中学会学術集会 神奈川 横浜市、パシフィコ横浜 ノース 令和6年3月7日－9日

研究会・集談会発表

■NMOSDの病態と自然免疫系

村田 尚

神経免疫セミナー in 阪神

大阪市、ラグナヴェールプレミア

令和5年4月28日

■オピカボンの有効性と有用性を考える

横江 勝

北摂エリアPD webライブセミナー

豊中市、千里阪急ホテル

令和5年6月28日

■神経内科医からみたEGPA

横江 勝

GSK EGPA Year End Seminar

大阪市、リーガロイヤルホテル大阪

令和5年12月22日

■神経内科医の立場から見たEGPA

横江 勝

GSK EGPA Advanced Management Forum 2024 Feb

福岡市、ホテル日航福岡

令和6年2月12日

■進行期パーキンソン病における運動合併症の治療戦略

横江 勝

Next Generation Neurology Seminar

大阪市、小野薬品本社

令和6年3月1日

講習・講演

■パーキンソン病診療の現況

横江 勝

AbbVie社外講師勉強会

大阪市、AbbVie大阪オフィス

令和5年7月12日

■進行期パーキンソン病におけるMAO-B阻害薬の有用性

横江 勝

エーザイMR研修会

大阪市、エーザイ大阪コミュニケーションオフィス

令和5年10月3日

■市立豊中病院のSCU救急の頭痛診療について

横江 勝

第一三共医師招聘研修

豊中市、千里ライフサイエンスセンター

令和5年10月18日

■MAOB阻害薬を再考する

横江 勝

エフピー社内講演

豊中市、千里ライフサイエンスセンター

令和6年3月29日

司会・座長・その他

■ディスカッション座長：横江 勝

実臨床で見てきた新規COMT阻害剤の活用方法

PD Expert Seminar in 関西

大阪市、ホテルニューオータニ大阪

令和5年4月20日

■座長：横江 勝

脳卒中管理の新機軸

演者：国立循環器病研究センター 福間一樹

Stroke Online News

豊中市、千里ライフサイエンスセンター

令和5年4月28日

■ポスターセッション座長：横江 勝

ポスターセッションPj-009 PDとその類縁疾患：検査・評価

第64回日本神経学会学術大会

千葉県 千葉市、幕張メッセ

令和5年5月31日－6月3日

■ディスカッション座長：横江 勝

多職種で支える進行期パーキンソン病診療

多職種で考えるPD診療連携セミナー

豊中市、千里阪急ホテル

令和5年9月15日

■座長：横江 勝

NMOSDの病態と治療

演者：大阪大学神経内科 木下 允

OSAKA NMOSDセミナー

大阪市、ANAクラウンプラザホテル大阪

令和5年11月29日

■ディスカッション座長：横江 勝

地域でのてんかん診療における今後の連携

地域で考えるてんかんセミナー in 北摂

大阪市、エーザイ大阪コミュニケーションオフィス

令和6年2月1日

■ディスカッション座長：横江 勝

ウェアリングオフ発症後の初期治療を考える

Next Generation Neurology Seminar

大阪市、小野薬品本社

令和6年3月1日

■座長：横江 勝

神経3

日本内科学会 第243回近畿地方会

大阪市、梅田スカイビル

令和6年3月16日

■ディスカッション座長：横江 勝

ケースディスカッション EGPA神経障害

EGPA Medical Summit in Mar 2024

東京都 港区、赤坂インターシティコンファレンス

令和6年3月23日

7. 消化器内科

<現 況>

消化器内科では、スタッフとして主任部長の西田 勉、部長の福井浩司、医長の山本政司、松本健吾、中松 大、そして医員の杉本 彩、大杉直人、藤井祥史、阪本直洋、岡部 悟を含む10名、加えて専任レジデント7名（河村浩輔、瀧山浩希、片之坂佑彦、増田 遥、東野克温、林 大智、北澤みはる）で構成され、計17名で診療にあたっている。従来、消化管、肝胆膵に分けていたが、消化器外科とともに令和4年4月から消化器センターを開設し、センターとして機能するために令和5年度より消化器内科を1本化し、初診外来も消化器センター外来とし、多くの紹介患者を受入れている。

診療の焦点：診療では、消化器内視鏡検査・治療、がん診療、炎症性腸疾患、消化器救急診療、肝疾患に重点を置いており、1泊2日の大腸ポリープ治療パスを令和3年から本格導入している。がん診療では特に、がん遺伝子パネル検査の積極的な適用に注力している。炎症性腸疾患に対しては、新薬や治療法の臨床試験を積極的に行っている。肝疾患領域では、C型慢性肝疾患に対するインターフェロンフリー療法やB型肝炎の治療を積極的に実施し、肝疾患の検査やフォローアップのためのアラートシステムを確立している。また、肝細胞癌や肝硬変の診療にも新規治療薬の導入などで対応している。

救急診療と地域医療への貢献：救急診療では、365日24時間体制で迅速な診療を提供し、救急部と内視鏡部との連携を強化している。北摂地域で特に必要とされる休日や夜間の消化器救急診療にも対応し、中核病院としての役割を果たしている。

診療実績と今後の展望：新型コロナウイルス感染症が5類扱となり、患者数の更なる増加と診療サービスの質の向上に努めている。令和5年度の消化器内科の入院患者内訳と診療実績は、別途表で示す。

入院実績（令和5年度、消化器内科（消化管・肝・胆・膵）入院2,484例の主な疾患の内訳）

主な疾患	延べ入院患者数	主な疾患	延べ入院患者数
食道癌（うちESD・化学療法）	56例（17例・13例）	神経内分泌腫瘍（NET）	18例（直腸11例、膵3例、その他4例：G1:16例、G2:2例）
胃癌（うちESD・化学療法）	152例（74例・19例）	神経内分泌細胞癌（NEC）	2例
GIST（胃・十二指腸・小腸・直腸）	7例（3・1・2・1例）	悪性リンパ腫	8例
胃潰瘍・十二指腸潰瘍・直腸潰瘍	34例・22例・4例	軟部肉腫	3例
食道・胃静脈瘤（うち破裂）	40・9例（9・3例）	肝細胞癌（うち化学療法）	84例（うち12例）
胃前庭部網細血管拡張症（GAVE）	8例	肝内胆管癌（うち化学療法）	13例（うち4例）
結腸毛細血管拡張症	2例	肝門部胆管癌（うち化学療法）	8例（うち1例）
大腸ポリープ	437例	B型・C型慢性肝炎	1例・0例
大腸癌・直腸癌（うちESD/EMR/化学療法）	145例・30例（26・61・18例）	劇症肝炎	1例
潰瘍性大腸炎・クローン病	20例・12例	急性肝炎	5例（うち1例EBウイルス感染）
腸閉塞／癒着性イレウス	80例（大腸癌による腸閉塞16例含む）	脂肪肝炎	3例
胃腸炎		急性肝機能障害	21例（うち薬剤性肝障害6例・アルコール性5例）
急性胃腸炎	9例	肝腫瘍	12例
虚血性大腸炎	40例	肝嚢胞（うち感染性）	13例（うち3例）
好酸球性胃腸炎	2例	肝硬変	76例（うちアルコール性肝硬変39例）
感染性腸炎	8例	自己免疫性肝炎（疑診含む）	4例
クロストリディオイデス・ディフシル腸炎	4例	原発性胆汁性胆管炎	4例
IgA血管炎による腸炎	2例	原発性硬化性胆管炎	1例
薬剤性腸炎	1例	IgG4関連胆管炎	1例
放射線性直腸炎	1例	膵癌（うち化学療法）	224例（44例）
大腸憩室疾患（憩室炎・憩室出血）	84例（26例・58例）	急性膵炎（うち重症急性膵炎、胆石性）	43例（7例・8例）

慢性膵炎	9例	十二指腸癌（うち化学療法）	11例（うち3例）
自己免疫性膵炎	1例	十二指腸腺腫	13例
膵管内乳頭粘液性腫瘍（IPMN・IPMC）	10例（5例・5例）	総胆管結石	145例
胆道癌（うち胆嚢癌/肝外胆管癌/乳頭部癌）	43例（12例/25例/6例）	急性胆嚢炎、急性胆管炎（うち総胆管結石胆管炎）	37例・119例（68例）
（化学療法）	（4例）	胆嚢穿孔	3例
		合計	2,484例

令和5年度 検査、治療実績

治療・術式		治療・術式	
消化器内視鏡検査	8,685件	食道静脈瘤硬化・結紮術(EIS、EVL)	72件
上部消化管内視鏡検査	4,688件	総胆管結石除去術	213件
大腸内視鏡検査	3,265件	胆道金属ステント留置術	32件
内視鏡的逆行性胆管膵管造影(ERCP)	619件	超音波内視鏡(EUS)	252件
ダブルバルーン小腸内視鏡検査	12件	超音波内視鏡下穿刺吸引法(EUS-FNA)	73件
カプセル小腸内視鏡検査	2件	肝動脈塞栓療法(TACE)	24件
内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)	137件	ラジオ波焼灼療法(RFA)	17件
大腸ポリープ内視鏡的粘膜切除術	1,661件	超音波ガイド下肝生検	25件
うちCSPのみ	1,095件	超音波ガイド下肝腫瘍生検	28件
消化管金属ステント留置術	42件	バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	4件

＜今後の課題＞

新型コロナウイルス感染症の収束に伴い、患者数が回復し増加傾向にある。これにより、スタッフの時間外労働が増加している。時間外労働を削減するため、業務の見直し、ワークシェアリング、ワークシフトの導入、および当番医体制への移行を計画している。ただし、施設の制約と内視鏡室の手狭さが運用上の課題となっており、限られた人材リソースの効率的活用に影響している。今後は外来診察室の拡張や内視鏡室の院内移転を含む施設拡充を行い、外来患者数と内視鏡検査数の増加をめざす。肝疾患については、抗ウイルス療法の進歩でウイルス性肝炎関連の疾患は減少する見込みだが、未発見の潜在患者の特定、アルコール依存や生活習慣病による肝疾患の予防および診療体制の強化、肝臓診療の質の向上、そして地域医療との連携強化が求められる。

＜研究研修事項＞

病院内研究研修会

肝胆膵合同症例検討会（消内、外、放）……週1回	消化器内科（胃腸膵）カンファレンス……週1回
消化器内科内視鏡検討会……週1回	内視鏡病理検討会……月2回
上部消化管症例検討会（消内、外）……週1回	下部消化管症例検討会（消内、外）……週1回
消化器内科胆膵カンファレンス……週1回	

学術・研修活動（市立豊中病院主催・共催・その他）

◎市立豊中病院主催・共催

■第9回豊中胃内視鏡検診勉強会 ◎

逆流性食道炎の薬物治療～2021年診療ガイドラインから～

西田 勉

豊中市、市立豊中病院

参加者：約50名

令和6年1月20日

■第9回豊中胃内視鏡検診勉強会 ◎

粘膜下腫瘍のさばき方～近年の知見を踏まえて～

山本政司

豊中市、市立豊中病院

参加者：約50名

令和6年1月20日

診療部門の現況と研究研修事項

I 医務局の現況と研究研修事項

■令和5年度「第1回豊中市医師会学術講演会」

一般診療において知っておきたいB型肝炎の診断と治療

松本健吾

豊中市、ホテルアイボリー

参加者：30名

令和5年4月8日

■UC cooperation Seminar 2023

処方件数からみた市立豊中病院における潰瘍性大腸炎の治療選択の現状

西田 勉

豊中市、千里ライフサイエンスセンター

参加者：35名

令和5年4月22日

■北摂IBD-WEB Forum

再発を繰り返すUCの治療戦略Up-to-data

西田 勉

Web開催

参加者：30名

令和5年7月13日

■第39回稀な腸疾患の内視鏡像を勉強する会

ダサチニブ関連大腸炎の2例

瀧山浩希、西田 勉

大阪市、ヒルトンプラザウエスト・オフィスタワー

参加者：40名

令和5年8月5日

■第11回大阪大学消化器内科学レジデント成果発表会

過去10年間における肝膿瘍症例の臨床的検討 -Fusobacterium肝膿瘍の臨床像の検討を中心に-

河村浩輔

吹田市、大阪大学コンベンションセンターMOホール

参加者：80名

令和5年10月15日

■消化器診療と安全管理セミナー

膵がんの予後改善をめざした当院の取り組み

松本健吾

豊中市、千里阪急ホテル

参加者：20名

令和5年10月26日

■Osaka Liver Lecture North Area

『当院における肝性脳症の診断・治療 ～改訂ガイドラインを踏まえた治療戦略～

松本健吾

豊中市、千里阪急ホテル

参加者：20名

令和5年11月22日

■Resident Web Seminar

市中病院で遭遇するCommon disease: 大腸憩室症 From bedside to evidence

西田 勉

Web開催

参加者：80名

令和5年11月28日

■豊中市薬剤師会研修会

逆流性食道炎と薬物治療: 2021年診療ガイドラインで何が変わった

西田 勉

Web開催

参加者：100名

令和6年1月23日

■肝癌診療の集学的治療を考える会

当院でのLEN+TACE治療経験からの考察

松本健吾

大阪市、エーザイ株式会社 大阪CO 会議室B

参加者：10名

令和6年3月13日

■北摂膵消化管神経内分泌腫瘍セミナー

十二指腸NETを合併し潰瘍再発を繰り返した多発性内分泌腫瘍症 (MEN1)の1例

阪本直洋

豊中市、千里ライフサイエンスセンター

参加者：30名

令和6年3月14日

■Gastric Cancer Meeting

内視鏡生検検体から治療へ：切除不能再発進行胃癌におけるHER2バイオマーカー

西田 勉

Web開催

参加者：50名

令和6年3月15日

■第31回Osaka Gut Form

潰瘍性大腸炎患者への5 -アミノサリチル酸製剤による寛解維持療法の最適化に向けた患者と医師への意識調査 -OGF2324-

大杉直人

大阪市、ホテル阪急インターナショナル

参加者：110名

令和6年3月22日

著書

■レジデントのための消化器内視鏡ことはじめ

西田 勉

1章 内視鏡の基礎、5 緊急内視鏡に必要な知識と準備 メジカルビュー社

令和5年5月

■放っておくと怖い脂肪肝のお話

福井浩司

月報 豊中市医師会

令和5年10月

■今日の治療指針2024

西田 勉

上部消化管内異物摘出法 医学書院

令和6年1月

刊行論文

■A follow-up questionnaire survey 2022 on radiation protection among 464 medical staff from 34 endoscopy-fluoroscopy departments in Japan.

Hayashi S, Takenaka M, Kogure H, Yakushijin T, Nakai Y, Ikezawa K, Yamaguchi S, Fujisawa T, Tamaru Y, Maetani I, Maruyama H, Asai S, Takagi T, Nagaike K, Hori Y, Sumiyoshi T, Tsumura H, Doyama H, Yoshio T, Hara K, Abe S, Oda I, Kato M, Nebiki H, Mikami T, Miyazaki M, Matsunaga K, Hosono M, Nishida T; REX - GI Study Group.

DEN Open 3 (1) : e227, 2023

■Radiation dose and factors related to exceeding the diagnostic reference level in 496 transnasal ileus tube placement procedures from the REX-GI study.

Nagaike K, Hayashi S, Yakushijin T, Yamamoto M, Sumiyoshi T, Yamaguchi S, Tamaru Y, Yamada T, Tsumura H, Nakai Y, Doyama H, Maetani I, Takagi T, Asai S, Matsubara K, Takenaka M, Hosono M, Nishida T.

Br J Radiol 96 (1146) : 20230086, 2023

■Letter: Potassium-competitive acid blockers may increase the risk of gastric cancer after Helicobacter pylori eradication a retrospective multicentre-cohort analysis.

Arai J, Hayakawa Y, Niikura R, Ihara S, Aoki T, Honda T, Okamura T, Hasatani K, Yoshida N, Nishida T, Sumiyoshi T, Kiyotoki S, Ikeya T, Arai M, Fujishiro M.

Aliment Pharmacol Ther. 57 (10) : 1196-1198, 2023

■Antithrombotic drug use does not affect the fecal immunochemical test PPV for colorectal cancer, but warfarin may have an impact in a Japanese cohort.

Sakamoto T, Nishida T, Nakamatsu D, Watanabe A, Kitanaka T, Minoura Y, Hosokawa K, Okabe S, Sakamoto N, Fujii Y, Osugi N, Sugimoto A, Matsumoto K, Hayashi S, Nakajima S, Yamamoto M.

Asia Pac J Clin Oncol. Online ahead of print., 2023

■Gastrointestinal symptoms in 609 Japanese patients with COVID-19: a single-center retrospective study.

Kuriki S, Nishida T, Chang LS, Hosokawa K, Fujii Y, Osugi N, Nakamatsu D, Matsumoto K, Yamamoto M, Morimura O, Abe K, Okauchi Y, Iwahashi H, Inada M.

Scand J Gastroenterol. 58 (10) : 1139-1144, 2023

■Occupational radiation exposure to the lens of the eyes and its protection during endoscopic retrograde cholangiopancreatography.

Ikezawa K, Hayashi S, Takenaka M, Yakushijin T, Nagaike K, Takada R, Yamai T, Matsumoto K, Yamamoto M, Omoto S, Minaga K, Ishii S, Shimizu T, Nagai K, Hosono M, Nishida T.

Sci Rep. 13 (1) : 7824, 2023

- Association of probiotic use with nivolumab effectiveness against various cancers: A multicenter retrospective cohort study.
Arai J, Niikura R, Hayakawa Y, Suzuki N, Honda T, Okamura T, Hasatani K, Yoshida N, Nishida T, Sumiyoshi T, Kiyotoki S, Ikeya T, Arai M, Boku N, Fujishiro M.
Cancer Med 12 (16) : 16876-16880, 2023
- Drug-induced Interstitial Nephritis in a Patient with Ulcerative Colitis Treated with 5-Aminosalicylic Acid: A Case Report.
Hayashi D, Nishida T, Osugi N, Kusunoki Y, Okabe S, Fujii Y, Nakamatsu D, Matsumoto K, Yamamoto M, Fukui K.
Intern Med. Online ahead of print., 2023
- Impact of Initial Body Weight Loss on Prognosis in Advanced Pancreatic Cancer: Insights From a Single-Center Retrospective Study.
Hosokawa K, Nishida T, Hayashi D, Kitazawa M, Masuda H, Tono K, Katanosaka Y, Sakamoto N, Fujii Y, Sugimoto A, Nakamatsu D, Matsumoto K, Yamamoto M, Fukui K.
Cancer Control. Jan-Dec:30 : 10732748231204719, 2023
- Glucose control in the early phase of hospitalization is associated with severe prognosis in coronavirus disease 2019 (COVID-19) patients with diabetes in Japan.
Okauchi Y, Sakamoto R, Kaketaka T, Yamabayashi E, Kubori M, Inada S, Morimura O, Otani Y, Abe K, Nishida T, Iwahashi H.
Diabetol Int. 14 (4) : 406-412, 2023
- Clinical outcome of patients treated with endoscopic decompression after failure of detorsion for uncomplicated sigmoid volvulus.
Nakamatsu D, Nishida T, Sugimoto A, Matsumoto K, Yamamoto M.
DEN Open 4 (1) : e299, 2023
- Medical radiation exposure during gastrointestinal enteral metallic stent placement: Post hoc analysis of the REX-GI study.
Tokura J, Yoshio T, Hayashi S, Yamamoto M, Asai S, Yakushijin T, Ikezawa K, Nagaike K, Takagi T, Fujisawa T, Yamada T, Tsumura H, Maetani I, Hori Y, Ihara H, Matsunaga K, Kuwai T, Ito Y, Hasatani K, Komeda Y, Kurita A, Yamaguchi S, Maruyama H, Iwashita T, Takenaka M, Hosono M, Nishida T.
JGH Open 7 (12) : 869-874, 2023
- Persistent Nausea and Gastrointestinal Distention: A Case Report of Aerophagia.
Nishida T, Higaki Y, Watabe K.
Cureus 15 (12) : e50070, 2023
- Utility and advantage of the unroofing technique for gastrointestinal subepithelial tumors: A multicenter retrospective cohort study.
Yamamoto M, Nishida T, Uema R, Kanesaka T, Ogawa H, Kitamura S, Iijima H, Nagai K, Tsutsui S, Komori M, Yamamoto K, Tsujii Y, Hayashi Y, Takehara T.
DEN Open. 4 (1) : e332, 2023
- 5-Aminosalicylic Acid-Induced Liver Injury in a Patient with Ulcerative Colitis: A Case Report.
Watanabe A, Nishida T, Osugi N, Kitanaka T, Minoura Y, Okabe S, Sakamoto N, Fujii Y, Sugimoto A, Nakamatsu D, Matsumoto K, Yamamoto M, Adachi S, Fukui K.
Case Rep Gastroenterol. 18 (1) : 39-48, 2023

- Impact of time from diagnosis to chemotherapy on prognosis in advanced pancreatic cancer.
Nishida T, Sugimoto A, Hosokawa K, Masuda H, Okabe S, Fujii Y, Nakamatsu D, Matsumoto K, Yamamoto M, Fukui K.
Jpn J Clin Oncol. Epub ahead of print, 2023
- Effect of continuation and discontinuation of antithrombotic agents after lower gastrointestinal bleeding
Yasutoshi Shiratori, Ryota Niikura, Tsutomu Nishida, Tetsuro Honda, Kenkei Hasatani, Shigetsugu Tsuji, Tetsuya Sumiyoshi, Tomoki Fujita, Shu Kiyotoki, Tomoyuki Yada, Katsumi Yamamoto, Tomohiro Shinozaki, Takashi Ikeya, Atsuo Yamada, Mitsuhiro Fujishiro, Katsuyuki Fukuda.
Progress of Digestive Endoscopy 103 (1) : 40-47, 2023
- 異時性に食道病変が出現した好酸球性胃腸炎の1例
浜辺友也、中松 大、藤井祥史、大杉直人、杉本 彩、松本健吾、向井香織、山本政司、西田 勉、田村裕美
日本消化器内視鏡学会雑誌 65 (9) : 1421-1427, 2023
- Efficacy and associated factors of endoscopic transpapillary drainage for postoperative biliary leakage.
Murata J, Shigekawa M, Ishii S, Suda T, Ikezawa K, Hirao M, Matsumoto K, Kegawasa T, Iwahashi K, Iio S, Nakanishi F, Nakazuru S, Yoshida Y, Yamai T, Sato K, Yoshioka T, Hikita H, Tatsumi T, Takehara T.
DEN Open 4 (1) : e281, 2023
- Association between perioperative management of antiplatelet agents and risk of post-endoscopic submucosal dissection bleeding in early gastric cancer: analysis of a nationwide multicenter study.
Miura Y, Tsuji Y, Yoshio T, Hatta W, Yabuuchi Y, Hoteya S, Kikuchi D, Tsuji S, Nagami Y, Hikichi T, Kobayashi M, Morita Y, Sumiyoshi T, Iguchi M, Tomida H, Inoue T, Mikami T, Hasatani K, Nishikawa J, Matsumura T, Nebiki H, Nakamatsu D, Ohnita K, Suzuki H, Ueyama H, Hayashi Y, Sugimoto M, Yamaguchi S, Michida T, Yada T, Asahina Y, Narasaka T, Kuribayashi S, Kiyotoki S, Mabe K, Masamune A, Fujishiro M.
Gastrointest Endosc. 97 (5) : 889-897, 2023
- Pretreatment with antibiotics is associated with reduced therapeutic response to atezolizumab plus bevacizumab in patients with hepatocellular carcinoma.
Maesaka K, Sakamori R, Yamada R, Doi A, Tahata Y, Ohkawa K, Oshita M, Miyazaki M, Yakushijin T, Nozaki Y, Matsumoto K, Tanaka S, Kaneko A, Iio S, Nawa T, Yamada Y, Morishita N, Usui T, Hiramatsu N, Doi Y, Sakakibara M, Imanaka K, Yoshida Y, Kodama T, Hikita H, Tatsumi T, Takehara T.
PLoS One 18 (2) : e0281459, 2023
- Efficacy of prophylactic clip closure in reducing the risk of delayed bleeding after colorectal endoscopic submucosal dissection in patients on anticoagulant therapy: Multicenter prospective study.
Ogiyama H, Kato M, Yamaguchi S, Kanesaka T, Yamada T, Yamamoto M, Komori M, Nagaike K, Nakahara M, Tsutsui S, Tsujii Y, Saita R, Iijima H, Hayashi Y, Takehara T.
Dig Endosc Epub ahead of print, 2024
- Non-Pure Intestinal Phenotype as an Indicator of Progression in Sporadic Nonampullary Duodenal Adenomas: A Multicenter Retrospective Cohort Study.
Uema R, Hayashi Y, Komori M, Shibukawa N, Hayashi N, Horimoto M, Yamada T, Yamamoto M, Hiyama S, Kinoshita K, Ogiyama H, Yamaguchi S, Egawa S, Kanesaka T, Kato M, Yoshii S, Tsujii Y, Keiichiro H, Shinzaki S, Iijima H, Morii E, Takehara T.
Clin Transl Gastroenterol 15 (1) : e00649, 2024

- Clinical factors associated with the therapeutic efficacy of atezolizumab plus bevacizumab in patients with unresectable hepatocellular carcinoma: A multicenter prospective observational study.
Kai M, Hikita H, Kazuki M, Tahata Y, Shinkai K, Doi A, Ohkawa K, Miyazaki M, Ishida H, Matsumoto K, Nozaki Y, Yakushijin T, Sakamori R, Kaneko A, Iio S, Nawa T, Kakita N, Morishita N, Hiramatsu N, Usui T, Imanaka K, Doi Y, Sakakibara M, Yoshida Y, Oze T, Kodama T, Tatsumi T, Takehara T.
PLoS One 19 (1) : e0294590, 2024
- The relationship between observation interval and prognosis in pancreatic cancer concomitant with intraductal papillary mucinous neoplasia.
Yoshioka T, Shigekawa M, Ikezawa K, Hirao M, Ishii S, Suda T, Kegasawa T, Matsumoto K, Iwahashi K, Murata J, Kaneko A, Nakazuru S, Yamamoto S, Matsumae T, Kozumi K, Sato Y, Okabe J, Sato K, Hikita H, Sakamori R, Tatsumi T, Takehara T.
Pancreatology. 24 (1) : 73-77, 2024
- Adverse events of self-expandable metal stent placement for malignant distal biliary obstruction: a large multicenter study.
Tamura T, Yamai T, Uza N, Yamasaki T, Masuda A, Tomooka F, Maruyama H, Shigekawa M, Ogura T, Kuriyama K, Asada M, Matsumoto H, Takenaka M, Mandai K, Osaki Y, Matsumoto K, Sanuki T, Shiomi H, Yamagata Y, Doi T, Inatomi O, Nakanishi F, Emori T, Shimatani M, Asai S, Fujigaki S, Shimokawa T, Kitano M.
Gastrointest Endosc. 99 (1) : 61-72, 2024
- Endoscopic Removal and Conservative Treatment of a Small Bowel Perforation Caused by a Toothpick: A Case Report
Watanabe A, Nakamatsu D, Nishida T, Fujii Y, Osugi N, Matsumoto K, Yamamoto M, Fukui K.
Cureus 16 (3) : e57254, 2024

学会発表

- 消化器領域における透視下手技の放射線照射量・多施設前向き観察研究（REX-GI試験）
西田 勉、林 史郎、竹中 完
第109回日本消化器病学会総会 長崎 長崎市、出島メッセ長崎 令和5年4月6日－8日
- 853 OCCUPATIONAL RADIATION EXPOSURE TO THE LENS OF THE EYES DURING ENDOSCOPIC RETROGRADE CHOLANGIOPANCREATOGRAPHY (ERCP): A MULTICENTER PROSPECTIVE OBSERVATIONAL STUDY
Kenji Ikezawa, Shiro Hayashi, Mamoru Takenaka, Takayuki Yakushijin, Koji Nagaike, Ryoji Takada, Takuo Yamai, Kengo Matsumoto, Masashi Yamamoto, Shunsuke Omoto, Kosuke Minaga, Shuji Ishii, Takeshi Shimizu, Kengo Nagai, Makoto Hosono, Tsutomu Nishida.
DDW2023 USA Chicago、McCormick Place 令和5年5月6日－9日
- ERCP 後膵炎高危険群における予防的膵管ステント留置の有用性
藤井祥史、西田 勉、渡邊明日花、北中崇雄、細川香菜、箕浦悠太郎、岡部 悟、阪本直洋、大杉 直人、杉本 彩、中松 大、松本健吾、山本政司、福井浩司
第105回日本消化器内視鏡学会総会 東京 品川区、グランドプリンスホテル新高輪 令和5年5月25日－27日
- 内視鏡切除を行い確定診断した十二指腸ブルネル腺過誤腫の1例
稲見佳奈、中松 大、渡邊明日花、北中崇雄、箕浦悠太郎、細川香菜、岡部 悟、阪本直洋、藤井祥史、大杉直人、杉本 彩、松本健吾、山本政司、福井浩司、西田 勉
第110回日本消化器内視鏡病学会近畿支部例会 大阪市、大阪国際会議場 令和5年6月24日

■胃原発異所性インスリノーマの1例

北中崇雄、阪本直洋、西田 勉、渡邊明日花、細川香菜、箕浦悠太郎、岡部 悟、藤井祥史、大杉直人、杉本 彩、中松 大、松本健吾、山本政司、福井浩司

第110回日本消化器内視鏡病学会近畿支部例会 大阪市、大阪国際会議場 令和5年6月24日

■内視鏡的に摘出し保存的加療が可能であった異物による小腸穿通の一例

渡邊明日花、中松 大、北中崇雄、箕浦悠太郎、細川香菜、岡部 悟、阪本直洋、藤井祥史、大杉直人、杉本 彩、松本健吾、山本政司、福井浩司、西田 勉

第110回日本消化器内視鏡病学会近畿支部例会 大阪市、大阪国際会議場 令和5年6月24日

■夜間・休日の消化管出血に対する緊急内視鏡を安全に行うチーム医療体制の構築:課題と対策

山本政司、西田 勉、松本健吾、中松 大、大杉直人

第110回日本消化器内視鏡病学会近畿支部例会 大阪市、大阪国際会議場 令和5年6月24日

■膵神経内分泌腫瘍(GI/G3)と通常型膵癌が併存した1例

林 大智、山本政司、北澤みはる、片之坂佑彦、瀧山浩希、東野克温、増田 遥、河村浩輔、岡部 悟、阪本直洋、藤井祥史、大杉直人、杉本 彩、中松 大、松本健吾、福井浩司、西田 勉

第119回日本消化器病学会近畿支部例会 大阪市、大阪国際会議場 令和5年9月30日

■GCS療法で長期治療後にペミガチニブが奏功した切除不能肝内胆管癌の1例

北澤みはる、阪本直洋、林 大智、片之坂佑彦、瀧山浩希、東野克温、増田 遥、河村浩輔、岡部 悟、藤井祥史、大杉直人、杉本 彩、中松 大、松本健吾、山本政司、福井浩司、西田 勉

第119回日本消化器病学会近畿支部例会 大阪市、大阪国際会議場 令和5年9月30日

■開腹生検にて確定診断した硬化性腸間膜炎の1例

瀧山浩希、山本政司、北澤みはる、林 大智、片之坂佑彦、東野克温、増田 遥、河村浩輔、岡部 悟、阪本直洋、藤井祥史、大杉直人、杉本 彩、中松 大、松本健吾、福井浩司、西田 勉

第119回日本消化器病学会近畿支部例会 大阪市、大阪国際会議場 令和5年9月30日

■腹部症状を契機に診断された膵動静脈血管奇形の1例

東野克温、松本健吾、北澤みはる、林 大智、片之坂佑彦、増田 遥、瀧山浩希、河村浩輔、岡部 悟、阪本直洋、藤井祥史、大杉直人、杉本 彩、中松 大、山本政司、福井浩司、西田 勉

第119回日本消化器病学会近畿支部例会 大阪市、大阪国際会議場 令和5年9月30日

■Utility and Advantage of the Unroofing Technique for Gastrointestinal Subepithelial Tumors: A Multicenter Retrospective Cohort Study

Masashi Yamamoto, Tsutomu Nishida, Ryotaro Uema, Tkashi Kanesaka, Hiroyuki Ogawa, Shinji Kitamura, Hideki Iijima, Kengo Nagai, Shusaku Tsutsui, Msato Komori, Katsumi Yamamoto, Yoshiki Tsujii, Yoshito Hayashi, Tetsuo Takehara.

UEGW Denmark Denmark、Vella Center 令和5年10月14日－17日

■高齢者における表在型食道癌治癒後の他臓器癌と長期予後について

田尻絢香、辻井芳樹、西田 勉、井上拓也、前川 聡、北村信次、山口真二郎、西原彰浩、山田拓哉、荻山秀治、村山洋子、山本俊祐、林 義人、竹原徹郎

JDDW 兵庫県 神戸市、神戸国際会議場 令和5年11月2日－6日

■消化管粘膜下腫瘍における開窓生検法の有用性の検討

山本政司、西田 勉、上間遼太郎、金坂 卓、小川弘之、北村信次、飯島英樹、長井健吾、筒井秀作、小森真人、山本克己、林 義人、竹原徹郎

JDDW 兵庫県 神戸市、神戸国際会議場 令和5年11月2日－6日

■表在食道癌の内視鏡治療による治癒後の他臓器癌と長期予後について

田尻絢香、辻井芳樹、竹原徹郎、西田 勉、井上拓也

第111回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会 大阪市、大阪国際会議場 令和5年11月18日

■細径内視鏡を用いて食道ESDを施行した1例

増田 遥、山本政司、林 大智、北澤みはる、片之坂佑彦、瀧山浩希、東野克温、河村浩輔、
岡部 悟、阪本直洋、藤井祥史、大杉直人、杉本 彩、中松 大、松本健吾、福井浩司、西田 勉
第111回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会 大阪市、大阪国際会議場 令和5年11月18日

■原発病変の病理学的悪性度による異なる内視鏡所見を呈した乳癌胃転移の2例

北澤みはる、阪本直洋、林 大智、片之坂佑彦、瀧山浩希、東野克温、増田 遥、河村浩輔、
岡部 悟、藤井祥史、大杉直人、杉本 彩、中松 大、松本健吾、山本政司、福井浩司、西田 勉
第111回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会 大阪市、大阪国際会議場 令和5年11月18日

■大腸ステント管理に難渋した膵癌横行結腸浸潤による大腸閉塞の1例

東野克温、山本政司、北澤みはる、林 大智、片之坂佑彦、増田 遥、瀧山浩希、河村浩輔、
岡部 悟、阪本直洋、藤井祥史、大杉直人、杉本 彩、中松 大、松本健吾、福井浩司、西田 勉
第111回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会 大阪市、大阪国際会議場 令和5年11月18日

■長期経過観察を行なったダサチニブ関連大腸炎の一例

瀧山浩希、山本政司、北澤みはる、林 大智、片之坂佑彦、東野克温、増田 遥、河村浩輔、
岡部 悟、阪本直洋、藤井祥史、大杉直人、杉本 彩、中松 大、松本健吾、福井浩司、西田 勉
第111回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会 大阪市、大阪国際会議場 令和5年11月18日

■長期アミオダロン内服の経過中に急性肝障害をきたした1例

林 大智、岡部 悟、北澤みはる、瀧山浩希、東野克温、片之坂佑彦、増田 遥、河村浩輔、
阪本直洋、藤井祥史、大杉直人、杉本 彩、中松 大、松本健吾、山本政司、福井浩司、西田 勉
第120回日本消化器病学会近畿支部例会 兵庫県 神戸市、神戸国際会議場 令和6年1月27日

■腎癌術後18年目に膵転移をきたした1例

三宅麻友、三宅麻友、瀧山浩希、松本健吾、北澤みはる、林 大智、増田 遥、片之坂佑彦、
東野克温、阪本直洋、岡部 悟、藤井祥史、大杉直人、杉本 彩、中松 大、山本政司、福井浩司、
西田 勉
第120回日本消化器病学会近畿支部例会 兵庫県 神戸市、神戸国際会議場 令和6年1月27日

■潰瘍性大腸炎関連腫瘍に対し診断的治療目的にESDを施行した一例

瀧山浩希、中松 大、北澤みはる、林 大智、片之坂佑彦、東野克温、増田 遥、河村浩輔、
岡部 悟、阪本直洋、藤井祥史、大杉直人、杉本 彩、松本健吾、山本政司、福井浩司、西田 勉
第120回日本消化器病学会近畿支部例会 兵庫県 神戸市、神戸国際会議場 令和6年1月27日

■回結腸動脈仮性動脈瘤破裂による大腸憩室出血の1例

片之坂佑彦、阪本直洋、北澤みはる、林 大智、瀧山浩希、東野克温、増田 遥、河村浩輔、
岡部 悟、藤井祥史、大杉直人、杉本 彩、中松 大、松本健吾、山本政司、福井浩司、西田 勉
第120回日本消化器病学会近畿支部例会 兵庫県 神戸市、神戸国際会議場 令和6年1月27日

■経口 GLP-1 受容体作動薬セマグルチドによる腸管気腫症が疑われた1例

奥野巴琉音、阪本直洋、藤井祥史、大杉直人、杉本 彩、中松 大、松本健吾、山本政司、福井浩司、
西田 勉
第243回日本内科学会近畿地方会 大阪市、梅田スカイビル 令和6年3月16日

研究会・集談会発表

■C型肝炎根絶に向けた医療連携の重要性について

福井浩司
第1回豊中市医師会学術講演会 豊中市、ホテルアイボリー 令和5年4月8日

■肝疾患診療のピットフォール～ウイルス性肝炎、脂肪肝～

福井浩司

消化器診療と安全管理セミナー

豊中市、千里阪急ホテル

令和5年10月26日

■知らないところの脂肪肝のお話

福井浩司

市民向け健康講演会

豊中市、豊中市医療保健センター

令和5年10月28日

■症例提示(十二指腸Brunner腺過誤腫の一例)

藤井祥史

第487回大阪胃研究会

大阪市、Web開催

令和6年1月10日

■市立豊中病院における中等症～重症UCに対する治療戦略～ミリキズマブのポジショニングについて～

大杉直人

北摂Riynd Table Discussion on UC

豊中市、千里阪急ホテル

令和6年2月16日

■肝細胞癌の薬物療法・治療の流れについて

福井浩司

西淀川区薬薬連携セミナー2024

大阪市、あおぞら薬局

令和6年3月16日

講習・講演

■ESD Hands on Seminar

山本政司

北摂内視鏡治療研究会

吹田市、千里ライフサイエンスセンター

令和5年10月9日

■がんという病気

西田 勉

がん教育出張

豊中市、豊中市立第十四中学校

令和5年10月13日

司会・座長・その他

■座長：西田 勉

「クローン病治療における栄養療法の役割」「IBD増悪に季節やストレスは関与するのか」

演者：滋賀医科大学医学部看護学科基礎看護学講座 馬場重樹、

兵庫医科大学消化器内科学 新崎信一郎

第229回北摂エリア腸疾患勉強会

豊中市、千里ライフサイエンスセンター

令和5年5月13日

■座長：西田 勉、今川 敦

当院における上部消化管内視鏡検査の標準化に向けた取り組みとその効果、その他

演者：日本医科大学千葉北総病院 消化器内科 飽本哲兵、その他

第10回 内視鏡検査・周術期管理の標準化に向けた研究会

東京都 品川区、TKP 品川カンファレンスセンターANNEX ホール 1

令和5年5月27日

■座長：西田 勉

「免疫チェックポイント阻害剤が生み出す消化器病治療」

「消化器癌に対する重粒子線の現状と展望」

演者：大阪市立総合医療センター 秋吉宏平、大阪重粒子センター 鈴木 修

MSD消化器セミナー

大阪市、コンラッド大阪

令和5年9月1日

■座長：西田 勉

大阪府のがんゲノム医療連携病院 当院の3年間の報告と課題

演者：市立豊中病院 二宮由紀恵

第3回市立豊中病院がんゲノム医療セミナー

豊中市、市立豊中病院

令和5年9月29日

診療部門の現況と研究研修事項

I 医務局の現況と研究研修事項

■座長：西田 勉

「直腸NET症例からの検討」「膵NET症例からの検討」

演者：関西労災病院 太田高志、大阪大学消化器内科 重川 稔

NEW Web Conference Osaka 2023～これからのNEN診療を考える

Web開催 令和5年10月16日

■座長：福井浩司

当院におけるウイルス性肝炎への取り組み～院内連携含む～

演者：兵庫県立淡路医療センター 高橋直太郎

Micro Eliminators in Kinki-Tokai 2023

Web開催 令和5年10月21日

■座長：福井浩司

当院におけるHCV抗体陽性者に対する院内連携の取り組み～ナッジ理論による行動変容～

演者：近江八幡市立総合医療センター 楊 孝治

Micro Eliminators in Kinki-Tokai 2023

Web開催 令和5年10月21日

■座長：西田 勉

検査結果告知漏れ対策の重要性～医療安全の立場から～

演者：関西医科大学医療安全管理センター 宮崎浩彰

消化器診療と安全管理セミナー

豊中市、千里阪急ホテル

令和5年10月26日

■座長：西田 勉

Trisomi8陽性骨髄異型症候群に合併した腸管バーチェット病類似腸炎の1例、その他

演者：市立伊丹病院 山下勇大

北摂・阪神IBD Seminar

大阪市、ホテル阪急インターナショナル

令和5年11月11日

■座長：松本健吾

脂肪性肝疾患症例におけるイベント発生リスクの検討

演者：大阪医療センター 阿部友太郎

第36回OLF研究発表会

大阪府、ホテル阪急インターナショナル4 F

令和5年11月24日

■司会：山本政司

「十二指腸過誤腫の1例」、他

演者：市立豊中病院 藤井祥史、他

第487回大阪胃研究会

大阪市、梅田スカイビルタワーウエスト

令和6年1月10日

■座長：西田 勉

除菌後胃癌の内視鏡診断:その胃癌、見逃していませんか？

演者：がん研有明病院 平澤俊明

第9回豊中胃内視鏡検診勉強会

豊中市、市立豊中病院

令和6年1月20日

■座長：福井浩司

複合免疫療法時代におけるレンバチニブのポジショニング

演者：近畿大学 上嶋一臣

肝癌診療の集学的治療を考える会

大阪府 大阪市、エーザイ株式会社

令和6年3月13日

受賞

■令和4年度大阪がん予防対策基金研究助成

松本健吾

大阪府保険医療財団

大阪市、大阪がん循環器病予防センター

令和5年4月25日

8. 循環器内科

<現 況>

循環器内科は専門病床31床とCCU3床を有しており、急性期から慢性期の循環器疾患全般に対応している。当科はスタッフ9名（非常勤1名）、初期研修医1－2名で構成されている。心臓血管外科とともに「心臓病センター」として院外からの心疾患救急専用ダイレクトコールに対応し、24時間体制で豊能医療圏の循環器救急診療を担っている。当院は循環器専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設に認定されており若手医師の教育にも力を入れている。

①令和5年度の心臓カテーテル検査・治療、ペースメーカ植え込み術は以下のとおりである。

緊急PCI 71件、待機PCI 105件、緊急CAG（検査のみ）48件、待機CAG（検査のみ）282件、ペースメーカ植え込み（電池交換も含む）79件

②令和5年度は血管撮影装置の経年劣化に対して新装置への更新工事を行ったため、心カテーテル検査や治療制限を余儀なくされた。またスタッフ不足による土日祝日の緊急診療が制限されたことから例年にくらべPCI件数は70件ほど減少した。しかし令和4年度の入院患者869名に対して令和5年度は928名に増加しており、診療制限のなか例年以上の入院患者対応を行うことができた。

③心不全の原因の一つである心筋疾患の診断に重点をおき、診断ツールの拡充を行った。具体的には心臓MRI、心筋生検、および心アミロイドーシスを診断するためのピロリン酸シンチグラフィなどを組み込むことで、より適切な診断を行うことが可能となった。

④弁膜症疾患を正確に診断するため、経食道心エコー検査を積極的に行った結果、検査症例数が増加した。心筋症と弁膜症の正確な診断が可能となり、大阪大学医学部附属病院循環器内科と緊密に連絡を取り合うことで、患者によりよい治療を提供できるようになった。

⑤高齢患者が増える中、体に優しい治療を心がけている。いわゆる『リードレスペースメーカ』を、適応患者には積極的に使用しており、令和5年度には8名の新規患者に対して植え込みを行った。

⑥超高齢心不全患者は、多くの併存疾患やFrailtyを合わせ持ち、再入院率も高い。このような患者には入院時から退院後の生活を見据えた多職種カンファレンスを行い、かかりつけ医や往診クリニックとの連携に力をいれて円滑な退院支援を行ってきた。

⑦末期心不全患者のACP/緩和ケアという課題も慢性心不全看護認定看護師を中心に緩和ケアチームと協同して積極的に取り組むことができた。

<今後の課題>

心臓病センター循環器内科は“全人的で心温かな心臓病治療”を行うことを信条としているが、今後の課題としては下記事項があげられる。

1. 豊能医療圏における当院の役割を明確化し、救急心疾患対応を充実させ、医療圏全体の診療レベル向上に貢献する。
2. 外来機能の適正化・整理を行い、地域医療機関からの新規紹介患者数の増加をめざす。
3. 働き方改革の一環として、持続可能な循環器診療体制を構築する。
4. 循環器内科を志す若手医師に対する教育体制を充実させ、循環器診療に携わる多職種スタッフのスキルアップを支援する。
5. 地域の医療機関や地域の多職種と連携可能なサポートシステムを構築する。
6. 心不全パンデミックに対応すべく、「地域連携型心臓リハビリテーション」を普及させる。
7. 心不全の緩和ケアおよびACPを実践し、患者に寄り添ったチーム医療を提供しつつ、地域の医療機関とも情報共有していく。

<研究研修事項>

病院内研究研修会

循環器内科症例検討会……………週1回	心不全学習会
心臓病学習会……………年3回	「心不全在宅診療の実際～病診連携を通じて地域を支える～」
不整脈勉強会	(かすがいクリニック 大森洋介先生)……………年1回
(大阪大学循環器内科 岡 崇史先生)……………年2回	重症心不全勉強会
	(国立循環器病研究センター 塚本泰正先生) ……年1回

学術・研修活動（市立豊中病院主催・共催・その他）

◎市立豊中病院主催・共催

■心不全治療におけるSGLT2阻害剤

林 隆治

第375回臨床心臓病研究会

大阪市、ジェックス研修センター

令和5年11月18日

刊行論文

■Geriatric nutritional risk index as readmission predictor in older adults with heart failure irrespective of ejection fraction

Sato Y, Kumada M, Kawai H, Motoyama S, Sarai M, Nakagawa T, Izawa H.

Fujita Med J. 9 (3) : 211-217, 2023

■Efficacy of azilsartan on left ventricular diastolic dysfunction compared with candesartan: J-TASTE randomized controlled trial

Ito S, Takahama H, Asakura M, Abe Y, Ajioka M, Anzai T, Arikawa T, Hayashi T, Higashino Y, Hiramitsu S, Iwahashi N, Izumi C, Kimura K, Kinugawa K, Kioka H, Lim YJ, Matsuoka K, Matsuoka S, Motoki H, Nakamura S, Nakayama T, Nomura A, Sasaoka T, Takiuchi S, Toyoda S, Ueda T, Watanabe T, Yamada A, Yamamoto M, Sozu T, Kitakaze M.

Sci Rep. 13 (1) : 12517, 2023

■Medications for specific phenotypes of heart failure with preserved ejection fraction classified by a machine learning-based clustering model

Sotomi Y, Hikoso S, Nakatani D, Okada K, Dohi T, Sunaga A, Kida H, Sato T, Matsuoka Y, Kitamura T, Komukai S, Seo M, Yano M, Hayashi T, Nakagawa A, Nakagawa Y, Tamaki S, Ohtani T, Yasumura Y, Yamada T, Sakata Y.

Heart 109 (16) : 1231-1240, 2023

■The WATCH-DM risk score estimates clinical outcomes in type 2 diabetic patients with heart failure with preserved ejection fraction

Iwakura K, Onishi T, Okamura A, Koyama Y, Tanaka N, Okada M, Fujii K, Seo M, Yamada T, Yano M, Hayashi T, Yasumura Y, Nakagawa Y, Tamaki S, Nakagawa A, Sotomi Y, Hikoso S, Nakatani D, Sakata Y.

Sci. Rep. 14(1) : 1746, 2024

■Infective endocarditis with a vegetation extending from an aortic annulus abscess to the right atrium

Shiba M, Hayashi T, Ichibori Y, Kitade K, Mori H, Hirayama A, Higuchi Y.

J Echocardiogr. 22(1) : 65-66, 2024

- Pathophysiological insights into machine learning-based subphenotypes of acute heart failure with preserved ejection fraction

Sotomi Y, Tamaki S, Hikoso S, Nakatani D, Okada K, Dohi T, Sunaga A, Kida H, Sato T, Matsuoka Y, Sakamoto D, Kitamura T, Komukai S, Seo M, Yano M, Hayashi T, Nakagawa A, Nakagawa Y, Ohtani T, Yasumura Y, Yamada T, Sakata Y.

Heart 110 (6) : 441-447, 2024

学会発表

- Pressure overload induce phospholipase A2-mediated lysophosphatidylserine production, leading to necrotic cardiomyocyte death and heart failure via G protein-coupled receptor 34

杉原隆太

第7回日本循環器学会基礎研究フォーラム

兵庫県 神戸市、神戸国際会議場 令和5年12月9日－10日

- 心不全発症を契機に発見された高齢三心房心の一例

石元瑛仁、岡崎由典、宮岡 愛、福島直樹、飯田卓馬、福岡秀忠、坂本陽子、林 隆治、熊田全裕、中川 理

第136回日本循環器学会近畿地方会

大阪市、ナレッジキャピタル

令和5年12月16日

- 左下肢動脈閉塞症を契機にlotus root-like appearanceの冠動脈病変が判明した若年男性の一例

太田瑞貴、福岡秀忠、熊田全裕、林 隆治、坂本陽子、岡崎由典、飯田卓馬、福島直樹、中川 理

第136回日本循環器学会近畿地方会

大阪市、ナレッジキャピタル

令和5年12月16日

- IgG4 関連疾患による冠動脈瘤の一例

飯田卓馬、宮岡 愛、杉原隆太、福島直樹、福岡秀忠、岡崎由典、林 隆治、熊田全裕、中川 理、三隅祐輔、吉岡大輔、宮川 繁

第42回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会

大阪市、ナレッジキャピタル

令和6年3月2日

- Deterioration of Diastolic Function in the Low HFA-PEFF Group over Time -From Insight of PURSUIT-HFpEF Registry

福島直樹、林 隆治、久保山 愛、飯田卓馬、福岡 秀忠、岡崎由典、熊田全裕、中川 理、山田貴久、安村良男、瀬尾昌裕、矢野正道、中川彰人、中川雄介、玉置俊介、外海洋平、中谷大作、彦惣俊吾、坂田泰史

第88回日本循環器学会学術集会

兵庫県 神戸市、神戸コンベンションセンター

令和6年3月8日－10日

- 経皮的腎動脈形成術(PTRA)により高血圧、進行性腎障害が改善した心不全既往を有する両側腎臓脈狭窄の一例

富松侑真、福島直樹、熊田全裕、林 隆治、岡崎由典、福岡秀忠、飯田卓馬、杉原隆太、宮岡 愛、中川 理

第134回日本循環器学会近畿地方会

大阪市、梅田スカイビル

令和6年3月16日

研究会・集談会発表

- 「左下肢動脈閉塞症を契機にlotus root-like appearanceの冠動脈病変が判明した若年男性の一例

太田瑞貴、福岡秀忠、熊田全裕、林 隆治、坂本陽子、岡崎由典、飯田卓馬、福島直樹、中川 理

第29回中之島循環器・代謝フォーラム

大阪市、梅田スカイビルタワーウエスト

令和5年10月28日

診療部門の現況と研究研修事項

I 医務局の現況と研究研修事項

■Make a London bridge between cell death and heart failure

杉原隆太

第10回Sunrise研究会

Web開催

令和6年1月28日

司会・座長・その他

■座長：林 隆治

日本人高血圧患者を標的とした新たな治療戦略

演者：高槻赤十字病院 大中玄彦

豊中市病診連携の会

豊中市、千里ライフサイエンスセンター

令和5年6月15日

■座長：中川 理

「CKD領域におけるSGLT2阻害薬のエビデンス」

演者：大阪大学腎臓内科学 坂口悠介

第135回日本循環器病学会近畿地方会 アフタヌーンセミナー4

豊中市、千里ライフサイエンスセンター

令和5年7月15日

■座長：林 隆治

超高齢者に対するAFアブレーションの留意点

演者：大阪大学大学院医学系研究科循環器内科学 関原孝之

北摂不整脈アカデミー

豊中市、千里ライフサイエンスセンター

令和5年9月28日

■座長：熊田全裕

虚血性心疾患と家族性高コレステロール血症

演者：箕面市立病院 北尾 隆

New Guideline, For New Stage from Kansai

大阪市、ホテルグランビア大阪

令和5年9月29日

■ディスカッサント：福岡秀忠

二次予防高リスク患者におけるLDL-C70mg/dLの管理状況についてレクビオが適した患者像とは？

新たな脂質低下療法の幕開け in 豊能

豊中市、千里ライフサイエンスセンター

令和5年11月29日

■座長：中川 理

「心臓リハビリテーションでの管理栄養士の取り組み～低栄養患者の栄養指導を調査して～」他

演者：洛和会音羽病院 廻神朱里、他

日本心臓リハビリテーション学会 第9回近畿支部地方会

大阪市、ホテルマイステイズ新大阪コンファレンスセンター

令和6年2月11日

■座長：中川 理

「北摂地域におけるMultimorbidity診療の実際とこれから」

演者：はくとホームケアクリニック 肥後友彰

第20回 Greenlab 2025

豊中市、千里ライフサイエンスセンター

令和6年3月9日

受賞

■Award session優秀賞

杉原隆太

第7回日本循環器学会基礎研究フォーラム

兵庫県 神戸市、神戸国際会議場

令和5年12月9日－10日

■The 10th SUNRIZE YIA

杉原隆太

第10回Sunrise研究会

Web開催

令和6年1月27日

■症例賞

飯田卓馬

第42回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会

大阪市、ナレッジキャピタル

令和6年3月2日

寄稿文・テレビ・ラジオ・その他

■人生万事、塞翁が馬「幸せに生きる」をどう支えるか

坂本陽子

Osaka Heart Club

公益社団法人大阪ハートクラブ

令和5年8月18日

9. 精神科

<現 況>

様々な背景をもつ患者が当院を受診されている。せん妄リスクが高い高齢者、認知症疾患や精神疾患を合併されている方、精神的に不安定な妊婦が当院での診療を希望されている。すべての方の必要な治療を最大限受けられるよう尽力するのが、地域医療を支える公立基幹病院の役割と考えている。

豊中市においても高齢化や認知症患者の増加がすすんでいる。当院の入院患者の平均年齢も高くなり、認知症の合併も増えている。そして入院中のせん妄出現も増えており、予定していた治療がやむえず中断という事態も生じている。病院側も多くのスタッフがせん妄への対応に追われてしまい、高度急性期病院としての業務に支障が生じてしまうこともある。このような事態を避けるため、精神科リエゾンチームは、可能な限り早期に介入をし、激しいせん妄が出現しないよう尽力している。当院の精神科リエゾンチームの介入件数は令和5年度で1,823件と、同規模病院と比較して突出して多い。精神科リエゾンチームは精神科医、心理師、専門看護師など他職種で構成し、多面的対応をしている。当院のせん妄対策は病院全体でも取り組んでいる。病棟スタッフはせん妄予防のための工夫を凝らしている。外来スタッフや入院支援部門はせん妄リスクの把握、入院前の節酒のお願いなどを行っている。

周産期の精神症状に対しては、産科医、助産師、心理師、精神科医がうまく連絡を取り合い、定期的に症例検討も行っている。地域の民間産科病院からだけでなく、近隣の市民病院からも様々な困難症例を引き受けている。妊婦に対しては薬物療法が行いにくいこともあり、治療の中心的役割をしばしば心理師が担っている。

豊中市は精神科診療所が比較的充実している地域である。そのため一般的な精神疾患の外来診療については、院外からの紹介を原則承っていない。ただし院内の身体科と精神科が協力して治療を行わないといけない患者の精神科外来治療は引き受けている。一方、認知症の鑑別診断がきちんと行える医療機関は未だ十分でない。そのため当院外来では認知症の鑑別診断のための紹介受診を承っている。専門医の診察に加え、必要に応じて心理師による認知機能検査や脳血流SEPCT等の画像診断を施行している。そして若年性認知症の場合、その診断だけでなく診断後の対応にも特殊な対応が必要になる。当院では診断後に、大阪府（大阪大学医学部附属病院）の若年性認知症の経験が豊富な精神保健福祉士とも連携した体制をとり、充実した対応を行っている。

【臨床心理部門】 令和5年10月に前任の会計年度職員が退職し、急遽臨時職員を募り、12月から公認心理師を採用した。また迅速なリエゾンチーム活動に寄与するため、週1の応援心理師を増員した。しかしながら、当院の心理職は精神科以外の全科より相談や心理アセスメント介入依頼があり、業務分担をしつつ対応している現状である。小児科特定疾患カウンセリングでは、実施数が前年の88件から138件と増加、周産期関連でもIUFDなど悲嘆ケアや産後検診からの心理カウンセリングなど専門的な心理ケアへの要望は高くなっている。

<今後の課題>

当院の精神科リエゾン件数は突出して多い。膨大な量のリエゾン診療が、他の診療業務にしわ寄せが生じている状態である。そして高齢化や認知症の増加は今後も予想され、せん妄は今後さらに増加していく。そのため人員の確保と業務の効率化をさらに進める必要がある。他職種による体制もさらに進化させ、業務と人員配置の見直しをしていく。長期的視点に立った看護師の育成も重要となる。リエゾンチーム外も含めた病院全体での対応力の進化をめざし、院内カンファレンスや研修をさらに充実させていく。入院前の情報収集も重要であり、入院前支援室ともしっかり連携した効率的なせん妄リスク把握と対策を行うようにしていく。地域医療を担う公立病院として、様々な背景をお持ちの方の入院治療も積極的に受け入れられる体制を今後も維持していきたい。

また緩和ケアチームでの心理支援要員が欠員となり、がん診療における当院の心理面での専門的支援体制については課題となっている。

<研究研修事項>

病院内研究研修会

新人看護研修「メンタルヘルス」について、
参加者55名 松向寺真彩子、令和5年5月30日…年1回
初期研修医必修講義「依存症」 ……年1回
初期研修医「せん妄」 ……毎月

精神科・心理師

「金曜勉強会：最近のトピックス」…………… 年数回

学術・研修活動（市立豊中病院主催・共催・その他）

◎市立豊中病院主催・共催

- 令和5年度 厚生労働省委託事業 がん総合相談に携わる者に対する研修事業
がんサポートグループ企画・運営者のための研修会
小川朝生、平井 啓、斉藤 円、松向寺真彩子他
宮城県 仙台市、ハイブリッド開催（ハーネル仙台） 参加者：90名 令和5年11月3日
- 令和5年度 厚生労働省委託事業 がん総合相談に携わる者に対する研修事業
がんサポートグループ企画・運営者のためのフォローアップ研修会
小川朝生、平井 啓、斉藤 円、松向寺真彩子他
東京都 中央区、ハイブリッド開催（AP東京八重洲） 参加者：60名 令和5年11月23日
- 令和5年度 厚生労働省委託事業 がん総合相談に携わる者に対する研修事業
がんサポートグループ企画・運営者のための研修会
小川朝生、平井 啓、斉藤 円、松向寺真彩子他
福岡県 福岡市、福岡県中小企業振興センター 参加者：90名 令和6年2月10日

刊行論文

- Cerebrospinal fluid amyloid beta with amyloid positron emission tomography concordance rates in a heterogeneous group of patients including late-onset psychotic disorders: a retrospective cross-sectional study
Yuto Satake,Hideki Kanemoto,Shiho Gotoh,Shoshin Akamine,Takashi Suehiro,Keiko Matsunaga,
Eku Shimosegawa,Kenji Yoshiyama,Takashi Morihara,Kohji Mori,Manabu Ikeda.
Psychogeriatrics 23 (6) : 1091-1093, 2023
- Ribavirin Treatment for Severe Schizophrenia with Anti-Borna Disease Virus 1 Antibodies 30 Years after Onset.
Hidenori Matsunaga,Akio Fukumori,Kohji Mori,Takashi Morihara,Shunsuke Sato,Kyoko Kitauchi,
Kanta Yanagida,Kazumi Taguchi,Tomoyuki Honda,Keizo Tomonaga.
Case reports in psychiatry 4899364-4899364, 2023
- Polygenic effects on the risk of Alzheimer's disease in the Japanese population.
Masataka Kikuchi,Akinori Miyashita,Norikazu Hara, ...Takashi Morihara, ...Kazunari Ishii.以上781名
Alzheimers Res Ther 16 (1) : 45, 2024
- Characteristics of very late-onset schizophrenia-like psychosis classified with the biomarkers for Alzheimer's disease: a retrospective cross-sectional study
Yuto Satake,Hideki Kanemoto,Daiki Taomoto,Takashi Suehiro,Fuyuki Koizumi,Shunsuke Sato,
Tamiki Wada,Keiko Matsunaga,Eku Shimosegawa,Shiho Gotoh,Kohji Mori,Takashi Morihara,
Kenji Yoshiyama,Manabu Ikeda.
Int Psychogeriatr 36 (1) : 64-77, 2024

診療部門の現況と研究研修事項

I 医務局の現況と研究研修事項

講習・講演

■認知症診療の新たな展開

森原剛史

大阪精神科診療所協会 総会

大阪市、梅田スカイビル

令和5年6月10日

■「総合病院で働く心理職の実際」医療領域の公認心理師業務・多職種連携・チーム医療に関する講義

松向寺真彩子

大阪樟蔭女子大学学芸学部心理学科

東大阪市、大阪樟蔭女子大学清志館

令和5年8月8日

■認知症の最新動向：今できる治療、これから登場する治療

森原剛史

大阪認知症研究会

豊中市、千里ライフサイエンスセンター

令和5年12月17日

司会・座長・その他

■指定討論者：松向寺真彩子

司会者：登根綾香

『治療を頑張りたい・長生きしたい』50代女性患者との2年間の関わり」

演者：磐田市立総合病院 鈴木雅子

第13回パリアティヴケア研究会

広島県 廿日市市、ホテルみや離宮

令和6年1月27日－28日

寄稿文・テレビ・ラジオ・その他

■すぐそこまで来ている「認知症臨床の革命」

森原剛史

豊中市医師会 月報 No 704 44-45ページ

豊中医師会

令和6年2月

10. 小児科

<現 況>

令和5年4月1日に高橋邦彦が部長に昇任した。医員として西本静香が採用された。専攻医として加藤あゆ香、西垣皓司、大田雅貴が採用された。令和6年3月31日で上園深希（専攻医）が退職した。令和6年3月31日現在、小児科は主任部長1名、部長3名、医員2名、非常勤医1名、専攻医4名の合計11名で診療を行っている。

小児科外来は、午前に一般診を週11枠、午後に全て予約制の専門外来を週7.5枠（神経・発達を4枠、未熟児、アレルギー、血液、心臓、内分泌・栄養、先天代謝を各1枠、内分泌を隔週で1枠）行っている。平日は19時まで時間外救急外来を行い、さらに週4日（令和6年3月31日現在、火曜日、水曜日、金曜日と日曜日）は豊能広域こども急病センターの後送病院として19時から翌朝まで小児の二次救急医療を行っている。病棟は小児病棟の28床に加えてNICU病棟6床、GCU病棟10床を有する。令和4年度の新規入院患者数と疾患別内訳を下記に示す。

<疾患別入院症例数>

- 1) 一般小児科入院 合計1,139例
 - A) 感染症

気道感染症 373例（うちCOVID-19が39例）、尿路感染症19例、感染性腸炎49例など
 - B) 境界・混合

熱性けいれん102例、川崎病36例、気管支喘息51例など
 - C) 非感染症

神経筋疾患183例、血液・腫瘍性・免疫疾患14例、新生児疾患22例、内分泌・代謝疾患83例、先天代謝異常17例、消化器疾患41、ネフローゼ6例、食物負荷試験30例、アナフィラキシー17例など
- 2) NICUとGCU病棟 合計257例（院内出生234例、院外出生23例）

極低出生体重児8例、新生児高ビリルビン血症35例、先天性心疾患2例、奇形症候群（染色体異常を含む）1例、多胎28組、外科疾患1例など

<今後の課題>

小児医学の発達に伴い、小児科の中でも専門性（サブスペシャリティ）を持つ医師が必要になっている。幅広い診療を継続的に行うためには、このような専門性を持つ常勤の小児科医を確保することが今後の課題である。

<研究研修事項>

学術・研修活動（市立豊中病院主催・共催・その他）

◎市立豊中病院主催・共催

- 第28回市立豊中病院 新生児蘇生法講習会「専門」コース(Aコース) ◎

徳永康行、吉川真紀子	豊中市、市立豊中病院	参加者：9名	令和5年6月3日
------------	------------	--------	----------
- 第29回市立豊中病院 新生児蘇生法講習会「専門」コース(Aコース) ◎

徳永康行、吉川真紀子	豊中市、市立豊中病院	参加者：12名	令和5年10月15日
------------	------------	---------	------------

刊行論文

■乳幼児喘息と診断されていた先天性気管狭窄症の1例

上園深希、大田雅貴、加藤あゆ香、西垣皓司、安田紀恵、西本静香、川西邦洋、高橋邦彦、吉川真紀子、徳永康行、茶山公祐

市立豊中病院院内雑誌 24：3-5, 2023

診療部門の現況と研究研修事項

I 医務局の現況と研究研修事項

■再発を繰り返したと考えられる亜急性壊死性リンパ節炎の1例

馬場達也、高橋邦彦、上園深希、安田紀恵、川西邦洋、吉川真紀子、徳永康行、茶山公祐
市立豊中病院院内雑誌 24：7-9, 2023

■ACTH療法中に血液・髄液中グリシン濃度の上昇を認めた非ケトン性高グリシン血症の男児例

西本静香
大阪母子医療センター雑誌 39(1)：51-56, 2023

学会発表

■インフリキシマブによる炎症性腸疾患の治療中に急性散在性脳脊髄炎を発症した1例

西本静香
第65回日本小児神経学会学術集会
岡山県 岡山市、岡山コンベンションセンター 令和5年6月2日

■後天性von Willebrand病を合併した本態性血小板血症の小児例

茶山公祐、高橋邦彦
第65回日本小児血液・がん学会学術集会 北海道 札幌市、ロイトン札幌 令和5年9月29日

■解析機器を有しない2次救急病院におけるFilmArray髄膜炎・脳炎パネルの有用性

加藤あゆ香、高橋邦彦、西本静香
第37回近畿小児科学会 大阪市、大阪国際交流センター 令和6年3月10日

■脊髄長大病変を認めた抗MOG抗体陽性急性散在性脳脊髄炎の1例

上園深希、西本静香
第37回近畿小児科学会 大阪市、大阪国際交流センター 令和6年3月10日

研究会・集談会発表

■頸椎椎間板石灰化症の一例

加藤あゆ香
豊能広域こども急病センター救急医療研究会 箕面市、箕面市立病院 令和5年9月9日

■重症川崎病の2症例

大田雅貴、高橋邦彦
第48回近畿川崎病研究会 大阪市、グランフロント大阪 令和6年3月2日

11. 消化器外科・呼吸器外科・外科

<現 況>

令和5年度は、診療科再編が行われ、これまでの外科は消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科、外科（外科専攻医の所属）に細分化された。消化器外科と外科は、副院長1人、顧問1人、部長3人、医長3人、医員3人、専攻医3人で担当した。消化器外科は、上部消化管、下部消化管、肝胆膵、の疾患グループがあり、それぞれ指導医資格をもった部長と中堅、若手の専門医、さらに専攻医が加わりバランス良く構成されている。小児外科は、毎週水曜日に非常勤医師による手術と外来を行っている。

令和4年度4月に設立した「消化器センター」が2年目を迎え、紹介元の医療機関や患者にとって、消化器疾患の紹介、受診がスムーズになり、消化器領域の患者が増加した。

消化器外科と外科で、年間950件の手術を行い、全身麻酔症例は931件であった。前年度と比較し、全手術数、全身麻酔症例数とも増加した。悪性腫瘍手術に関しては、ロボット支援下手術を含めた鏡視下手術を積極的に行い、安全性、根治性に加えて低侵襲な手術を心がけている。

患者高齢化に伴い併存症を持った症例が増えたことや、医療の高度・複雑化が著しく、外科患者においても他科との連携や各領域のスタッフを含めたチーム医療が非常に重要になっている。当科医師は外科専門分野以外にも、ゲノム医療、がん薬物療法、緩和医療、感染対策、栄養療法、医療安全などの領域にも積極的に参加し患者をトータルにサポートすることを重視している。

また、チーム診療制の導入、カンファレンスの勤務時間内実施などを導入し、医師の働き方改革の推進に努めた。

【主要手術数】

主要手術	件数	主要手術	件数
食道癌切除	8	胆嚢摘出術	214
胃癌切除	86	膵切除	45
結腸癌切除	117	鼠径ヘルニア手術	199
直腸癌切除	60	急性虫垂炎	87
肝癌切除	24		

<今後の課題>

内視鏡下手術やロボット支援手術などの低侵襲治療および合理的な周術期管理やチーム医療の推進によって、質の高い安全な医療を提供する。

消化器センターでは、診療科の垣根を超えて消化器外科・内科が共同して最善の治療にあたり、地域の患者や登録医などに対して安心で迅速な対応を行っていく。

働き方改革を見据えて、他部署へのタスクシフトや診療科内の業務の整理と役割分担、意識変革の推進を行い、長時間労働の削減に取り組む。また、全国的に外科医の希望者の伸び悩む中で、医療水準の向上と労働環境を整えて人材を確保することに努める。

全国的にも外科医を志す医師の減少により、当科も外科専攻医の減少による診療パワーの低下と現行スタッフの過剰労務が問題となり、外科専攻医獲得が喫緊の課題であったが、令和6年度4月には全国から4名の外科専攻医を新たに迎える。

<研究研修事項>

病院内研究研修会

外科論文抄読会……………週1回	上部消化管合同症例カンファレンス……………週3回
外科症例検討会……………週3回	下部消化管合同症例カンファレンス……………週1回
切除標本病理検討会（外、病理）……………週1回	肝胆膵症例検討会（外）……………週1回

刊行論文

- Essential updates 2021/2022 : Perioperative and surgical treatments for gastric and esophagogastric junction cancer
Yanagimoto Y, Kurokawa Y, Doki Y.
Ann Gastroenterol Surg 7 (5) : 698-708, 2023
- The effect of specimen processing time on HER2 expression in gastric cancer and esophagogastric junction cancer : a single-center retrospective observational study
Yanagimoto Y, Imamura H, Adachi S, Odagiri K, Kawase T, Yamashita M, Takeyama H, Suzuki Y, Ikenaga M, Shimizu J, Tomita N, Dono K.
BMC Cancer 23 (1) : 2023
- Randomized phase III study of gemcitabine,cisplatin plus S-1 versus gemcitabine,cisplatin for advanced biliary tract cancer(KHBO1401-MITSUBA)
Ioka T, Kanai M, Kobayashi S, Sakai D, Eguchi H, Baba H, Seo S, Taketomi A, Takayama T, Yamaue H, Takahashi M, Sho M, Kamei K, Fujimoto J, Toyoda M, Shimizu J, Goto T, Shindo Y, Yoshimura K, Hatano E, Nagano H.
J Hepatobiliary Pancreat Sci 30 (1) : 102-110, 2023
- A proposed new Japanese classification of synchronous peritoneal metastases from colorectal cancer : A multi-institutional,prospective,observational study conducted by the Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum
Kobayashi H, Kotake K, Kawasaki M, Kanemitsu Y, Kinugasa Y, Ueno H, Maeda K,Sto T, Itabashi M, Funahashi K, OZawa H, Koyama F, Noura S, Ishida H, Ohue M, Kiyomatsu T, Ishihara S, Koda K, Baba H, Kawada K, Hashiguchi Y, Goi T, Toiyama Y, Tomita N, Sunami E, akagi Y, Watanabe J, Hakamada K, Nakayama G, Sugihara K, Ajioka Y.
Ann Gastroenterol Surg 7 (5) : 765-771, 2023
- Clinical Guidelines for Diagnosis and Management of Juvenile Polyposis Syndrome in Children and Adults —Secondary Publication
Matsumoto T, Umeno J, Jimbo K, Arai M, Iwama I, Kashida H, Kudo T, Koizumi K, Sato Y, Sekine S, Tanaka S, Tanakaya K, Tamura K, Hirata K, Fukahori S, Esaki M, Ishikawa H, Iwama T, Okazaki Y, Saito Y, Matsuura N, Mutoh M, Tomita N, Akiyama T, Yamamoto T, Ishida H, Nakayama Y.
J Anus Rectum Colon 7 (2) : 115-125, 2023
- Recent Advances and Current Management for Desmoid Tumor Associated with Familial Adenomatous Polyposis
Kumamoto K, Ishida H, Tomita N.
J Anus Rectum Colon 7 (2) : 38-51, 2023
- Clinical Guidelines for Diagnosis and Management of Peutz-Jeghers syndrome in Children and Adults
Yamamoto H, Sakamoto H, Kumagai H, Abe T, Ishiguro S, Uchida K, Kawasaki Y, Saida Y, Sano Y, Takeuchi Y, Tajika M, Nakajima T, Banno K, Funasaka Y, Hori S, Yamaguchi T, Yoshida T, Ishikawa H, Iwama T, Okazaki Y, Saito Y, Matsuura N, Mutoh M, Tomita N, Akiyama T, Yamamoto T, Ishida H, Nakayama Y.
Digestion 104 (5) : 335-345, 2023
- Association between methicillin-resistant Staphylococcus aureus nasal carriage and infection after pancreatic surgery
Jinushi K, Shimizu J, Yamashita M, Odagiri K, Yanagimoto Y, Takeyama H, Suzuki Y, Ikenaga M, Imamura H, Dono K.
J Hepatobiliary Pancreat Sci. 31 (1) : 42-49, 2023

- Impact of conversion surgery after chemotherapy in patients with initially unresectable and recurrent biliary tract cancer
Nakamura I, Hatano E, Baba H, Kamei K, Wada H, Shimizu J, Kanai M, Yoshimura K, Nagano H, Ioka T.
Ann Gastroenterol Surg 7 (6) : 1009-1020, 2023
- Geriatric prognostic scoring system predicts survival after Hepatectomy for elderly patients with liver cancer
Sakano Y, Noda T, Kobayashi S, Akasaka H, Kato K, Sasaki K, Iwagami Y, Yamada D, Tomimaru Y, Takahashi H, Asaoka T, Shimizu J, Rakugi H, Doki Y, Eguchi H.
Ann Gastroenterol Surg 2023
- Phase II study of S-1 plus docetaxel as first-line treatment for older patients with advanced gastric cancer(OGSG 0902)
Kawase T, Imamura H, Kawabata R, Matsuyama J, Nishikawa K, Yanagihara K, Yamamoto K, Hoki N, Kawada J, Kawakami H, Sakai D, Kurokawa Y, Shimokawa T, Satoh T.
International Journal of Clinical Oncology 29 (2) : 134-141, 2023
- A Novel Surgical Technique for Double Flap Reconstruction Using a Circular Stapler After Laparoscopic Proximal Gastrectomy
Yanagimoto Y, Omori T, Odagiri K, Kawase T, Takeyama H, Suzuki Y, Imamura H.
J Gastrointest Surg. 27 (10) : 2209-2212, 2023
- Robotic en bloc resection sparing the bladder and anus for locally advanced low rectal cancer invading the prostate-a video vignette
Takeyama H, Sato M, Ikenaga M, Suzuki Y, Imamura H.
Colorectal Dis. 25 (5) : 1066-1067, 2023
- Identifying Risk Factors of Complications following Total Gastrectomy for Gastric Cancer : Comparison between Splenectomy and Spleen-Preserving Surgery-A Supplementary Analysis of JCOG0110
Ito S., Sano T, Mizusawa J, Tokunaga M, Hashimoto T, Imamura H, Teshima S, Nihei K, Yamada M, Choda Y, Imamura K, Hato S, Terashima M, Sasako M.
Dig Surg 40 (3-4) : 114-120, 2023
- Effect of the number of cycles of docetaxel+S-1 therapy on long-term survival in adjuvant chemotherapy for stage III gastric cancer.A pooled analysis of the OGSG0604 and OGSG1002 trials
Kimura Y, Kawakami H, Tamura S, Fujitani K, Matsuyama J, Imamura H, Iijima S, Sakai D, Kurokawa Y, Shimokawa T, Tsujinaka T, Furukawa H, atoh T.
Gastric Cancer 26 (5) : 788-797, 2023
- Early endpoints of a randomized phase II trial of preoperative chemotherapy with S-1/CDDP with or without trastuzumab followed by surgery for HER2-positive resectable gastric or esophagogastric junction adenocarcinoma with extensive lymph node metastasis : Japan Clinical Oncology Group study JCOG1301C(Trigger Study)
Tokunaga M, Machida N, Mizusawa J, Ito S, Yabusaki H, Hirano M, Watanabe M, Imamura H, Kinoshita T, Yasuda T, Hihara J, Fukuda H, Yoshikawa T, Boku N, Terashima M.
Gastric Cancer 27 (3) : 580-589, 2023

- Phase II Study of Intraperitoneal Administration of Paclitaxel Combined with S-1 and Cisplatin for Gastric Cancer with Peritoneal Metastasis
Kobayashi D, Kodera Y, Fukushima R, Morita M, Fushida S, Yamashita N, Yoshikawa K, Ueda S, Yabusaki H, Kusumoto T, Arigami T, Hidemura A, Omori T, Yamaguchi H, Hirono Y, Tsuji Y, Moon J, Tomita T, Imamura H, Nakanishi K, Shimizu D, Hirakawa A, Ishigami H, Kitayama J.
Ann Surg Oncol. 31 (2) : 735-743, 2023
- Multicenter phase II study of capecitabine plus oxaliplatin in older patients with advanced gastric cancer : the Tokyo Cooperative Oncology Group(TCOG)GI-1601 study
Kawabata R, Chin K, Takahari D, Hosaka H, Muto O, Shindo Y, Nagata N, Yabusaki H, Imamura H, Endo S, Kashiwada T, Nakamura M, Hihara J, Kobayashi M, Sagawa T, Saito S, Sato A, Yamada T, Okano N, Shimada K, Matsushima M, Kataoka M, Matsumoto S, Goto M, Kotaka M, Shiraishi T, Yamai H, Nagashima F, Ishizuka N, Yamaguchi K.
Gastric Cancer 26 (6) : 1020-1029, 2023
- Association between the antiadhesion membrane and small bowel obstruction after open gastrectomy : A supplemental analysis of the randomized controlled JCOG1001 trial
Toriumi T, Terashima M, Mizusawa J, Uemura K, Kurokawa Y, Takiguchi S, Doki Y, Hihara J, Imamura H, Takagane A, Ito S, Yoshikawa T, Sano T, Sasako M.
Ann Gastroenterol Surg 8 (1) : 30-39, 2023
- Comparison of the effects of open and laparoscopic approach on body composition in gastrectomy for gastric cancer : A propensity score-matched study
Takeoka T, Yamamoto K, Kurokawa Y, Miyazaki Y, Kawabata R, Omori T, Imamura H, Fujita J, Eguchi H, Doki Y.
Ann Gastroenterol Surg 8 (1) : 40-50, 2023
- 第2講「まさか自分が大腸がん・・・！」
池永雅一
第20回市立豊中病院がん医療市民公開講座 23 : 5-8, 2023
- 第3講「消化器がんの薬物療法とゲノム医療」
川瀬朋乃
第20回市立豊中病院がん医療市民公開講座 23 : 8-12, 2023
- 手術部位感染対策
清水潤三
環境感染誌 38 (1) : 1-6, 2023
- 症例報告Ⅳ 虫垂子宮内膜症による虫垂重積症の1例
地主皓一、鈴木陽三、竹山廣志、能浦真吾、池永雅一、清水潤三、田村裕美、足立史朗、富田尚裕
日本大腸肛門病会誌雑誌 76 (1) : 40-44, 2023
- 連載 腫瘍免疫Up-To-Date 第5回 栄養とがん免疫
今村博司
GI Cancer Cutting Edge 4 (2) : 4-5, 2023
- 外科系周術期栄養のアップデート 胃癌周術期の栄養サポートの重要性
今村博司、柳本喜智、小田切数基、川瀬朋乃、木村 豊、西川和宏
New Diet Therapy 38 (2) : 98-498, 2023
- 胃癌化学療法後の術後難治性リンパ漏に対してオクトレオチドが奏効した1例
江崎さゆり、柳本喜智、小田切数基、竹山廣志、鈴木陽三、能浦真吾、清水潤三、川瀬朋乃、堂野恵三
日本外科系連合学会誌 47 (6) : 727-733, 2023

- 脾癌化学療法中に発症した血栓性微小血管症に対して血漿交換が著効した1例
山下雅史、清水潤三、佐藤泰史、小田切数基、柳本喜智、竹山廣志、鈴木陽三、池永雅一、川瀬朋乃、今村博司、赤木謙三、岩澤 卓、富田尚裕、堂野恵三
癌と化学療法 49 (13) : 1959-1961, 2023
- 腹腔鏡下低位前方切除・右精嚢合併切除術で治癒切除し得た上行結腸癌術後ダグラス窩腹膜播種再発の1例
鈴木陽三、池永雅一、竹山廣志、能浦真吾、佐藤泰史、小田切数基、柳本喜智、山下雅史、清水潤三、川瀬朋乃、今村博司、赤木謙三、岩澤 卓、富田尚裕、堂野恵三
癌と化学療法 49 (13) : 1503-1505, 2023
- 単孔式腹腔鏡下結腸切除術における体腔内吻合の意義
鈴木陽三、能浦真吾、竹山廣志、富田尚裕
日本大腸肛門病学会雑誌 76 (1) : 98-98, 2023
- ロボット支援腹腔鏡下直腸手術導入時の短期成績について
竹山廣志、能浦真吾、鈴木陽三、富田尚裕
日本大腸肛門病学会雑誌 76 (1) : 108-108, 2023
- 膀胱浸潤を伴う進行直腸癌に対して、ロボット支援下直腸切除術および膀胱部分切除術を施行した1例
竹山廣志、能浦真吾、鈴木陽三、小田切数基、柳本喜智、山下雅史、清水潤三、川瀬朋乃、今村博司、岩澤 卓、富田尚裕、堂野恵三
日本大腸肛門病学会雑誌 76 (2) : 211-211, 2023
- 短期間に異なる機序で2度の大腸穿孔をきたした1例
大本亮輔、竹山廣志、鈴木陽三、池永雅一、清水潤三、富田尚裕
日本大腸肛門病学会雑誌 76 (5) : 381-386, 2023
- リンパ節転移を伴った4.7mm大の直腸神経内分泌腫瘍の1例
大辻晋吾、鈴木陽三、池永雅一、清水潤三、富田尚裕
日本大腸肛門病学会雑誌 76 (7) : 496-500, 2023
- 開腹幽門側胃切除Roux-en-Y再建術後14年目に挙上空腸が内ヘルニアをきたした1例
地主皓一、鈴木陽三、小田切数基、柳本喜智、竹山廣志、池永雅一、清水潤三、川瀬朋乃、今村博司、堂野恵三
日本外科系連合学会誌 48 (2) : 117-121, 2023
- 脾頭十二指腸切除における周術期感染管理
藤本直斗、清水潤三、山下雅史、小田切数基、竹山廣志、柳本喜智、鈴木陽三、池永雅一、今村博司、堂野恵三
日本外科感染症学会雑誌 20 (2) : 128-132, 2023
- 「がん化学療法における代謝栄養管理の意義」胃がん化学療法患者に対する支持療法としての栄養サポートの意義
今村博司、川瀬朋乃、柳本喜智、野間俊樹、西川和宏、木村 豊
外科と代謝・栄養 57 (6) : 192-196, 2023
- 当科における切除不能肝細胞癌に対するアテゾリズマブ＋ベバシズマブの使用経験
清水潤三、山下雅史、小田切数基、竹山廣志、柳本喜智、鈴木陽三、池永雅一、川瀬朋乃、今村博司、堂野恵三
癌と化学療法 50 (13) : 1513-1515, 2023
- 切除可能脾癌に対する術前GS療法の忍容性と治療成績
山下雅史、清水潤三、佐藤泰史、野間俊樹、萩原清貴、柳本喜智、鈴木陽三、池永雅一、川瀬朋乃、今村博司、赤木謙三、岩澤 卓、富田尚裕
癌と化学療法 50 (13) : 1411-1413, 2023

■進行胃癌に術前化学療法を行い腹腔鏡下胃全摘、脾体尾部切除、拡大郭清を施行した1例

福田健太、小田切数基、柳本喜智、山下雅史、竹山廣志、鈴木陽三、池永雅一、川瀬朋乃、清水潤三、今村博司、堂野恵三

癌と化学療法 50 (13) : 1438-1440, 2023

■出血性原発性十二指腸癌に対してSOX療法が奏効した高齢者の1例

木下雨宣、川瀬朋乃、柳本喜智、小田切数基、山下雅史、竹山廣志、鈴木陽三、池永雅一、清水潤三、今村博司、富田尚裕、堂野恵三

癌と化学療法 50 (13) : 1777-1779, 2023

■水疱性類天疱瘡の加療中に上行結腸癌を併発し根治治療を施行した1例

飯島賢、池永雅一、竹山廣志、鈴木陽三、富田尚裕、小田切数基、柳本喜智、山下雅史、清水潤三、川瀬朋乃、今村博司、堂野恵三

癌と化学療法 50 (13) : 1589-1591, 2023

■傍大動脈周囲リンパ節陽性胃癌に対してSOX+Nivolumabを行いConversion Surgeryを施行し得た1例

奥田忠宏、小田切数基、柳本喜智、山下雅史、竹山廣志、鈴木陽三、池永雅一、川瀬朋乃、清水潤三、今村博司、堂野恵三

癌と化学療法 50 (13) : 1671-1673, 2023

■大腸癌部穿孔5例の検討

地主皓一、池永雅一、小田切数基、柳本喜智、山下雅史、竹山廣志、鈴木陽三、川瀬朋乃、清水潤三、今村博司、堂野恵三

癌と化学療法 50 (13) : 1566-1568, 2023

■上行結腸癌術後再発の緩和治療中に発症した回腸びまん性大細胞型B細胞リンパ腫の1例

鈴木陽三、池永雅一、佐藤泰史、小田切数基、柳本喜智、山下雅史、竹山廣志、小林 晶、清水潤三、川瀬朋乃、赤木謙三、岩澤 卓、田村裕美、足立史朗、今村博司

癌と化学療法 51 (1) : 84-86, 2023

■上行結腸癌局所再発との鑑別が困難であった繊維腺腫様腫瘍の1例

鈴木陽三、池永雅一、佐藤泰史、小田切数基、柳本喜智、山下雅史、竹山廣志、小林 晶、清水潤三、川瀬朋乃、赤木謙三、岩澤 卓、田村裕美、足立史朗、今村博司

癌と化学療法 51 (1) : 87-89, 2023

■AYAチームとともに治療方針決定を行った切除不能StageIVb肛門管癌30歳代女性の1例

鈴木陽三、池永雅一、佐藤泰史、小田切数基、柳本喜智、山下雅史、竹山廣志、小林 晶、能浦真吾、清水潤三、川瀬朋乃、赤木謙三、岩澤 卓、富田尚裕、今村博司

癌と化学療法 51 (1) : 69-71, 2023

■胃癌抗がん剤患者に対する口腔ケア、口腔トラブルについてのアンケート調査

川瀬朋乃、今村博司、柳本喜智、小田切数基、鈴木陽三、竹山廣志、山下雅史、佐藤泰史、小林 晶、池永雅一、清水潤三、赤木謙三、岩澤 卓、富田尚裕、堂野恵三

癌と化学療法 51 (3) : 308-310, 2023

■進行・再発胃癌薬物療法におけるNarrative Approachによる治療選択ーPTX or nab-PTX?ー

川瀬朋乃、今村博司、柳本喜智、小田切数基、鈴木陽三、竹山廣志、山下雅史、佐藤泰史、小林 晶、池永雅一、清水潤三、赤木謙三、岩澤 卓、富田尚裕、堂野恵三

癌と化学療法 51 (3) : 311-313, 2023

■胃外科における周術期栄養運動療法の実践と問題点

今村博司、川瀬朋乃、柳本喜智、野間俊樹、秦 真由美、久田真規子、井上文子、金谷愛子、足立ゆかり、奈良平明子、大川知之、山本健吾

消化器外科 47 (2) : 153-162, 2023

学会発表

- より安全で精緻なロボット支援手術を可能とするための良好な術野を維持する新規smoke吸引方法：
The robot smoke suction technique
竹山廣志、鈴木陽三、池永雅一、小田切数基、柳本喜智、山下雅史、清水潤三、川瀬朋乃、今村博司、
岩澤 卓、富田尚裕、堂野恵三
第123回日本外科学会定期学術集会
東京都 港区、グランドプリンスホテル新高輪 令和5年4月27日－29日
- 当院における進行胃癌に対する腹腔鏡胃切除術の成績
小田切数基、柳本喜智、山下雅史、竹山廣志、鈴木陽三、池永雅一、清水潤三、川瀬朋乃、今村博司、
堂野恵三
第123回日本外科学会定期学術集会
東京都 港区、グランドプリンスホテル新高輪 令和5年4月27日－29日
- 腹壁ヘルニア嵌頓症例における用手還納の評価
地主皓一、鈴木陽三、小田切数基、柳本喜智、山下雅史、竹山廣志、池永雅一、川瀬朋乃、清水潤三、
今村博司、富田尚裕、堂野恵三
第123回日本外科学会定期学術集会
東京都 港区、グランドプリンスホテル新高輪 令和5年4月27日－29日
- 腹腔鏡初心者が施行する単孔式大腸癌手術の成績
鄭 充善、鈴木陽三、大塚正久、西田謙太郎、森 総一郎、吉川幸宏、野村雅俊、末田聖倫、古賀睦人、
宮垣博道、辻江正徳、赤丸祐介、赤松大樹、水島恒和
第123回日本外科学会定期学術集会
東京都 港区、グランドプリンスホテル新高輪 令和5年4月27日－29日
- 当院の急性胆嚢炎手術における胆汁内細菌の検討
松下克則、横山茂和、内山優史、水野剛志、河井邦彦、小林照之、笹生和宏、小森孝通、岸 健太郎、
福永 睦
第123回日本外科学会定期学術集会
東京都 港区、グランドプリンスホテル新高輪 令和5年4月27日－29日
- 消化器外科を取り巻く社会的問題解決策としての単孔式結腸癌手術の可能性
鈴木陽三、鄭 充善、大塚正久、池永雅一、竹山廣志、内藤 敦、今里光伸、佐藤泰史、小田切数基、
柳本喜智、山下雅史、清水潤三、川瀬朋乃、今村博司、赤木謙三、岩澤 卓、富田尚裕、堂野恵三、
赤松大樹、水島恒和
第123回日本外科学会定期学術集会
東京都 港区、グランドプリンスホテル新高輪 令和5年4月27日－29日
- 市民病院における全身合併症を伴った鼠径部ヘルニア症例のマネージメントの実際
鈴木陽三、小田切数基、柳本喜智、山下雅史、竹山廣志、池永雅一、清水潤三、川瀬朋乃、今村博司、
富田尚裕、堂野恵三
第21回日本ヘルニア学会学術集会
大阪市、大阪国際会議場(グランキューブ大阪) 令和5年5月26日－27日
- 右外鼠径ヘルニアに合併し術前画像評価を行った閉経後異所性子宮内膜症の1例
鈴木陽三、小田切数基、柳本喜智、山下雅史、竹山廣志、池永雅一、清水潤三、川瀬朋乃、今村博司、
富田尚裕、堂野恵三
第21回日本ヘルニア学会学術集会
大阪市、大阪国際会議場(グランキューブ大阪) 令和5年5月26日－27日

■11年間鼠径部嚢胞として経過観察されたのちに嵌頓を来した大腿ヘルニアの1例

木下雨宣、鈴木陽三、小田切数基、柳本喜智、山下雅史、竹山廣志、池永雅一、清水潤三、川瀬朋乃、今村博司、堂野恵三

第21回日本ヘルニア学会学術集会

大阪市、大阪国際会議場(グランキューブ大阪) 令和5年5月26日－27日

■自然脱落を認めた横行結腸脂肪腫の1例

鈴木陽三、池永雅一、佐藤泰史、小田切数基、柳本喜智、山下雅史、小林 晶、竹山廣志、清水潤三、川瀬朋乃、今村博司、岩澤 卓、赤木謙三、富田尚裕、堂野恵三

第48回日本外科系連合学会学術集会

神奈川県 横浜市、パシフィコ横浜ノース 令和5年6月7日－9日

■水疱性類天疱瘡の加療中に併発した上行結腸癌の1例

飯島 賢、池永雅一、竹山廣志、鈴木陽三、富田尚裕、小田切数基、柳本喜智、山下雅史、清水潤三、川瀬朋乃、今村博司、堂野恵三

第48回日本外科系連合学会学術集会

神奈川県 横浜市、パシフィコ横浜ノース 令和5年6月7日－9日

■右外鼠径ヘルニアに合併した閉経後異所性子宮内膜症の1例

木下雨宣、鈴木陽三、小田切数基、柳本喜智、山下雅史、竹山廣志、池永雅一、清水潤三、川瀬朋乃、今村博司、富田尚裕、堂野恵三

第48回日本外科系連合学会学術集会

神奈川県 横浜市、パシフィコ横浜ノース 令和5年6月7日－9日

■肺切除検体で偶発的に発見されたDendriform pulmonary ossificationの1例

小林 晶、岩澤 卓

第66回関西胸部外科学会学術集会

大阪市、グランキューブ大阪(大阪府立国際会議場) 令和5年6月8日－9日

■がん治療におけるサルコペニアの現状と対策

今村博司、川瀬朋乃、柳本喜智、小田切数基

第47回日本頭頸部癌学会

大阪市、大阪国際会議場(グランキューブ大阪) 令和5年6月15日－16日

■異時性多発大腸癌を発症したMLH1の稀なスプライシング・バリエントを伴うリンチ症候群の1例

鈴木陽三、若月智和、佐藤泰史、小林 晶、小田切数基、柳本喜智、竹山廣志、池永雅一、清水潤三、川瀬朋乃、今村博司、岩澤 卓、赤木謙三、堂野恵三、好井理世、赤木 究、富田尚裕

第29回日本遺伝性腫瘍学会学術集会

高知県 高知市、高知市文化プラザかるぽーと 令和5年6月16日－17日

■当院における大腸癌のマイクロサテライト不安定性、RAS、BRAF遺伝子変異検査の実施状況の検討

竹山廣志、富田尚裕、鈴木陽三、池永雅一、小田切数基、佐藤泰史、小林 晶、山下雅史、柳本喜智、清水潤三、川瀬朋乃、赤木謙三、今村博司、岩澤 卓、堂野恵三

29回日本遺伝性腫瘍学会学術集会

高知県 高知市、高知市文化プラザかるぽーと 令和5年6月16日－17日

■当院における乳がん患者に対するHBOC保険診療の現状

宮田海香子、二宮由紀恵、西浦志保、大塚千代美、羽田亜希、赤木謙三、佐藤泰史、好井理世、今村博司、富田尚裕

29回日本遺伝性腫瘍学会学術集会

高知県 高知市、高知市文化プラザかるぽーと 令和5年6月16日－17日

■地域基幹病院における遺伝性腫瘍診療の現状

富田尚裕、二宮由紀恵、小池万里子、西浦志保、大塚千代美、羽田亜希、赤木謙三、佐藤泰史、鈴木陽三、竹山廣志、池永雅一、今村博司、好井理世、宮田海香子、赤木 究、石田秀行

29回日本遺伝性腫瘍学会学術集会

高知県 高知市、高知市文化プラザかるぽーと 令和5年6月16日－17日

■十二指腸・十二指腸乳頭部ポリープを有するFAPの臨床像とAPC病的バリエーションの特徴。大腸癌研究会遺伝性大腸癌委員会多施設共同研究からの報告

宮倉安幸、山口達郎、田巻佐和子、高雄暁成、高雄美里、母里淑子、近谷賢一、石田秀行、河野光泰、竹内洋司、石川秀樹、長崎寿矢、佐々木和人、松原孝明、平田敬治、谷口文崇、田中屋宏爾、富田尚裕、味岡洋一

29回日本遺伝性腫瘍学会学術集会

高知県 高知市、高知市文化プラザかるぽーと 令和5年6月16日－17日

■肺がんゲノム診断が治療方針決定の一助となった一例

小林 晶、岩澤 卓

第118回日本肺癌学会関西支部学術集会

京都府 京都市、京都産業会館ホール 令和5年6月17日

■Innovation and outcome of distal pancreatectomy at our hospital

Yamashita M, Shimizu J, Odagiri K, Yanagimoto Y, Takeyama H, Suzuki Y, Ikenaga M, Imamura H, Tomita N, Dono K.

第35回日本肝胆膵外科学会学術集会

東京都 新宿区、京王プラザホテル 令和5年6月30日－7月1日

■The investigation of liver resection for hepatocellular carcinoma in the elderly patients

Matsushita K, Yokoyama S.

第35回日本肝胆膵外科学会学術集会

東京都 新宿区、京王プラザホテル 令和5年6月30日－7月1日

■Trial of Pyloric ring-preserving total pancreatectomy

Shimizu J, Yamashita M, Koga M, Tsujie M, Odagiri K, Yanagimoto Y, Takeyama H, Suzuki Y, Ikenaga M, Imamura H, Dono K.

第35回日本肝胆膵外科学会学術集会

東京都 新宿区、京王プラザホテル 令和5年6月30日－7月1日

■胃癌術後早期の体重減少が術後1年のQOLに及ぼす影響について～大規模栄養介入試験の結果から～

本告正明、宮崎安弘、山本和義、大森 健、藤田淳也、川端良平、今村博司、山下公太郎、西塔拓郎、高橋 剛、黒川幸典、江口英利、土岐祐一郎

日本外科代謝栄養学会第60回学術集会

東京都 千代田区、シャーンバッハ・サボー 令和5年7月6日－7日

■Effects of an oral elemental nutritional supplement in Gastric Cancer Patients after Gastrectomy.

Nishikawa K, Kimura Y, Kishi K, Inoue K, Matsuyama J, Akamaru Y, Tamura S, Kawada J, Kawase T, Kawabata R, Yanagimoto Y, Kanno H, Yamada T, Shimokawa T, Imamura H.

日本外科代謝栄養学会第60回学術集会

東京都 千代田区、シャーンバッハ・サボー 令和5年7月6日－7日

■多職種連携による胃癌周術期の栄養と運動の取り組み

川瀬朋乃、今村博司、柳本喜智、小田切数基、井上文子、大川知之、奈良平明子、足立ゆかり、岡田京子、春名雅裕、遠藤紘一、山本健吾、堂野恵三

日本外科代謝栄養学会第60回学術集会

東京都 千代田区、シャーンバッハ・サボー 令和5年7月6日－7日

- 胃癌周術期における栄養サポートの重要性～胃切除後の体重減少を軽減することで生存率と患者満足度向上を目指す～

今村博司、川瀬朋乃、柳本喜智、小田切数基、清水潤三、池永雅一、鈴木陽三、山下雅史、富田尚裕、西川和宏、木村 豊

日本外科代謝栄養学会第60回学術集会

東京都 千代田区、シャーンバッハ・サボー 令和5年7月6日－8日

- 消化器癌治療において"体重"を意識することの意味～がん関連体重減少は治療できる～

今村博司

第78回日本消化器外科学会総会

北海道 函館市、函館市民会館、函館アリーナ、花びしホテル 令和5年7月12日－14日

- 単孔式腹腔鏡下結腸癌治療切除症例における体腔内吻合の中期成績の検討

鈴木陽三、池永雅一、竹山廣志、小田切数基、柳本喜智、山下雅史、清水潤三、今村博司、富田尚裕、堂野恵三

第78回日本消化器外科学会総会

北海道 函館市、函館市民会館、函館アリーナ、花びしホテル 令和5年7月12日－14日

- 術前治療後直腸癌に対するRobot手術で良好な術野を維持する新規吸引法：the robot smoke suction technique

竹山廣志、鈴木陽三、池永雅一、柳本喜智、山下雅史、清水潤三、川瀬朋乃、今村博司、富田尚裕、堂野恵三

第78回日本消化器外科学会総会

北海道 函館市、函館市民会館、函館アリーナ、花びしホテル 令和5年7月12日－14日

- 臍切除術におけるMRSAアクティブサーベイランスの有用性に関する検討

地主皓一、清水潤三、山下雅史、小田切数基、柳本喜智、竹山廣志、鈴木陽三、池永雅一、今村博司、堂野恵三

第78回日本消化器外科学会総会

北海道 函館市、函館市民会館、函館アリーナ、花びしホテル 令和5年7月12日－14日

- 進行胃癌に対する腹腔鏡下胃切除術の成績

小田切数基、柳本喜智、山下雅史、竹山廣志、鈴木陽三、池永雅一、清水潤三、川瀬朋乃、今村博司、堂野恵三

第78回日本消化器外科学会総会

北海道 函館市、函館市民会館、函館アリーナ、花びしホテル 令和5年7月12日－14日

- 悪液質を伴う進行再発胃癌の化学療法に対するプロシユアの有用性に関する第Ⅱ相試験

川端良平、西川和宏、今村博司、川瀬朋乃、川田純司、木村 豊、鹿島康薫、上田修吾、竹野 淳、下村一景

第78回日本消化器外科学会総会

北海道 函館市、函館市民会館、函館アリーナ、花びしホテル 令和5年7月12日－14日

- 当院における高齢者に対する肝切除の治療成績の検討

松下克則、横山茂和、内山優史、水野剛志、河井邦彦、小林照之、笹生和宏、小森孝通、岸 健太郎、福永 睦

第78回日本消化器外科学会総会

北海道 函館市、函館市民会館、函館アリーナ、花びしホテル 令和5年7月12日－14日

- 高度リンパ節転移を伴う進行胃癌に対してNivolumab併用の化学療法を施行し、腹腔鏡手術を施行しえた一例
飯島 賢、小田切数基、柳本喜智

第78回日本消化器外科学会総会

北海道 函館市、函館市民会館、函館アリーナ、花びしホテル 令和5年7月12日－14日

- 高度リンパ節転移陽性胃癌に術前化学療法を行い腹腔鏡下胃全摘術、臍体尾部切除、拡大郭清を施行した一例
福田健太、小田切数基、柳本喜智
第78回日本消化器外科学会総会
北海道 函館市、函館市民会館、函館アリーナ、花びしホテル 令和5年7月12日－14日
- 消化管穿孔が疑われた食道癌術後気胸の一例
小林 晶、岩澤 卓
第40回日本呼吸器外科学会学術集会
新潟県 新潟県、朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター 令和5年7月13日－14日
- SSIサーベイランス報告
清水潤三
第38回日本環境感染学会総会・学術集会
神奈川県 横浜市、パシフィコ横浜ノース 令和5年7月20日－22日
- Perioperative outcomes & strategies for pleomorphic carcinoma in lung
Kobayashi A, Iwazawa T.
2023 World Conference on Lung Cancer
シンガポール、サンテック・シンガポール国際会議展示場 令和5年9月9日－12日
- 胆嚢皮膚瘻を伴う胆石性胆嚢炎に対し、保存的治療で治癒しえた1例
山下雅史、清水潤三、小田切数基、柳本喜智、竹山廣志、鈴木陽三、池永雅一、川瀬朋乃、今村博司、
富田尚裕、堂野恵三
第59回日本胆道学会学術集会
北海道 札幌市、京王プラザホテル札幌 令和5年9月14日－15日
- 胆嚢癌・十二指腸浸潤に対して臍頭十二指腸切除術、肝部分切除術（S4.5）右肝動脈切除再建を施行し長期生存が得られた1例
福田健太、清水潤三、小田切数基、柳本喜智、山下雅史、竹山廣志、鈴木陽三、川瀬朋乃、池永雅一、
今村博司、富田尚裕、堂野恵三
第59回日本胆道学会学術集会
北海道 札幌市、京王プラザホテル札幌 令和5年9月14日－15日
- 胆石及び胆嚢十二指腸瘻による胆石性十二指腸閉塞に対して胆嚢切開術を施行した一例
飯島 賢、山下雅史、清水潤三、小田切数基、柳本喜智、竹山廣志、鈴木陽三、池永雅一、川瀬朋乃、
今村博司、富田尚裕、堂野恵三
第59回日本胆道学会学術集会
北海道 札幌市、京王プラザホテル札幌 令和5年9月14日－15日
- The real-world universal screening for Lynch Syndrome in a public tertiary hospital in Japan
Suzuki Y, Ikenaga M, Hagihara K, Sato Y, Noma T, Yanagimoto Y, Yamashita Y, Kobayashi A,
Shimizu J, Kawase T, Iwazawa T, Tomita N, Imamura H.
日本人類遺伝学会第68回大会
東京都 千代田区、都市センターホテル、全国都市会館 令和5年10月11日－14日
- 進行再発胃癌に対する1次治療としてのICI＋化学療法の治療成績
川瀬朋乃、今村博司、柳本喜智、野間俊樹、萩原清貴、佐藤泰史、山下雅史、小林 晶、鈴木陽三、
清水潤三、池永雅一、赤木謙三、岩澤 卓
第61回日本癌治療学会学術集会 神奈川県 横浜市、パシフィコ横浜 令和5年10月19日－21日

■手術療法で治癒切除し得た上行結腸 mucosa-associated lymphoid tissue リンパ腫の1例

鈴木陽三、池永雅一、萩原清貴、野間俊樹、佐藤泰史、柳本喜智、山下雅史、小林 晶、清水潤三、川瀬朋乃、赤木謙三、岩澤 卓、富田尚裕、今村博司

第61回日本癌治療学会学術集会 神奈川県 横浜市、パシフィコ横浜 令和5年10月19日－21日

■当院における胃癌周術期リハビリテーションの取り組み

足立ゆかり、川瀬朋乃、今村博司、柳本喜智、山本健吾、野間俊樹、奈良平明子、岡田京子、春名雅裕、大川知之

第61回日本癌治療学会学術集会 神奈川県 横浜市、パシフィコ横浜 令和5年10月19日－21日

■タスクシフト/シェアが求められる時代の消化器がんチーム医療

今村博司

第61回日本癌治療学会学術集会 神奈川県 横浜市、パシフィコ横浜 令和5年10月19日－21日

■虫垂杯細胞カルチノイドの3切除例

萩原清貴、池永雅一、鈴木陽三、野間俊樹、佐藤泰史、山下雅史、柳本喜智、小林 晶、清水潤三、川瀬朋乃、今村博司、赤木謙三、岩澤 卓、富田尚裕

第61回日本癌治療学会学術集会 神奈川県 横浜市、パシフィコ横浜 令和5年10月19日－21日

■胃癌術後 ONS 投与の多施設共同大規模RCTの予後解析

山本和義、黒川幸典、大森 健、宮崎安弘、藤谷和正、川端良平、今村博司、高橋 剛、西塔拓郎、牧野知紀、田中晃司、山下公太郎、百瀬洸太、江口英利、土岐祐一郎

第61回日本癌治療学会学術集会 神奈川県 横浜市、パシフィコ横浜 令和5年10月19日－21日

■がんゲノム医療連携病院のがん遺伝子パネル検査の現状とがんゲノム医療センターの役割

二宮由紀恵、小池万里子、西浦志保、斎藤智子、秦 真由美、安田純子、大塚千代美、羽田亜希、久田真規子、川瀬朋乃、富田尚裕、今村博司

第61回日本癌治療学会学術集会 神奈川県 横浜市、パシフィコ横浜 令和5年10月19日－21日

■HBOC遺伝学的検査の乳がん患者への案内システムの構築 第2報

大塚千代美、二宮由紀恵、羽田亜希、小池万里子、西浦志保、好井理世、宮田海香子、赤木謙三、今村博司、富田尚裕

第61回日本癌治療学会学術集会 神奈川県 横浜市、パシフィコ横浜 令和5年10月19日－21日

■EGFR 変異陽性原発性肺癌における術後再発に対する当院での治療成績

小林 晶、岩澤 卓

第64回日本肺癌学会学術集会 千葉県 千葉市、幕張メッセ 令和5年11月2日－4日

■術前化学療法後膀胱切除術における切開創管理システムPREVENATMの有用性に関する検討

山下雅史、清水潤三、小田切数基、柳本喜智、竹山廣志、鈴木陽三、池永雅一、川瀬朋乃、今村博司、富田尚裕、堂野恵三

第31回日本消化器関連学会週間

兵庫県 神戸市、神戸コンベンションセンター 令和5年11月2日－5日

■手術前に使用したNivolumabによる術後S-1補助加療中のirAE副腎機能低下の1例

小田切数基、柳本喜智、山下雅史、竹山廣志、鈴木陽三、池永雅一、清水潤三、川瀬朋乃、今村博司、富田尚裕、堂野恵三

第31回日本消化器関連学会週間

兵庫県 神戸市、神戸コンベンションセンター 令和5年11月2日－5日

■胃切除後の体重減少抑制に対する経口栄養剤の服薬アドヒアランスの重要性

木村 豊、西川和宏、今村博司

第31回日本消化器関連学会週間

兵庫県 神戸市、神戸コンベンションセンター 令和5年11月2日－5日

■多発肝膿瘍を伴った上行結腸癌の1例

萩原清貴、池永雅一、鈴木陽三、清水潤三、富田尚裕

第78回日本大腸肛門病学会学術集会

熊本県 熊本市、熊本城ホール 令和5年11月10日－11日

■肉眼型0-Ipを呈したmicropapillary patternを主体とするN3転移陽性S状結腸癌の1例

鈴木陽三、池永雅一、萩原清貴、野間俊樹、柳本喜智、山下雅史、清水潤三、川瀬朋乃、富田尚裕、
今村博司

第78回日本大腸肛門病学会学術集会

熊本県 熊本市、熊本城ホール 令和5年11月10日－11日

■SSI対策におけるガイドラインとの付き合い方

清水潤三、山下雅史、萩原清貴、野間俊樹、柳本喜智、鈴木陽三、池永雅一、川瀬朋乃、富田尚裕、
今村博司

第85回日本臨床外科学会総会

岡山県 岡山市、岡山コンベンションセンター他 令和5年11月16日－18日

■StageⅢ胃癌に対する術後補助化学療法におけるS-1+docetaxelの投与サイクル数が長期生存に及ぼす影響

松山 仁、木村 豊、川上尚人、田村茂行、藤谷和正、今村博司、坂井大介、黒川幸典、下川敏雄、
佐藤太郎

第85回日本臨床外科学会総会

岡山県 岡山市、岡山コンベンションセンター他 令和5年11月16日－18日

■治癒切除後4年6か月目に頭皮を初発部位として再発した上行結腸癌の1例

鈴木陽三、池永雅一、萩原清貴、野間俊樹、柳本喜智、山下雅史、清水潤三、川瀬朋乃、富田尚裕、
今村博司

第85回日本臨床外科学会総会

岡山県 岡山市、岡山コンベンションセンター他 令和5年11月16日－18日

■Sister Mary Joseph's noduleを呈した上行結腸癌の1例

萩原清貴、池永雅一、鈴木陽三、野間俊樹、佐藤泰史、柳本喜智、山下雅史、小林 晶、川瀬朋乃、
清水潤三、富田尚裕、今村博司、赤木謙三、岩澤 卓

第85回日本臨床外科学会総会

岡山県 岡山市、岡山コンベンションセンター他 令和5年11月16日－18日

■放射線性腸炎に合併した柿の種の誤飲による小腸穿通の1例

福田健太、鈴木陽三、萩原清貴、池永雅一、野間俊樹、柳本喜智、清水潤三、川瀬朋乃、富田尚裕、
今村博司

第85回日本臨床外科学会総会

岡山県 岡山市、岡山コンベンションセンター他 令和5年11月16日－18日

■サーベイランスのためのSSI判定事例

清水潤三

第45回日本手術医学会総会

神奈川県 横浜市、パシフィコ横浜 令和5年11月24日－25日

■NPWTの有効性

清水潤三

第45回日本手術医学会総会

神奈川県 横浜市、パシフィコ横浜 令和5年11月24日－25日

■Pfannenstiel切開が有用であった臍静脈拡張症例に対するロボット支援高位前方切除術の1例

鈴木陽三、池永雅一、萩原清貴、柳本喜智、山下雅史、小林 晶、清水潤三、富田尚裕、今村博司

第36回日本内視鏡外科学会総会

神奈川県 横浜市、パシフィコ横浜 令和5年12月7日－9日

- 腹腔鏡下回盲部切除術を施行した右卵巣嚢腫により右卵管が索状物となり発症した回腸終末部の腸閉塞の1例

萩原清貴、池永雅一、鈴木陽三、野間俊樹、柳本喜智、山下雅史、川瀬朋乃、清水潤三、富田尚裕、今村博司

第36回日本内視鏡外科学会総会 神奈川県 横浜市、パシフィコ横浜 令和5年12月7日－9日

- 当院における進行胃癌に対する腹腔鏡下およびロボット支援下幽門側胃切除術の手術成績

野間俊樹、柳本喜智、今村博司、川瀬朋乃、萩原清貴、山下雅史、鈴木陽三、小林 晶、池永雅一、清水潤三、富田尚裕

第36回日本内視鏡外科学会総会 神奈川県 横浜市、パシフィコ横浜 令和5年12月7日－9日

- 診断に難渋した食道癌術後原発性気胸の一例

飯島 賢、小林 晶、萩原清貴、柳本喜智、山下雅史、鈴木陽三、池永雅一、清水潤三、川瀬朋乃、今村博司、富田尚裕

第36回日本内視鏡外科学会総会 神奈川県 横浜市、パシフィコ横浜 令和5年12月7日－9日

- 食道胃接合部癌における腹腔鏡下経裂孔アプローチの定型化

柳本喜智、今村博司、野間俊樹、川瀬朋乃、萩原清貴、山下雅史、鈴木陽三、小林 晶、清水潤三、池永雅一、富田尚裕

第36回日本内視鏡外科学会総会 神奈川県 横浜市、パシフィコ横浜 令和5年12月7日－9日

- 化学療法後胃癌における腹腔鏡下胃切除後の安全性・有用性

奥田忠宏、柳本喜智、野間俊樹、川瀬朋乃、今村博司、萩原清貴、山下雅史、鈴木陽三、清水潤三、池永雅一、富田尚裕

第36回日本内視鏡外科学会総会 神奈川県 横浜市、パシフィコ横浜 令和5年12月7日－9日

- 腹腔鏡下回盲部切除術で治癒切除し術後5年無再発生存を得られた盲腸MALTリンパ腫の1例

古賀千絢、鈴木陽三、萩原清貴、池永雅一、野間俊樹、柳本喜智、山下雅史、小林 晶、清水潤三、川瀬朋乃、富田尚裕、今村博司

第36回日本内視鏡外科学会総会 神奈川県 横浜市、パシフィコ横浜 令和5年12月7日－9日

- 双胎妊娠29週目に胆嚢炎に対して腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行した1例

林 利空、山下雅史、清水潤三、野間俊樹、萩原清貴、柳本喜智、鈴木陽三、池永雅一、川瀬朋乃、今村博司、富田尚裕

第36回日本内視鏡外科学会総会 神奈川県 横浜市、パシフィコ横浜 令和5年12月7日－9日

- 急性胆嚢炎に対する保存的治療の有用性

山下雅史、清水潤三、松下克則、佐藤泰史、萩原清貴、野間俊樹、柳本喜智、鈴木陽三、池永雅一、川瀬朋乃、赤木謙三、今村博司、岩澤 卓、富田尚裕

第36回日本外科感染症学会総会学術集会

福岡県 北九州市、北九州国際会議場 令和5年12月15日－16日

- 術前化学療法後瘳切除術における切開創管理システムPREVENATMの有用性に関する検討

福田健太、山下雅史、清水潤三、松下克則、佐藤泰史、野間俊樹、萩原清貴、柳本喜智、鈴木陽三、池永雅一、川瀬朋乃、赤木謙三、富田尚裕、今村博司

第36回日本外科感染症学会総会学術集会

福岡県 北九州市、北九州国際会議場 令和5年12月15日－16日

- 肝胆膵外科手術におけるPCRを用いたMRSAアクティブサーベイランスの効果

清水潤三、野間俊樹、萩原清貴、松下克則、山下雅史、柳本喜智、鈴木陽三、池永雅一、今村博司

第36回日本外科感染症学会総会学術集会

福岡県 北九州市、北九州国際会議場 令和5年12月15日－16日

■脾切除術の周術期管理マニュアル

清水潤三、山下雅史、松下克則、藤本直斗、秋田裕史

第36回日本外科感染症学会総会学術集会

福岡県 北九州市、北九州国際会議場 令和5年12月15日－16日

■保険診療委員会の活動について

清水潤三、渡邊 学、吉田雅博、石田秀行、矢永勝彦、森兼啓太

第36回日本外科感染症学会総会学術集会

福岡県 北九州市、北九州国際会議場 令和5年12月15日－16日

■回腸悪性リンパ腫に併発したEdwardsiella tarda菌血症の1例

鈴木陽三、池永雅一、萩原清貴、佐藤泰史、野間俊樹、柳本喜智、山下雅史、小林 晶、清水潤三、川瀬朋乃、岩澤 卓、赤木謙三、富田尚裕、今村博司

第36回日本外科感染症学会総会学術集会

福岡県 北九州市、北九州国際会議場 令和5年12月15日－16日

■術後腹壁離開に対して減張縫合を用いた一期的縫合閉鎖術を施行した3例の検討

柳楽大樹、山下雅史、清水潤三、佐藤泰史、野間俊樹、萩原清貴、柳本喜智、鈴木陽三、小林 晶、池永雅一、川瀬朋乃、今村博司、赤木謙三、岩澤 卓、富田尚裕

第36回日本外科感染症学会総会学術集会

福岡県 北九州市、北九州国際会議場 令和5年12月15日－16日

■当院における急性胆嚢炎に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術の治療成績

松下克則、清水潤三、山下雅史、野間俊樹、萩原清貴、柳本喜智、鈴木陽三、川瀬朋乃、池永雅一、富田尚裕、今村博司

第36回日本外科感染症学会総会学術集会

福岡県 北九州市、北九州国際会議場 令和5年12月15日－16日

■当院におけるEGFR遺伝子変異陽性肺癌の治療成績

深堀太翔、小林 晶、岩澤 卓

第119回日本肺癌学会関西支部学術集会

兵庫県 神戸市、神戸商工会議所会館 令和6年2月2日

■胃癌における手術支援ロボットを用いた新たな内視鏡外科手術の教育

柳本喜智、野間俊樹、川瀬朋乃、萩原清貴、鈴木陽三、松下克則、山下雅史、佐藤泰史、小林 晶、池永雅一、赤木謙三、岩澤 卓、清水潤三、富田尚裕、今村博司

第207回近畿外科学会

枚方市、枚方市総合文化芸術センター 令和6年2月3日

■直腸癌・胃癌の同時性重複癌に対して一期的ロボット支援手術を施行した一例

鈴木陽三、池永雅一、萩原清貴、野間俊樹、松下克則、柳本喜智、清水潤三、川瀬朋乃、富田尚裕、今村博司

第16回日本ロボット外科学会学術集会

鳥取県 米子市、米子コンベンションセンター/米子市文化ホール 令和6年2月10日－11日

■ロボット支援下胃切除術におけるORGAN RETRACTORを用いた術野展開の工夫と短期成績

柳本喜智、野間俊樹、川瀬朋乃、萩原清貴、鈴木陽三、松下克則、山下雅史、小林 晶、佐藤泰史、池永雅一、赤木謙三、岩澤 卓、清水潤三、富田尚裕、今村博司

第16回日本ロボット外科学会学術集会

鳥取県 米子市、米子コンベンションセンター/米子市文化ホール 令和6年2月10日－11日

■胃癌周術期における栄養サポートの重要性 ～胃切除後の体重減少を軽減して生存率とQOL向上を目指す～

今村博司

第39回日本臨床栄養代謝学会学術集会

神奈川県 横浜市、パシフィコ横浜ノース・アネックスホール 令和6年2月15日－16日

■Management of severe Immunotherapy-Related Adverse Event for patients with advanced or recurrent gastric cancer

川瀬朋乃、今村博司、柳本喜智、野間俊樹

第21回日本臨床腫瘍学会学術集会

愛知県 名古屋市、名古屋国際会議場 令和6年2月22日－24日

■当院における胃癌症例に対するConversionおよびNAC後の手術の治療成績と予後因子に関する検討

野間俊樹、今村博司、柳本喜智、川瀬朋乃、萩原清貴、松下克則、山下雅史、鈴木陽三、池永雅一、清水潤三、富田尚裕

第96回日本胃癌学会総会

京都府 京都市、京都市勧業館みやこめっせ、ロームシアター京都 令和6年2月28日－3月1日

■多職種連携による胃癌周術期の栄養と運動の取り組み

川瀬朋乃、今村博司、柳本喜智、野間俊樹、松下克則、萩原清貴、山下雅史、鈴木陽三、池永雅一、清水潤三、富田尚裕

第96回日本胃癌学会総会

京都府 京都市、京都市勧業館みやこめっせ、ロームシアター京都 令和6年2月28日－3月1日

■Siewert type I / II 食道胃接合部癌における内視鏡下経裂孔的下縦隔アプローチの定型化

柳本喜智、野間俊樹、川瀬朋乃、鈴木陽三、松下克則、山下雅史、池永雅一、清水潤三、富田尚裕、今村博司

第96回日本胃癌学会総会

京都府 京都市、京都市勧業館みやこめっせ、ロームシアター京都 令和6年2月28日－3月1日

■胃癌および食道胃接合部癌における組織検体の取り扱いがHER2発現に及ぼす影響に関する検討

柳本喜智、野間俊樹、川瀬朋乃、萩原清貴、鈴木陽三、松下克則、山下雅史、池永雅一、清水潤三、富田尚裕、今村博司

第96回日本胃癌学会総会

京都府 京都市、京都市勧業館みやこめっせ、ロームシアター京都 令和6年2月28日－3月1日

■脳転移を発症した胃癌の6例

福田健太、川瀬朋乃、野間俊樹、柳本喜智、今村博司、萩原清貴、池永雅一、山下雅史、清水潤三、富田尚裕

第96回日本胃癌学会総会

京都府 京都市、京都市勧業館みやこめっせ、ロームシアター京都 令和6年2月28日－3月1日

■残胃癌に対する内視鏡アプローチの安全性

古賀千絢、柳本喜智、野間俊樹、川瀬朋乃、鈴木陽三、松下克則、山下雅史、池永雅一、清水潤三、富田尚裕、今村博司

第96回日本胃癌学会総会

京都府 京都市、京都市勧業館みやこめっせ、ロームシアター京都 令和6年2月28日－3月1日

■市中病院における進行胃癌に対する腹腔鏡胃切除術の治療成績

奥田忠宏、柳本喜智、野間俊樹、川瀬朋乃、鈴木陽三、松下克則、山下雅史、池永雅一、清水潤三、富田尚裕、今村博司

第96回日本胃癌学会総会

京都府 京都市、京都市勧業館みやこめっせ、ロームシアター京都 令和6年2月28日－3月1日

■ロボット支援下胃切除術におけるORGAN RETRACTORを用いた術野展開の工夫

加藤梨佳子、柳本喜智、野間俊樹、川瀬朋乃、鈴木陽三、松下克則、山下雅史、池永雅一、清水潤三、富田尚裕、今村博司

第96回日本胃癌学会総会

京都府 京都市、京都市勧業館みやこめっせ、ロームシアター京都 令和6年2月28日－3月1日

■出血制御目的に緊急結腸右半切除術を施行した上行結腸びまん性大細胞型B細胞リンパ腫の1例

鈴木陽三、池永雅一、萩原清貴、野間俊樹、松下克則、柳本喜智、山下雅史、清水潤三、今村博司
第60回日本腹部救急医学会総会

福岡県 北九州市、北九州国際会議場、西日本総合展示場新館、AIM 令和6年3月21日－22日

■憩室炎穿通によるS状結腸膀胱瘻に対する手術成績の検討

萩原清貴、池永雅一、鈴木陽三、野間俊樹、松下克則、山下雅史、柳本喜智、川瀬朋乃、富田尚裕、清水潤三、今村博司

第60回日本腹部救急医学会総会

福岡県 北九州市、北九州国際会議場、西日本総合展示場新館、AIM 令和6年3月21日－22日

■脾動静脈奇形に対して緊急脾体尾部切除術を施行した一例

福田健太、清水潤三、山下雅史、野間俊樹、萩原清貴、松下克則、鈴木陽三、川瀬朋乃、池永雅一、今村博司、富田尚裕

第60回日本腹部救急医学会総会

福岡県 北九州市、北九州国際会議場、西日本総合展示場新館、AIM 令和6年3月21日－22日

■遺残胆嚢内結石症に対して腹腔鏡下遺残胆嚢摘出術を施行しえた1例

岩崎 歩、飯島 賢、松下克則、山下雅史、清水潤三、野間俊樹、萩原清貴、柳本喜智、鈴木陽三、池永雅一、川瀬朋乃、今村博司、富田尚裕

第60回日本腹部救急医学会総会

福岡県 北九州市、北九州国際会議場、西日本総合展示場新館、AIM 令和6年3月21日－22日

研究会・集談会発表

■エドルミズ対象症例の発掘ポイント

柳本喜智

がん悪液質治療セミナー In OSAKA 2023

大阪府 吹田市、大阪大学大学院医学系研究科・医学部講義棟 令和5年4月12日

■上行結腸癌術後再発no緩和治療中に発症した小腸びまん性巨大B細胞リンパ腫の一例

木下雨宣、鈴木陽三、竹山廣志、池永雅一、小田切数基、柳本喜智、山下雅史、清水潤三、川瀬朋乃、今村博司、小林 晶、岩澤 卓、佐藤泰史、赤木謙三、富田尚裕、堂野恵三

第45回日本癌局所療法研究会 東京都 千代田区、シェーンバッハ・サボー 令和5年6月2日

■手術前に使用したNivolumabによる術後S-1補助加療中のirAE副腎機能低下の1例

小田切数基、柳本喜智、山下雅史、竹山廣志、鈴木陽三、池永雅一、清水潤三、川瀬朋乃、今村博司、富田尚裕、堂野恵三

第45回日本癌局所療法研究会 東京都 千代田区、シェーンバッハ・サボー 令和5年6月2日

■大腸癌部穿孔5症例の検討

地主皓一、池永雅一、鈴木陽三、竹山廣志、小田切数基、柳本喜智、山下雅史、川瀬朋乃、清水潤三、今村博司、富田尚裕、堂野恵三

第45回日本癌局所療法研究会 東京都 千代田区、シェーンバッハ・サボー 令和5年6月2日

■上行結腸癌局所再発との鑑別が困難であった線維腫様腫瘍の1例

鈴木陽三、池永雅一、佐藤泰史、小田切数基、柳本喜智、山下雅史、小林 晶、竹山廣志、清水潤三、川瀬朋乃、今村博司、岩澤 卓、赤木謙三、富田尚裕、堂野恵三

第45回日本癌局所療法研究会 東京都 千代田区、シェーンバッハ・サボー 令和5年6月2日

■AYAチームと共に治療方針決定を行った切除不能StageIVb肛門管癌30歳代女性の1例

鈴木陽三、池永雅一、小田切数基、柳本喜智、山下雅史、竹山廣志、能浦真吾、清水潤三、川瀬朋乃、今村博司、富田尚裕、堂野恵三

第45回日本癌局所療法研究会 東京都 千代田区、シェーンバッハ・サボー 令和5年6月2日

■当科における切除不能肝細胞癌に対するテセントリクアバスチンの使用経験

清水潤三、山下雅史、小田切数基、竹山廣志、柳本喜智、鈴木陽三、池永雅一、今村博司、堂野恵三
第45回日本癌局所療法研究会 東京都 千代田区、シェーンバッハ・サボー 令和5年6月2日

■胃癌抗がん剤患者に対する口腔ケア、口腔内トラブルについてのアンケート調査

川瀬朋乃、今村博司、柳本喜智、小田切数基、鈴木陽三、竹山廣志、山下雅史、佐藤泰史、小林 晶、池永雅一、清水潤三、赤木謙三、岩澤 卓、富田尚裕、堂野恵三
第45回日本癌局所療法研究会 東京都 千代田区、シェーンバッハ・サボー 令和5年6月2日

■進行・再発胃癌薬物療法におけるNarrative approachによる治療選択ーPTX or nab-PTX?-

川瀬朋乃、今村博司、柳本喜智、小田切数基、鈴木陽三、竹山廣志、山下雅史、佐藤泰史、小林 晶、池永雅一、清水潤三、赤木謙三、岩澤 卓、富田尚裕、堂野恵三
第45回日本癌局所療法研究会 東京都 千代田区、シェーンバッハ・サボー 令和5年6月2日

■切除可能膵癌に対する術前GS療法の忍容性と治療成績

山下雅史、清水潤三、佐藤泰史、小田切数基、柳本喜智、竹山廣志、鈴木陽三、池永雅一、川瀬朋乃、今村博司、赤木謙三、岩澤 卓、富田尚裕、堂野恵三
第45回日本癌局所療法研究会 東京都 千代田区、シェーンバッハ・サボー 令和5年6月2日

■水疱性類天疱瘡の加療中に上行結腸癌を併発し、根治手術を施行した1例

飯島 賢、池永雅一、竹山廣志、鈴木陽三、富田尚裕、小田切数基、柳本喜智、山下雅史、清水潤三、川瀬朋乃、今村博司、堂野恵三
第45回日本癌局所療法研究会 東京都 千代田区、シェーンバッハ・サボー 令和5年6月2日

■傍大動脈周囲リンパ節陽性胃癌に対してSOX+Nivoを行いconversion surgeryをし得た1例

奥田忠宏、小田切数基、柳本喜智、山下雅史、竹山廣志、鈴木陽三、池永雅一、清水潤三、川瀬朋乃、今村博司、堂野恵三
第45回日本癌局所療法研究会 東京都 千代田区、シェーンバッハ・サボー 令和5年6月2日

■膵頭十二指腸切除後に肝機能障害を来し正中弓状靱帯切離術を施行した膵頭部癌の1例

松下克則、横山茂和、内山優史、水野剛志、河井邦彦、小林照之、笹生和宏、小森孝通、岸 健太郎、福永 睦
胃第45回日本癌局所療法研究会 東京都 千代田区、シェーンバッハ・サボー 令和5年6月2日

■テーマ：食道癌治療の悩みどころ 1次治療の治療選択について

柳本喜智
食道癌 Hybrid Seminar in Osaka 2023 Web開催 令和5年6月9日

■KRAS・BRAF同時変異を伴う虫垂癌の1例

鈴木陽三、池永雅一、萩原清貴、野間俊樹、柳本喜智、山下雅史、清水潤三、川瀬朋乃、富田尚裕、今村博司
第99回大腸癌研究会学術集会
兵庫県 尼崎市、尼崎市総合文化センター（あましんアルカイックホール・オクト） 令和5年7月6日

■虫垂腫瘍の切除22症例に関する検討

萩原清貴、池永雅一、鈴木陽三、野間俊樹、柳本喜智、山下雅史、川瀬朋乃、清水潤三、富田尚裕、今村博司
第99回大腸癌研究会学術集会
兵庫県 尼崎市、尼崎市総合文化センター（あましんアルカイックホール・オクト） 令和5年7月6日

■ロボット支援手術で良好な術野を維持するsmoke吸引方法：the robot smoke suction techniqueの複数機種での経験を経て

竹山廣志、廣瀬 創、岡村 修、堺 聡美、橋爪咲奈、高 正浩、林 寛史、原 暁生、桂 宜輝、田中夏美、池永雅一、吉岡節子、戎井 力、横内秀起、矢野雅彦
第99回大腸癌研究会学術集会
兵庫県 尼崎市、尼崎市総合文化センター（あましんアルカイックホール・オクト） 令和5年7月6日

■噴門側胃切除の郭清と再建

柳本喜智

Gastrointestinal Cancer Meeting in Osaka 2023

大阪市、ANAクラウンプラザホテル大阪

令和5年7月19日

■Roux-en-Y法

柳本喜智

第3回Upper-GI Surgical joint Conference ～USJカンファ～

大阪市、ジョンソン・エンド・ジョンソン大阪支店

令和5年8月19日

■Billroth I 法

野間俊樹

第3回Upper-GI Surgical joint Conference ～USJカンファ～

大阪市、ジョンソン・エンド・ジョンソン大阪支店

令和5年8月19日

■29週目の双胎妊婦の胆嚢炎に対して腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行した1例

林 利空、山下雅史、清水潤三、野間俊樹、萩原清貴、柳本喜智、鈴木陽三、池永雅一、川瀬朋乃、
今村博司、富田尚裕

第36回近畿内視鏡外科研究会

豊中市、千里ライフサイエンスセンター

令和5年9月30日

■手術支援ロボットを利用した新たな内視鏡外科手術の教育

柳本喜智

第53回胃外科・術後障害研究会 東京都 千代田区、一橋大学一橋講堂

令和5年11月10日－11日

■臍ヘルニア修復術後に発生したSpiegelヘルニアの一例

奥田忠宏、鈴木陽三、萩原清貴、野間俊樹、松下克則、柳本喜智、山下雅史、池永雅一、清水潤三、
今村博司

第17回関西ヘルニア研究会

大阪市、大阪スカイビル

令和5年12月16日

■内視鏡的粘膜切除術5年後に浸潤性再発を来した脈管侵襲陽性pT1a直腸S状部癌の1例

鈴木陽三、池永雅一、萩原清貴、野間俊樹、松下克則、山下雅史、柳本喜智、清水潤三、川瀬朋乃、
富田尚裕、田村裕美、足立史朗、今村博司

第100回大腸癌研究会学術集会

東京都 港区、浜松町コンベンションホール

令和6年1月25日－26日

■アナモレリンの適正使用を考える

柳本喜智

がん悪液質治療ハイブリッドセミナー～これからの悪液質治療を考える～

豊中市、千里阪急ホテル

令和6年3月14日

講習・講演

■エドルミズ対象症例の発掘ポイント

柳本喜智

がん悪液質治療セミナー In OSAKA 2023

吹田市、大阪大学大学院医学系研究科・医学部講義棟

令和5年4月12日

■胃癌薬物治療戦略のパラダイムシフト～「チーム医療」で治療を“つなぐ”～

今村博司

Lilly GC Web Conference 新潟県北 GC Web Seminar

Web開催

令和5年4月21日

■胃癌薬物治療戦略のパラダイムシフト～「薬剤を使い切る」から「適切なタイミングで切り替える」へ～

今村博司

Lilly Gastric Cancer Seminar (2023.5.26)

福井県 福井市、福井県国際交流会館

令和5年5月26日

診療部門の現況と研究研修事項

I 医務局の現況と研究研修事項

■がん治療における集学的支持療法の重要性～チーム医療で体重減少に挑む～

今村博司

がん悪液質 多職種連携セミナー

福岡県 久留米市、聖マリア病院

令和5年5月31日

■HER2陽性胃癌のベストプラクティス～外科医がおさえるべきポイント～

今村博司

Gastric Cancer Web Semina ～チーム医療での治療継続を考える～

Web開催

令和5年6月12日

■irAEに対するチーム連携

川瀬朋乃

第1回Communication meeting on ICI 2023

大阪市、小野薬品大阪支店

令和5年6月24日

■低侵襲手術の極意、Conversion surgeryに関して、進行・再発胃癌の薬物療法

柳本喜智

Lilly GC Web Conference (2023) 胃癌集学的治療のClinical Practice

Web開催

令和5年6月29日

■エキスパートhが話す！胃癌治療で知ってほしい事、伝えたい事

今村博司

第78回日本消化器外科学会総会

北海道 函館市、函館市民会館、函館アリーナ、花びしホテル

令和5年7月12日

■HER2陽性胃癌のベストプラクティス～後方ラインを見据えた治療戦略～

今村博司

Gastric Cancer Web Seminar 2023.8.19

兵庫県 神戸市、神戸三宮東急REIホテル

令和5年8月19日

■遺伝子パネル検査に耐えうる体制構築

柳本喜智

胃がん治療を考える会 (2023)

Web開催

令和5年8月31日

■Shared Decision Makingを踏まえた進行・再発胃癌薬物療法の実践

川瀬朋乃

TAIHO Web Lecture on Gastric Cancer (2023) みんなで考える胃癌がん治療の実践～よりよい治療を目指した"胃癌薬物治療における薬物選択"～

Web開催

令和5年9月7日

■がん悪液質における集学的支持療法の重要性～チーム医療で"体重減少に挑む"～

今村博司

糸魚川市がん連携セミナー

新潟県 糸魚川市、ヒスイ王国館コミュニティホール

令和5年9月7日

■進行再発胃癌の治療戦略

柳本喜智

Lilly Gastric Cancer Seminar (2023)

豊中市、千里ライフサイエンスセンター

令和5年9月8日

■胃がん患者における栄養管理の実践と課題について～適切な支持療法によるQOL向上と化学療法の継続～

今村博司

第32回消化器疾患病態治療研究会 スポンサーシンポジウム

福井県 福井市、福井県民ホールAOSSA

令和5年9月14日

■HER2陽性胃癌のベストプラクティス

今村博司

第1回がん統計Web Seminar ～臨床試験結果を如何に解釈し、臨床へ活かすか～

Web開催

令和5年9月15日

- 胃癌周術期治療"治療継続のポイント"
今村博司
TAIHO Web Lecture on Gastric Cancer 胃癌周術期治療の最良を求めて
"最新EBMのポイント"と"治療継続のポイント" Web開催 令和5年9月25日
- バイオマーカー、ゲノム情報に基づく胃癌治療選択時代
～外科臨床医が求められる病理検査を意識した工夫～
柳本喜智
Gastric Cancer Leaders' Meeting (2023) Web開催 令和5年10月18日
- SSI対策の重要性と実践-本当に大事なものは何？-
清水潤三
大腸外科医向けWebinar 第2回低侵襲のその先へー合併症のない究極の手術を目指してー Web開催 令和5年10月27日
- 手術支援ロボットを利用した新たな内視鏡外科手術の教育
柳本喜智
第53回胃外科・術後障害研究会 東京都 千代田区、一橋大学一橋講堂 令和5年11月10日
- HER2陽性胃癌のベストプラクティス
今村博司
Gastric Cancer Web Seminar 2023.11.13 Web開催 令和5年11月13日
- 第1講 がん治療において心と体を支えることの重要性について～栄養と食事のはなしを中心に～
今村博司
第21回市立豊中病院 がん医療市民公開講座
豊中市、千里ライフサイエンスセンター 令和5年11月18日
- 食道癌治療のキホン
柳本喜智
GI Cancer Seminar 大阪市、コンラッド大阪 令和5年11月22日
- 手術部位感染：治療と予防の最前線
清水潤三
第45回日本手術医学会総会 神奈川県 横浜市、パシフィコ横浜 令和5年11月24日
- 胃癌薬物療法のポイント総復習～治療の最大化に向けて～
柳本喜智
静岡消化器癌講演会 静岡県 浜松市、オークラアクトシティホテル浜松 令和5年12月12日
- 腹腔鏡下胃切除のいろは
柳本喜智
第59回専門医を目指す消化器外科セミナー 大阪市、ブリーゼプラザ 令和5年12月15日
- 令和のSSIケアバンドル対策～今と未来～
清水潤三
第36回日本外科感染症学会総会学術集会
福岡県 北九州市、北九州国際会議場 令和5年12月15日
- 大腸癌のお話～早期発見と適切な治療～「まさか私が・・・！」
池永雅一
令和6年（2024年）市民向け健康講演会
豊中市、豊中市医療保健センター 令和6年1月13日
- ビデオクリニック【胃】
野間俊樹
第4回Upper-GI Surgical Joint Conference～USJカンファ～
大阪市、オービック御堂筋ビル 令和6年1月27日

診療部門の現況と研究研修事項

I 医務局の現況と研究研修事項

■ビデオクリニック【食道】

柳本喜智

第4回Upper-GI Surgical Joint Conference～USJカンファ～

大阪市、オービック御堂筋ビル

令和6年1月27日

■がん治療における包括的な取り組み

今村博司

E-カンファ Lecture 匠の勘どころ エキスパートが考えるがん治療の成功を支える取り組み～消化器編～

Web開催

令和6年1月31日

■胃癌薬物療法のシーケンスと治療切り替えポイント

柳本喜智

第207回近畿外科学会

枚方市、枚方市総合文化芸術センター

令和6年2月3日

■胃癌1次治療におけるオブジーボの治療意義～臨床試験と臨床経験の観点より～

柳本喜智

オブジーボ胃癌WEBライブセミナー 2024.2.19

Web開催

令和6年2月19日

■アナモレリンの適正使用を考える

柳本喜智

がん悪液質治療ハイブリッドセミナー～これからの悪液質治療を考える～

豊中市、千里阪急ホテル

令和6年3月14日

■胃癌化学療法新時代と臨床医が求められる手術検体の適切な取り扱い

柳本喜智

GASTRIC CANCER MEETING ～HER2陽性を見極める～

Web開催

令和6年3月15日

■胃がん一次治療におけるNivolumabの位置づけ

今村博司

県北消化器癌免疫療法セミナー

長崎県 佐世保市、セントラルホテル佐世保

令和6年3月21日

■がん悪液質における集学的支持療法の重要性～チーム医療で“体重減少”に挑む～

今村博司

令和5年度 第2回西三河がんフォーラム

愛知県 安城市、安城更生病院

令和6年3月27日

司会・座長・その他

■司会：今村博司

明日から実践！胃癌薬物療法のベストシーケンス ～生存期間延長を目指したエキスパートの極意～

Lilly GC Web Conference (2023.4.10)

Web開催

令和5年4月10日

■司会：今村博司

これからの胃癌薬物療法 Best Practice～明日から活かせる！臨床における工夫～

Gastric Cancer Web Seminar (2023.4.13)

Web開催

令和5年4月13日

■司会：池永雅一

デジタルポスター 虫垂-全般-1

第123回日本外科学会定期学術集会

東京都 港区、グランドプリンスホテル新高輪

令和5年4月27日～29日

■司会：鈴木陽三

ポスター8

第21回日本ヘルニア学会学術集会

大阪市、大阪国際会議場(グランキューブ大阪)

令和5年5月26日～27日

- 司会：今村博司
第34回近畿GIST研究会－GIST診療の現在～未来－
大阪市 ホテル阪急インターナショナル 令和5年6月3日
- 司会：川瀬朋乃
令和5年度第3回 豊中市薬剤師会6月研究会
豊中市 豊中市医療保険センター 令和5年6月13日
- 司会：池永雅一
第6回北摂大腸癌講演会 豊中市、千里ライフサイエンスセンター 令和5年6月15日
- 司会：今村博司
院内研修セミナー 『個人情報保護・ゲノム医療』
豊中市、市立豊中病院 令和5年6月19日
- 司会：池永雅一
口演 I -9 直腸癌治療の最前線
第99回大腸癌研究会学術集会
兵庫県 尼崎市、尼崎市総合文化センター（あましんアルカイックホール・オクト） 令和5年7月6日
- 座長：池永雅一
主題関連演題 【総論】こだわりの体腔内吻合
第78回日本消化器外科学会総会
北海道 函館市、函館市民会館、函館アリーナ、花びしホテル 令和5年7月12日－14日
- 司会：池永雅一
Session2 大腸癌治療を考える
豊中市、千里ライフサイエンスセンタービル 令和5年7月20日
- 司会：今村博司
Cachexia Seminar in Osaka Web開催 令和5年8月29日
- 司会：今村博司
一般講演 胃がん治療を考える会 (2023)
豊中市、千里ライフサイエンスセンタービル 令和5年8月31日
- 司会：今村博司
ディスカッション『治療の最大化を考える～治療継続とICのポイント～』
Lilly Gastric Cancer Seminar (2023)
豊中市、千里ライフサイエンスセンタービル 令和5年9月8日
- 司会：今村博司
Session2 特別講演
第3回市立豊中病院がんゲノム医療セミナー 豊中市、市立豊中病院 令和5年9月29日
- 司会：今村博司
学術セミナー 胃癌治療のこれから～変わるもの・変わらないもの～
第61回日本癌治療学会学術集会 神奈川県 横浜市、パシフィコ横浜 令和5年10月19日－21日
- 座長：池永雅一
一般演題（口演） その他の小腸・大腸腫瘍
第78回日本大腸肛門病学会学術集会 熊本県 熊本市、熊本城ホール 令和5年11月10日－11日
- 司会：池永雅一
ビデオワークショップ5-2 結腸がんに対する体腔内吻合の適応と問題点②
第85回日本臨床外科学会総会
岡山県 岡山市、岡山コンベンションセンター他 令和5年11月16日－18日

診療部門の現況と研究研修事項

I 医務局の現況と研究研修事項

■司会：清水潤三

ワークショップ13 外科医が身につけるべき感染症診療の知識と技能

第85回日本臨床外科学会総会

岡山県 岡山市、岡山コンベンションセンター他 令和5年11月16日－18日

■司会：清水潤三

シンポジウム 「更なるチーム医療の深化に必要な $+\alpha$ （技術と情熱）とは？」

第45回日本手術医学会総会 神奈川県 横浜市、パシフィコ横浜 令和5年11月24日－25日

■座長：清水潤三

シンポジウム7 創傷管理の最前線

第36回日本外科感染症学会総会学術集会

福岡県 北九州市、北九州国際会議場 令和5年12月15日－16日

■座長：清水潤三

合同シンポジウム(日本穿刺ドレナージ研究会) 耐えがたい術後感染性合併症を乗り越えるためのIVR

第36回日本外科感染症学会総会学術集会

福岡県 北九州市、北九州国際会議場 令和5年12月15日－16日

■司会：鈴木陽三

一般演題2 第17回関西ヘルニア研究会

大阪市、大阪スカイビル 令和5年12月16日

■司会：今村博司

アナモレリンが必要な患者さんに、少しでも早く届けるために

がん悪液質治療ハイブリッドセミナー～これからの悪液質治療を考える～

豊中市、千里阪急ホテル 令和6年3月14日

■司会：池永雅一

一般演題8 大腸：捻転1 第60回日本腹部救急医学会総会

福岡県 北九州市、北九州国際会議場、西日本総合展示場新館、AIM 令和6年3月21日－22日

12. 乳腺外科

<現 況>

令和5年度は、「外科」より「乳腺外科」を標榜した。部長1人、医長1人、で乳腺外科診療を担当した。部長は乳癌専門医、指導医を有する。

年間約120件の手術を行い、抗癌剤治療は約1,000件であった。前年度と比較し、若干増加した。悪性腫瘍手術に関しては、安全性、根治性に加えて低侵襲な手術を心がけている。

患者高齢化に伴い併存症を持った症例が増えたことや、医療の高度・複雑化が著しく、外科患者においても他科との連携や各領域のスタッフを含めたチーム医療が非常に重要になっている。当科医師は外科専門分野以外にも、ゲノム医療、がん薬物療法、緩和医療、感染対策、栄養療法、医療安全などの領域にも積極的に参加し患者をトータルにサポートすることを重視している。

また、チーム診療制の導入、カンファレンスの勤務時間内実施などを導入し、医師の働き方改革の推進に努めた。

【主要手術数】乳癌切除 124

<今後の課題>

働き方改革を見据えて、他部署へのタスクシフトや診療科内の業務の整理と役割分担、意識変革の推進を行い、長時間労働の削減に取り組む。また、全国的に外科医の希望者の伸び悩む中で、医療水準の向上と労働環境を整えて人材を確保することに努める。

全国的にも外科医を志す医師の減少により、当科も外科専攻医の減少による診療パワーの低下と現行スタッフの過剰労務が問題となり、夜間、休日の救急体制に一部制限をかけざるを得ない状態になっている。外科専攻医獲得が喫緊の課題である。

<研究研修事項>

病院内研究研修会

外科論文抄読会……………週1回	乳腺疾患合同症例カンファレンス……………週1回
外科症例検討会……………週3回	切除標本病理検討会（外、病理）……………週1回

学会発表

■乳癌既発症者に対するHBOC検査の現状

赤木謙三

第35回日本内分泌外科学会総会

長野県 松本市、ホテルブエナビスタ 令和5年6月15日－17日

■局所進行転移性乳癌に対して化学療法と局所へのモーズペーストを併用し、局所制御が得られた1例

佐藤泰史、赤木謙三

第31回日本乳癌学会学術総会

神奈川県 横浜市、パシフィコ横浜ノース 令和5年6月29日－7月1日

■乳癌術前BRCA検査症例の検討

赤木謙三、佐藤泰史

神奈川県 横浜市、パシフィコ横浜ノース 令和5年6月29日－7月1日

診療部門の現況と研究研修事項

I 医務局の現況と研究研修事項

講習・講演

■第2講 乳がんの治療と乳房再建について 「手術可能の乳がんの治療（周術期治療）」

佐藤泰史

第21回市立豊中病院 がん医療市民公開講座

豊中市、千里ライフサイエンスセンター 令和5年11月18日

司会・座長・その他

■座長：赤木謙三

遺伝性乳癌（その他）3

第31回日本乳癌学会学術総会

神奈川県 横浜市、パシフィコ横浜ノース 令和5年6月29日－7月1日

13. 整形外科

<現 況>

当科では手・上肢の外科、肩関節外科、股関節・膝関節外科、脊椎外科の専門医が在籍し、骨軟部腫瘍を除く整形外科領域をカバーできる体制を取っている。手・上肢の外科では外傷や末梢神経障害の手術を多く行っている。肩関節外科では関節鏡視下手術と人工関節手術を積極的に行っている。股関節・膝関節外科では人工関節手術を数多く行っており、股関節ではナビゲーションシステムを用いて正確で安全な手術が可能となっている。脊椎外科では頸椎から胸椎、用類まで幅広い疾患に対する手術治療を行っている。また脊椎の固定術でもナビゲーションシステムを導入し、正確で安全な手術が可能となっている。

<手術件数：分野別>

上肢外傷手術	345	上肢・肩関節外科手術	244
下肢外傷手術	158	腫瘍手術	28
下肢人工関節手術	158	その他手術	7
脊椎外科手術	189		
合 計			1,129

<今後の課題>

鏡視下手術、低侵襲手術を積極的に行っていくことで入院期間の短縮と早期の社会復帰を促進していくように努めている。

回復期病棟の閉鎖に伴い、地域病院と連携し、回復期病院への転院を早期に進めるように努める。

<研究研修事項>

病院内研究研修会

整形外科抄読会……………週1回	部長回診……………週1回
整形外科症例検討会……………週1回	

著書

■整形外科Surgical Technique books10 人工肩関節置換術 HHR・TSA・RSA 水野直子、Gilles Walch	RSA術後脱臼の対処法	メディカ出版	令和5年
---	-------------	--------	------

刊行論文

- iPS細胞から作製した軟骨様髄核組織による椎間板再生
釜谷崇志、萩澤宏樹、妻木範行、海渡貴司
整形・災害外科 66 (10) : 1241-1245, 2023
- 鏡視下 Bankart 修復術後の関節窩横径減少は DAFFでも生じるか？
水野直子
肩関節 47 (1) : 69-73, 2023
- RSA の外方化の様式による外転・内転角度への影響
水野直子
肩関節 47 (1) : 204-207, 2023
- 橈側腱膜縫縮及び再建により治療した非外傷性母指伸筋腱脱臼の1例
阿部真悟、栗山幸治
日本手外科学会雑誌 39 (4) : 548-551, 2023

- Association of Hyperlipidemia With Perioperative Complications in Posterior Cervical Spine Fusion: A Comparative Retrospective Study.
Okada R, Son SM, Fresquez Z, Formanek B, Mertz K, Buser Z, Wang JC.
Clinical Spine Surgery 36 (10) : E457-E463, 2023
- The Effect of Hyperlipidemia as a Risk Factor on Postoperative Complications in Patients Undergoing Anterior Cervical Discectomy and Fusion.
Son SM, Okada R, Fresquez Z, Formanek B, Mertz K, Wang JC, Buser Z.
Clinical Spine Surgery 36 (10) : E530-E535, 2023
- Risk factors for insufficient ultrasound-guided supraclavicular brachial plexus block
Abe S, Kondo H, Tomiyama Y, Shimada T, Bun M, Kuriyama K.
Journal of Experimental Orthopaedics 10 (1) : 2023

学会発表

- 当院における術者施行の超音波ガイド下鎖骨上腕神経叢ブロックの効果
阿部慎悟、栗山幸治
第66回日本手外科学会 東京 令和5年4月
- 骨棘形成を伴う上腕三頭筋腱裂離骨折に対してsuture bridge法に準じて治療した1例
西村康佑、伏本カーディン、小船圭一、須之内紀一、安田彩夏、今井優子、吉田礼徳、山本健吾、栗山幸治
第49回日本骨折治療学会学術集会 静岡 令和5年6月
- 手根中央関節亜脱臼を伴った近位手根列前額面骨折の2例
栗山幸治、阿部慎悟、今井優子
第15回日本手関節外科ワークショップ 新潟 令和5年9月
- Can eccentric glenosphere help to prevent scapular notching after reverse total shoulder arthroplasty in a three-dimensional computational model?
Mizuno N, Sunouchi K.
第15回 International Congress on Shoulder and Elbow Surgery(ICSES) Rome 令和5年9月
- The effect of RSA lateralization on abduction and adduction
Sunouchi K, Mizuno N.
第15回 International Congress on Shoulder and Elbow Surgery(ICSES) Rome 令和5年9月
- RSAにおけるscapular impingementに対する肩甲骨頸部形態の影響
水野直子
第50回日本肩関節学会 東京 令和5年10月
- 骨棘形成を伴う上腕三頭筋腱裂離骨折に対してsuture bridge法に準じて治療した1例
西村康佑、伏本カーディン、小船圭一、須之内紀一、安田彩夏、今井優子、吉田礼徳、山本健吾、栗山幸治
第61回大阪骨折研究会 大阪 令和5年11月

講習・講演

- 肩関節外科医22年目のつぶやき
水野直子
春季整形外科生涯研修コース 大阪 令和5年5月
- フランスのワインと食文化から学ぶロコモ・フレイル対策 パート1; Petits plaisirsフランス人の長寿の秘訣
水野直子
第20回日仏整形外科学会 横浜 令和5年7月

■女性肩外科医23年目のつぶやき

水野直子

初期臨床研修医のための整形外傷・救急に強くなるセミナー

名古屋

令和5年8月

■座談会2 日本肩関節学会のダイバーシティ&インクルージョン

水野直子

第50回日本肩関節学会

東京

令和5年10月

■グレンオイドのディスカッション BIO-RSA

水野直子

Stryker's Tornier Symposium 2023

東京

令和5年12月

司会・座長・その他

■座長：水野直子

肩不安定症 1

日本スポーツ整形外科学会2023

広島

令和5年6月

■座長：水野直子

Symposium : Prothèse totale inversée de l'épaule au Japon

“リバー ス型人工肩関節 一 本邦導入から 9 年、今後の展望— ”

第20回日仏整形外科学会

横浜

令和5年7月

■座長：水野直子

一般口演16 RSA2

第50回日本肩関節学会

東京

令和5年10月

14. 脳神経外科

<現 況>

地域の基幹病院脳神経外科として、急性期脳血管障害、良性脳腫瘍、悪性脳腫瘍、頭部外傷、感染など、対象疾患は多岐にわたり、幅広く診療を行っている。

また、脳卒中センターを脳神経内科とともに担っており、脳梗塞、脳出血、くも膜下出血など多くの急性期脳卒中患者を受入れている。迅速な診断、治療が可能な体制を整え、主幹動脈閉塞に対しては24時間体制で経皮的血栓除去を行っている。また、低侵襲治療として、動脈瘤コイル塞栓術、ステント留置術などの脳血管内治療を積極的に活用している。

直達手術に関しては手術用ナビゲータ、術中電気生理モニタリング（SEP, MEP）を導入しており、安全確実な手術をめざしている。令和元年6月にはSCU病床（9床）開設し脳卒中患者の受入れ体制を整備した。新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、診療体制の再構築を行っている。

<手術件数>

脳腫瘍摘出術	27例
動脈瘤クリッピング／コイル塞栓術	19例
頸動脈血栓内膜剥離術／頸動脈ステント留置	11例
脳血管内治療	62例
その他、慢性硬膜下血腫の穿頭ドレナージ、脳膿瘍摘出術など	
年間	計245例

<今後の課題>

新型コロナウイルス感染症が5類に移行したが、救急搬送数は増加していない。救急応需体制を再構築して市民の期待に応える必要がある。

<研究研修事項>

病院内研究研修会

脳神経外科カンファレンス……………週1回	脳神経外科死亡・合併症カンファレンス……月1回
脳神経外科手術カンファレンス……………週1回	脳卒中カンファレンス……………週1回
脳神経外科術後カンファレンス……………週1回	脳神経内科脳神経外科新入院カンファレンス……週5回
抄読会……………週1回	

刊行論文

■ Characteristics of Changes in Intrathecal Baclofen Dosage over Time due to Causative Disease

Kimoto Y, Oshino S, Tani N, Hosomi K, Khoo HM, Fujita Y, Miura S, Iwata T, Emura T, Matsushashi T, Onoda Y, Ishiuchi T, Yanagisawa T, Hirata M, Kishima H.

Neurol Med Chir (Tokyo) 63 (12): 535-541, 2023

学会発表

■ 内視鏡下血腫除去術の手技を用いた脳膿瘍手術

森 康輔、北村慧介、宇野貴宏、林 元久、後藤 哲、西尾雅実

第32回脳神経外科手術と機器学会

富山県 富山市、富山国際会議場 令和5年4月21日－22日

- 神経根引き抜き損傷後疼痛に対する後根進入部ラジオ波破壊術の長期成績
細見晃一、押野 悟、木本優希、三浦慎平、江村拓人、森 信彦、岩田貴光、松橋崇寛、小野田祐司、
石内崇勝、藤永貴大、Khoo Hui Ming、柳澤琢史、谷 直樹、齋藤洋一、貴島晴彦
日本脳神経外科学会 第82回学術総会
神奈川県 横浜市、パシフィコ横浜 令和5年10月25日－27日
- 頭蓋骨粉碎陥没骨折に対する整復における工夫
西川侑甫、川端修平、平井信登、寺田栄作、梶川隆一郎、都築 貴
日本脳神経外科学会 第82回学術総会
神奈川県 横浜市、パシフィコ横浜 令和5年10月25日－27日
- コイル塞栓術と内視鏡下血腫除去術を施行した血腫形成型くも膜下出血についての検討
森 康輔、西野鏡雄、金地真生、宇野貴宏、林 元久、後藤 哲、藤田敏晃、西尾雅実
第82回日本脳神経外科学会学術総会
神奈川県 横浜市、パシフィコ横浜 令和5年10月25日－27日
- コイル塞栓術と内視鏡下血腫除去術を施行した血腫形成型くも膜下出血についての検討
森 康輔、西野鏡雄、金地真生、宇野貴宏、林 元久、後藤 哲、藤田敏晃、西尾雅実
第30回日本神経内視鏡学会 愛知県 名古屋市、ウインクあいち 令和5年11月16日－17日
- 外傷により生じた後交通動脈損傷後の解離性動脈瘤破裂に対してコイル塞栓術を施行した1例
西川侑甫、川端修平、平井信登、寺田栄作、梶川隆一郎、都築 貴
第39回日本脳神経血管内治療学会学術集会
京都府 京都市、国立京都国際会館 令和5年11月23日－25日
- 血管内治療と内視鏡下血腫除去術を施行した血腫形成型くも膜下出血についての検討
森 康輔、西野鏡雄、金地真生、宇野貴宏、林 元久、後藤 哲、藤田敏晃、西尾雅実
第39回日本脳神経血管内治療学会学術集会
京都府 京都市、国立京都国際会館 令和5年11月23日－25日
- 当院における神経障害性疼痛に対する反復経頭蓋磁気刺激治療の現状
森 信彦、細見晃一、西 麻哉、林 燦碩、董 冬、Khoo Hui Ming、谷 直樹、押野 悟、齋藤洋一、
貴島晴彦
第53回日本臨床神経生理学会学術大会
福岡県 福岡県、福岡国際会議場 令和5年11月30日－12月2日
- 視床痛における機能結合変化：異種間神経画像研究
董 冬、細見晃一、清水豪士、岡田研一、角野喜則、森 信彦、堀 祐樹、八幡憲明、平林敏行、
貴島晴彦、齋藤洋一
第53回日本臨床神経生理学会学術大会
福岡県 福岡県、福岡国際会議場 令和5年11月30日－12月2日
- 脊髄障害性疼痛に対する脊髄刺激療法のリード留置位置の検討
細見晃一、森 信彦、山本暁大、石内崇勝、松橋崇寛、江村拓人、谷 直樹、押野 悟、齋藤洋一、
貴島晴彦
第45回日本疼痛学会 福島県 福島市、コラッセふくしま 令和5年12月8日－9日
- 慢性疼痛患者における疼痛関連評価を用いた特性分類
森 信彦、細見晃一、山本暁大、董 冬、谷 直樹、押野 悟、齋藤洋一、貴島晴彦
第45回日本疼痛学会 福島県 福島市、コラッセふくしま 令和5年12月8日－9日
- 慢性疼痛患者における「しびれ」の評価
山本暁大、細見晃一、森 信彦、Khoo Hui Ming、二宮貢士、谷 直樹、押野 悟、佐々木学、
柴田政彦、貴島晴彦
第45回日本疼痛学会 福島県 福島市、コラッセふくしま 令和5年12月8日－9日

診療部門の現況と研究研修事項

I 医務局の現況と研究研修事項

■後根侵入部破壊術の適応と有効性

細見晃一、押野 悟、木本優希、三浦慎平、末松拓也、山本暁大、森 信彦、柳澤琢史、谷 直樹、西尾雅実、佐々木学、齋藤洋一、貴島晴彦

第63回日本定位・機能神経外科学会

北海道 札幌市、ニューオータニイン札幌 令和6年2月2日－3日

■PitNETによる下垂体卒中を疑い内視鏡下経鼻下垂体手術を施行し病理結果からPrimary xanthomatous hypophysitisと診断した一例

金地真生、森 康輔、西川侑甫、宇野貴宏、細見晃一、後藤 哲、西尾雅実

第34回日本間脳下垂体腫瘍学会 愛知県 愛知県、ウインクあいち 令和6年2月16日－17日

■LPシャント術の手術手技と併発症対策

細見晃一、Khoo Hui Ming、後藤 哲、森 康輔、西川侑甫、金地真生、谷 直樹、押野 悟、西尾雅実、貴島晴彦

第25回日本正常圧水頭症学会

大阪市、なんばスカイオコンベンションホール 令和6年2月17日－18日

■当院における特発性正常圧水頭症に対する治療成績

西川侑甫、後藤 哲、金地真生、森 康輔、細見晃一、西尾雅実

第25回日本正常圧水頭症学会 豊中市、千里ライフサイエンスセンター 令和6年2月17日－18日

■血管内治療と内視鏡手術にを施行した血腫形成型くも膜下出血についての検討

森 康輔、西野鏡雄、金地真生、宇野貴宏、林 元久、後藤 哲、藤田敏晃、西尾雅実

Stroke2024 神奈川県 横浜市、パシフィコ横浜 令和6年3月7日－9日

研究会・集談会発表

■ATBIの1例

森 康輔

Solitaire de Night～SolitaireとREACTを用いた血栓回収療法～

大阪市 Web開催 令和5年7月24日

講習・講演

■脳卒中後の痛み：診断から治療まで

細見晃一

第5回 阪神脳神経カンファレンス

Web開催 令和5年10月3日

■脳卒中後の痛み up to date

細見晃一

第175回地域連携学術講演会 ～脳卒中・疼痛診療 Web Seminar～

Web開催 令和5年11月16日

■脳神経外科における痛みの治療

細見晃一

第20回埼玉脳神経外科ソサイエティ

埼玉県 川越市、ウェスタ川越

令和6年1月20日

■現在の脳卒中急性期診療

西尾雅実

脳卒中痙縮セミナーin北摂

豊中市、千里ライフサイエンスセンター

令和6年3月28日

司会・座長・その他

■座長：細見晃一

シンポジウム2 知の発信 疼痛の最新技術

発表演題：4演題

第63回日本定位・機能神経外科学会

北海道 札幌市、ニューオータニイン札幌 令和6年2月2日－3日

■座長：細見晃一

カネカメディックス共催セミナー 持続脊髄ドレナージテストによるiNPH の診断

演者：浜松医療センター 中山禎司

第25回日本正常圧水頭症学会

大阪市、なんばスカイオコンベンションホール 令和6年2月17日－18日

15. 心臓血管外科

<現 況>

末梢血管領域を専門とする藤村博信を中心にスタッフ3名と循環器内科医、血管外科専門の応援医師の助けを借りながら、腹部大動脈以下の末梢血管症例に特化し診療を行っている。

心臓センター来院症例のうち、カンファレンスにて開心手術が必要と診断された症例は、病病連携により大阪大学医学部附属病院にお願いしている。

COVID-19による診療制限はなくなり手術症例数はCOVID-19前より増加しトータル304例と大幅に増加した。

腹部大動脈瘤に対する治療（人工血管置換術、ステントグラフト留置術）、閉塞性動脈硬化症に対する治療（バイパス術、経皮経管血管形成術(PTA)）や下肢静脈瘤に対する治療（ストリッピング術、高位結紮術、硬化療法、血管内焼灼術、血管内塞栓術（スーパーグルー治療）、維持透析導入に際する動静脈瘻作成術を主に行っている。従来よりさらなる手術の低侵襲化を得るために、ステントグラフト治療における鼠径部アプローチは、ほぼ全例でclosure deviseを用いた穿刺のみのアプローチとしている。また引き続き足趾潰瘍を生じているASO症例に対しては、可能な限り切断を回避するために膝下動脈以下への自家静脈を用いた血行再建治療を積極的に行っている。

<手術件数>

腹部大動脈瘤	37例	透析シャント作成術	10例
閉塞性動脈硬化症	84例	急性動脈閉塞	9例
下肢静脈瘤	160例		

<今後の課題>

専門スタッフ3名と念願のスタッフの増員が得られた。血管系疾患に一定頻度で生じる緊急症例にある程度対応できる体制が整ったが、まだ、十分な対応ができていないとは言えない。実際に、動脈瘤の破裂や急性動脈閉塞症例に対して、早急な手術治療を要するために他院に転院を依頼するケースもあった。十分な救急対応を可能にするには、麻酔科人員や手術室などの増加が必要である。

人口の高齢化により、手術対象年齢も高齢化の一途をたどっている。高齢者に対する侵襲的治療後は、大きな合併症を生じなくても、全身状態の悪化やFrailtyの増悪、術後せん妄や筋力低下などクリニカルパスどおりには推移しないことが多く、パラメディカルを含むさらに多くのマンパワーを要する。この部分も課題である。

<研究研修事項>

病院内研究研修会

心臓血管外科術前カンファレンス……………週1回

著書

■大きく変化した下肢静脈瘤の手術

藤村博信

豊中市医師会雑誌

きたがわプリント

令和5年12月

刊行論文

- Use of selective visceral angiography in surgical strategy planning for celiac artery aneurysm in the celiacomesenteric trunk.

Takasumi Goto, Hironobu Fujimura, Takashi Sintani, Takashi Shibuya, Shigeru Miyagawa.

Journal of Cardiothoracic Surgery 19 : 11, 2024

- Cardiac tamponade complicating esophagectomy and retrosternal gastric tube reconstruction in a patient with an abnormal ascending aorta position: a case report.

AoyamaS, MiyazakiY, MotooriM, HirotaM, ItamiT, MatsumotoS, HiranoM, AomatsuM, GotoT, Kitahara M, OzatoY, NishizawaY, KomatsuH, InoueA, KagawaY, TomokuniA, IwaseK, NishiH, FujitaniK.

Surg Case Rep 10 (1) : 48, 2024

学会発表

- 経皮的EVARにおける腸骨一大腿動脈領域のアクセストラブルの検証

後藤隆純、藤村博信、澁谷 卓、新谷 隆、宮川 繁

第123回日本外科学会定期学術集会

東京都 港区、グランドプリンスホテル新高輪 令和5年4月27日－29日

- 腹腔一上腸間膜動脈共通幹に合併した腹腔動脈瘤に対する術式決定に選択的腹部分枝造影検査が有用であった1例

後藤隆純、藤村博信、澁谷卓、新谷 隆、宮川 繁

第51回日本血管外科学会学術総会

東京都 新宿区、京王プラザホテル 令和5年5月31日－6月2日

- 重度跛行病変に対する膝下膝窩動脈以遠へのバイパスの是非

山倉拓也、三宅啓介、中村 隆、土井田 務、山角太良、藤村博信、澁谷 卓、島村和男、宮川 繁

第51回日本血管外科学会学術総会

東京都 新宿区、京王プラザホテル 令和5年5月31日－6月2日

- 食道癌術後既往のある傍腎動脈腹部大動脈仮性瘤に対し腹部3分岐再建によるChimney EVARを施行した1例

後藤隆純、藤村博信、澁谷 卓、新谷 隆、宮川 繁

第64回日本脈管学会学術総会

神奈川県 横浜市、パシフィコ横浜ノース 令和5年10月26日－28日

- 傍腎動脈腹部大動脈瘤に対するChimney EVARの早期・中期治療成績

後藤隆純、藤村博信、澁谷 卓、新谷 隆、宮川 繁

第54回日本心臓血管外科学会学術集会

静岡県 浜松市、アクトシティ浜松 令和6年2月22日－24日

司会・座長・その他

- 座長：藤村博信、古山 正

一般口演10 末梢動脈・2

演者：日本医科大学武蔵小杉病院 前田基博、他

第51回日本血管外科学会学術総会東京都 新宿区、京王プラザホテル 令和5年5月31日－6月2日

- 座長：藤村博信

一般演題ポスター9 VTE3他

演者：吉祥院病院 田中伸岳、他

第43回日本静脈学会総会 愛媛県 松山市、愛媛県県民文化会館 令和5年7月6日－7日

■パネリスト：藤村博信、他

CLTI治療の最前線

演者：大阪警察病院 飯田 修

第2回北大阪血管外科meeting

大阪市、ホテルグランヴィア大阪 令和5年7月11日

■座長：藤村博信、平野雅生

一般演題ポスター13 静脈瘤・血管アクセス

演者：横浜南共済病院 金井春果、他

第64回日本脈管学会学術総会

神奈川県 横浜市、パシフィコ横浜ノース 令和5年10月26日－27日

■コメンテーター：藤村博信、他

難治性足病変に対する形成外科的アプローチ

演者：大阪公立大学 元村尚嗣

第3回北大阪血管外科meeting

大阪市、中之島フェスティバルタワー 令和6年2月6日

16. 形成外科

<現 況>

令和5年4月に形成外科が開設され、前田大介医長、東本究仁専攻医の2名が着任した（形成外科部長は栗山幸治整形外科主任部長が兼任）。形成外科では、主に体表面に生じた組織の異常や変形、欠損に対して治療を行っている。外来は整形外科ブースで行い、入院は4階北病棟で3床から開始している。

4月の開設当初より手術は、局所麻酔では半日枠を週1回で行い、全身麻酔では整形外科の枠を一部使用し行っていた。手術症例増加に伴い、10月より局所麻酔手術は半日枠の週2回に増枠された。乳癌術後の乳房再建では、ティッシュエキスパンダー挿入、インプラントによる人工物を用いた再建や自家組織による再建（有茎皮弁、遊離皮弁を含めて）を行っている。また、他科が必要とする再建手術や処置に対して、周術期やその後のフォローアップも連携している。

以前より当院ではリンパ浮腫外来で、がん切除に伴うリンパ節郭清後のリンパ浮腫に対して保存的加療や指導を行い、手術を希望された患者は他院での治療を余儀なくされたが、当科の介入によって手術加療（リンパ管静脈吻合術など）を導入し、当院でも治療が可能となった。また、救急診療での創傷や顔面骨骨折に対して、専門的治療が必要な場合は当科へのコンサルトを受け、そのような症例も院内での対応が可能となった。ケロイド・肥厚性瘢痕の治療では放射線科との連携で、瘢痕手術後に早期の放射線治療を行っている。

<今後の課題>

当科への顔面骨骨折の紹介が比較的多いが、受傷後2週間以内には手術加療が必要となるため、さらなる全身麻酔手術枠の確保が重要となる。また、令和6年度より医師の働き方改革による勤務体系が本格的に始まったが、現在2名体制のため当直業務翌日の人員不足で診療に制限が出ることもあり、今後、形成外科医の増員が必要と考える。

<研究研修事項>

病院内研究研修会

術前・術後カンファレンス……………週1回

学術・研修活動（市立豊中病院主催・共催・その他）

◎市立豊中病院主催・共催

■がん医療市民公開講座 ◎

乳がん切除後の乳房再建

前田大介

豊中市、千里ライフサイエンスセンター

参加者：約100名

令和5年11月18日

刊行論文

■外傷を契機に頭部巨大皮下血腫を生じたEhlers-Danlos症候群の1例

中村文哉、中川達裕、前田大介、中山理華子、柳下詩織

日本形成外科学会会誌 44（3）：115-122, 2024

学会発表

■ミャンマー連邦共和国での口唇・口蓋裂手術ミッションの経験

前田大介、西本 聡、鹿野雄介、山内菜都美、岸 直子、前田 求

第41回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会

兵庫県 淡路市、淡路夢舞台国際会議場

令和5年11月9日－10日

寄稿文・テレビ・ラジオ・その他

■メディカル・トピックス「異常瘢痕（ケロイド・肥厚性瘢痕）に対する治療の現状」

前田大介

豊中市医師会 月報

豊中市医師会

令和6年2月号

17. 皮膚科

<現 況>

令和5年度はスタッフ2名、専攻医2名の計4名体制で主に皮膚悪性腫瘍含めた皮膚外科および難治性皮膚疾患を含む皮膚科疾患全般にわたり診療をしている。難治症例は大学を含めたカンファレンスにて随時検討している。

悪性黒色腫に対しては手術療法含めて、検査として色素、蛍光色素、RIを使用したセンチネルリンパ節の同定及び生検を、治療では免疫チェックポイント阻害薬、分子標的薬、化学療法、必要に応じて放射線治療を組み合わせ対応している。また、乳房外パジェット病/血管肉腫/メルケル細胞癌等の稀少癌に対しても手術、化学療法、放射線療法等による集学的治療に積極的に取り組んでいる。

上記に関しては、豊能2次医療圏における地域がん診療連携拠点病院としての一翼を担っている。

難治皮膚疾患としては、尋常性乾癬/乾癬性関節炎に対しては各種生物学的製剤の導入症例も多く、病状に応じて各種治療選択をしている。

また、アトピー性皮膚炎の生物学的製剤/JAK阻害薬、慢性蕁麻疹の生物学的製剤も数多く導入している。

緊急を要する疾患としては、重症皮膚軟部組織感染症の緊急手術を行っている。

[外来部門]

令和5年度も例年どおり高い紹介率、逆紹介率を維持している。引き続き近隣診療所及び近隣総合病院との良好な病診連携、病病連携に努めていく。

[入院部門]

手術症例、皮膚科領域の急性期疾患等多彩な症例に対応している。皮膚悪性腫瘍の治療件数及び皮膚悪性腫瘍の手術件数は大阪府下の施設のなかでも上位にランクされる。

令和5年度手術数 全体370件（手術場のみ） うち悪性腫瘍103件、全麻手術52件

<今後の課題>

引き続き、地域の中核病院の皮膚科として悪性腫瘍、手術、急性期疾患、難治疾患の分野での貢献に努めていく。

<研究研修事項>

病院内研究研修会

皮膚科臨床カンファレンス……………週1回	皮膚科手術カンファレンス……………週1回
皮膚科病理カンファレンス……………週1回	

学会発表

■第7回NDBオープンデータ分析にて分かった大阪エリアにおける皮膚悪性手術の実態

後藤範子、小島有紗、竹林宏朗、横見明典

第497回 大阪地方会

大阪市、Web開催 令和5年5月20日

■当科で経験した下肢ガス壊疽32例の検討

黒神 祐、坂本理佳、後藤範子、横見明典

第122回日本皮膚科学会総会

神奈川県 横浜市、パシフィコ横浜 令和5年6月1日－4日

診療部門の現況と研究研修事項

I 医務局の現況と研究研修事項

■白人の尋常性乾癬に患者にみられた多発性基底細胞癌の1例

黒神 祐、坂本理佳、後藤範子、横見明典

第38回日本皮膚外科学会総会・学術大会

福岡県 久留米市、久留米シティプラザ 令和5年7月22日－23日

■当科における頭部血管肉腫に対する強度変調放射線治療の検討

小島有紗、竹林宏朗、後藤範子、横見明典

第116回 近畿集談会

大阪市、オーバルホール 令和5年7月30日

■免疫チェックポイント阻害剤、重粒子療法、遺伝子パネルによる受け皿試験等の治療をしたメラノーマの1例

横見明典、小島有紗、竹林宏朗、後藤範子

第39回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会

愛知県 名古屋市、名古屋国際会議場 令和5年8月4日－5日

■乾癬治療に対する長期生物学的製剤投与がうつ病に与える影響に付いての検討

横見明典、小島有紗、竹林宏朗、後藤範子

第38回日本乾癬学会学術大会 東京都、グランドニッコー東京 台場 令和5年8月25日－26日

■外陰部の先天性色素性母斑より発症した悪性黒色腫の1例

小島有紗、竹林宏朗、後藤範子、横見明典

第74回日本皮膚科学会中部支部学術大会

京都府 京都市、国立京都国際会館 令和5年10月28日－29日

■患側史上最高の平均気温を記録した9月に当院搬送されたガス壊疽5例の検討

横見明典、小島有紗、竹林宏朗、後藤範子

第500回 大阪地方会

大阪市、ヒルトン大阪 令和5年12月3日

■アリルイソプロピルアセチル尿素により固定薬疹の2例

後藤範子、小島有紗、竹林宏朗、横見明典

第500回 大阪地方会

大阪市、ヒルトン大阪 令和5年12月3日

■掌蹠膿疱症性骨関節炎に対して関節超音波検査によりフォローが有用であった掌蹠膿疱症の1例

竹林宏朗、小島有紗、後藤範子、横見明典

第53回日本皮膚免疫アレルギー学会学術大会

千葉県 浦和市、グランドニッコー東京ベイ 舞浜 令和5年12月8日－10日

■当科で下肢ガス壊疽に対して下肢大切断術を施行した9例の検討

黒神 祐、坂本理佳、後藤範子、横見明典

第4回日本フットケア・足病医学年次学術集会

沖縄県 宜野湾市、沖縄コンペティションセンター 令和5年12月22日－23日

■ジアフェニルスルホン投与中にメトヘモグロビン血症を生じた水疱性類天疱瘡の1例

竹林宏朗、小島有紗、後藤範子、横見明典

第501回大阪地方会

大阪市、朝日生命ホール 令和6年2月3日

講習・講演

■アトピー性皮膚炎

横見明典

DDF2023

大阪市、ホテルグランビア大阪

令和5年10月7日

司会・座長・その他

■座長：後藤範子

J u v e n i l e T e m p o r a l A r t r r i t i s について

演者：市立吹田市民病院 太田朝子

第9回北摂皮膚科W e b セミナー

豊中氏、Web開催

令和5年12月13日

受賞

■ポスター賞

黒神 祐

第122回日本皮膚科学会総会

横浜市、パシフィコ横浜

令和5年6月1日－4日

18. 泌尿器科

<現 況>

【スタッフ】 常勤医 5名、専攻医3名

【外来部門】

年間の外来初診患者は 817人で、延べ外来患者数は 14,603 人、1日平均外来(週実働4日) 患者数は75人であった。

【入院部門】

年間の新入院患者数は1,091人で、平均在院日数6.9日、手術件数は548件、体外衝撃波結石破碎術 (ESWL) が32件、前立腺癌の疑いで前立腺生検を行った症例は263件であった。4名の泌尿器腹腔鏡技術認定医とロボット手術認定指導医 (プロクター) が中心となり、下記のとおり手術を行ったが、適応の拡大に伴い、年々ロボット支援手術が増加している。進行した各種尿路性器癌に対して、ホルモン療法、化学療法、免疫療法を、可能な限り外来通院にて実施している。尿路結石治療にも注力しており、ホルミウムレーザーを用いたf-TUL (経尿道的腎尿管碎石術) やPNL (経皮的腎碎石術)、またこれらを同時に行う難易度の高いTAP手術も行っている。高齢者の結石性腎盂腎炎症例や他臓器癌による急性腎後性腎不全症例の受入れ要請も多く、それらの症例には緊急的に尿管ステント留置や腎瘻造設を行っている。また小児の包茎や停留精巣、精巣捻転の手術も施行している。

手術実績 令和5年4月～令和6年3月：総手術件数：550件

ロボット支援手術(腎、尿管、膀胱、前立腺)	137	開腹手術(腎、後腹膜、尿管、その他)	5
腹腔鏡下手術(副腎、腎、尿管、膀胱、尿管管)	34	陰嚢内容・陰茎手術(精巣、陰茎)	28
経尿道的手術(尿管、膀胱、前立腺、尿道)	239	その他の手術(腎、尿道)	3
尿路結石内視鏡手術(腎、尿管、膀胱)	104		

(術式の詳細は病院ホームページの泌尿器科部門を参照)

<今後の課題>

働き方改革の実施により、時間外労働の制限を受ける中で、増え続ける手術症例にどのように対応していくべきか頭を悩ませている。次年度人員1名減という厳しい環境の中で若手の教育と地域医療への貢献を両立させるにはますますの病診連携、病病連携が必要であると考えている。

<研究研修事項>

病院内研究研修会

泌尿器科症例検討会……………週1回	泌尿器科病理検討会……………月2回
泌尿器科病棟カンファレンス……………週1回	泌尿器科薬物療法勉強会……………週1回

著書

■尿路結石症診療ガイドライン 2023年版

鄭 則秀 他

尿路結石症診療ガイドライン 2023年版 医学図書出版

令和5年

刊行論文

- Maintaining Serum Hemoglobin Levels Within the Physiological Range Prevented Bladder Tamponade Recurrence Due to Radiation-Induced Hemorrhagic Cystitis:A Case Report.

上田倫央、佐藤元孝、松川敦紀、隠岐雄太、水野稜也、秋山 舞、鄭 則秀、三宅 修

Res Rep Uro 2023年8月

- Lower Dose of 5 mL of 1% Lidocaine is More Suitable than the Conventional 10 mL for Caudal Block in Transrectal Prostate Biopsy: A Retrospective Cohort Study

上田倫央、佐藤元孝、森 駿介、松川敦紀、隠岐雄太、久次米雄馬、水野稜也、堀谷 弘、山本哲也、深江彰太、吉永光弘、松下 慎、秋山 舞、上戸 賢、本田絢子、中山治郎、鄭 則秀、三宅 修

Adv Urol. 2024年2月

学会発表

- 高脂肪食による腸内細菌叢のディスバイオーシスが前立腺癌の増殖に与える影響の解明

松下 慎

第110回日本泌尿器科学会総会

兵庫県 神戸市、神戸コンベンションセンター 令和5年4月20日－23日

- 腸内細菌叢と前立腺癌の関係性の解明

松下 慎

第110回日本泌尿器科学会総会

兵庫県 神戸市、神戸コンベンションセンター 令和5年4月20日－23日

- Shallow anterior chamber depth during steep trendelenburg position in robot-assisted laparoscopic prostatectomy

佐藤元孝、森 駿介、久次米雄馬、秋山 舞、松下 慎、鄭 則秀、三宅 修

第110回日本泌尿器科学会総会

兵庫県 神戸市、神戸コンベンションセンター 令和5年4月20日－23日

- The impact of docetaxel and cabazitacel side effects on the duration of chemotherapy treatment for castrationresistant prostate cancer

久次米雄馬、前川高熙、梅田 駿、松下 慎、佐藤元孝、鄭 則秀、三宅 修

第110回日本泌尿器科学会総会

兵庫県 神戸市、神戸コンベンションセンター 令和5年4月20日－23日

- 腎癌術後播種・転移病変に対してペンブロリズマブ＋レンバチニブが著効した1例

前川高熙、佐藤元孝、森 駿介、久次米雄馬、梅田 駿、秋山 舞、松下 慎、鄭 則秀、三宅 修

第253回日本泌尿器科学会関西地方会

滋賀県 大津市、ピアザ淡海 令和5年6月10日

- 日本人の高悪性度前立腺癌に関連する腸内細菌叢の解明

松下 慎

日本アンドロロジー学会第42回学術大会

愛知県 名古屋市、ウインクあいち 令和5年6月23日－24日

- エンホルツマブベドチンによりCA19-9が著明に低下した転移性膀胱癌の1例

久次米雄馬、前川高熙、梅田 駿、松下 慎、佐藤元孝、鄭 則秀、三宅 修

第88回日本泌尿器科学会東部総会

北海道 札幌市、ロイトン札幌 令和5年10月7日

- 当院における吸引式アクセスシースを用いたECIRSの初期経験

梅田 駿、鄭 則秀、前川高熙、久次米雄馬、松下 慎、佐藤元孝、三宅 修

第37回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会

鳥取県 米子市、米子コンベンションセンター 令和5年11月10日

診療部門の現況と研究研修事項

I 医務局の現況と研究研修事項

講習・講演

- ウイズコロナ時代のアンチエイジングーいち泌尿器科が考えるアンチエイジングー：理解と実践PART-1
三宅 修
第17回北摂泌尿器科連合医会 豊中市、千里朝日阪急ビル 令和5年5月20日
- 私が考えるロボット手術のこつ
佐藤元孝
Urology Seminar MSD株式会社 豊中市、千里阪急ホテル 令和5年6月1日
- CTによる前立腺癌の骨健康評価
佐藤元孝
OPCSG研究会 武田薬品株式会社 大阪市、ANAクラウンプラザホテル大阪 令和5年7月13日
- 当院におけるドセタキセルとカバジタキセルの副作用に関する臨床的検討
久次米雄馬
TAXANE Conference on Prostate Cancer～前立腺がん化学療法の可能性を考察する～
大阪市、グランフロント大阪タワーC ナレッジキャピタルカンファレンスルーム「C05」 令和5年9月16日
- 去勢抵抗性前立腺癌に対するタキサン系抗がん剤の有効な使い方を考える
佐藤元孝
Prostate Cancer Treatment Strategy Conference サノフィ株式会社
大阪市、大阪国際交流センター 令和5年11月1日
- Astellas Urology Seminar 「前立腺癌患者における骨健康の評価法について考える」
佐藤元孝
アステラス株式会社 大阪市、ANAクラウンプラザホテル大阪 令和5年12月9日
- Lt RARNをして感じる手術のコツと疑問点
松下 慎
腎細胞癌を考える会 エーザイ株式会社
豊中市、千里阪急ホテル東館2階 葵の間 令和6年3月8日
- 現在の前立腺癌患者において骨健康マネジメントは必要か
佐藤元孝
前立腺癌診療UP TO DATE アステラス株式会社
大阪市、シェラトン都ホテル大阪 令和6年3月14日

司会・座長・その他

- 座長：三宅 修
前立腺癌に対する；薬物療法、サイバーナイフ療法、重粒子線療法
演者：市立池田病院 中田 渡、大阪大学大学院医学系研究科 平田岳郎、
大阪重粒子線センター 鈴木 修
北摂前立腺癌診療セミナー 豊中市、千里ライフサイエンスセンター 令和5年10月26日
- コメンテーター：佐藤元孝
「シークエンスと切り替えタイミングに関するCQを考える」
Prostate Cancer Treatment Strategy Conference
大阪市、大阪国際交流センター 令和5年11月1日
- 座長：三宅 修
尿路上皮癌バリエーションと予後・治療効果との関係
演者：大阪大学大学院医学系研究科 中竹直弥、市立池田病院 森 駿介、
大阪ろうさい病院 名手孝紀、大阪警察病院 松川敦紀、
大阪国際がんセンター 岡本崇佑
第38回大阪泌尿器腫瘍フォーラム 大阪市、富士ビル 令和5年12月21日

寄稿文・テレビ・ラジオ・その他

■メディカル・トピックス 最近の尿路結石事情

鄭 則秀

月報

一般社団法人 豊中市医師会

令和5年4月

■Cook Rezonance メタリック尿管ステントの使用経験

～メタリック尿管ステント留置中に経験した動脈瘤の1例～

鄭 則秀

雑誌

令和6年3月1日

19. 産婦人科

<現 況>

《人事》

人事は令和5年3月31日 専攻医の石井裕友および大槻摩弥が退職した。令和5年4月1日から専攻医として山口稜人及び中西 叶を採用した。

令和5年3月31日竹井智彦医員が退職し、令和5年4月1日より石田享相医員を採用した。

令和5年9月30日に加藤 恵医員が退職し、令和5年12月31日に池田佳代医長が退職した。

令和5年12月1日より加藤真由子医員を採用した。

令和5年4月1日現在常勤医8人専攻医4人非常勤2人の体制である。

令和6年4月1日から常勤医1名、専攻医2名を採用する予定である。

《産科について》

令和5年度の総分娩数は627名（単胎553名、双胎74名）であった。内訳は、生児は608名で、その他、中期中絶は9名、22週以降子宮内胎児死亡は3名であった。帝王切開分娩241名（CS率41.8%）であった。またOGCSの母体搬送は115件であった。前年度は、総分娩数は679名（単胎571名、双胎108名）、母体搬送は117件であり、分娩数は52名減少し、母体搬送数は2件減少した。

地域連携による妊婦健診「二人主治医制」は順調に運用されている。また助産師を中心に行っている院内助産「はぐみ」は18件であった。感染症指定病院としてのCOVID-19感染妊婦の受入れは、新型コロナウイルス感染症の5類移行により、通常感染症対応となった。双胎妊娠症例の分娩様式はすべて帝王切開としていたが、令和4年度より一部症例で経膈分娩を開始し、令和5年度は3件の経膈分娩を行った。

令和5年3月より非侵襲的出生前検査NIPT外来を開始し、令和5年度の外来受診者数は69件であった。

《婦人科について》

令和5年度の婦人科の総手術数は351件で、前年度より7件増加した。手術症例のうち、悪性腫瘍では前年度に比べ卵巣・卵管癌・LPMが15件から26件で11件増加し、子宮癌（子宮頸癌・体癌・子宮肉腫）は38件から28件と10件減少した。

良性腫瘍では、子宮筋腫・子宮腺筋症は92件から89件に減少し、良性付属器腫瘍は118件から106件に減少した。子宮鏡を使ったレゼクトスコープの手術は37件から45件に増加し、腹腔鏡手術は133件から139件に増加した。早期子宮体癌に対する腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術を開始した。

<手術件数>

帝王切開術 （241件） 適応重複あり

うち緊急帝王切開術 130件

前回帝王切開術	93	人工妊娠中絶術	5
胎児心拍異常	42	中期中絶	9
骨盤位	16	流産手術	31
分娩停止	25		
双胎（組）	31	母体搬送	115
品胎（組）	0	院内助産	18
子宮内感染	7		
P-PROM	5		
子宮内胎児発育遅延	2	総分娩数 627人	
前置胎盤（全～辺縁）	12	C/S率 41.8%	
低置胎盤	2		
妊娠高血圧症候群	27		
筋腫合併妊娠	2		
筋腫核出後妊娠	5		
常位胎盤早期剥離	3		
HELLP症候群	2		
その他	3		

婦人科手術（351件）

主な疾患		主な術式	
子宮頸癌	3	腹腔鏡手術	139
子宮体癌・子宮肉腫	25	付属器手術	88
卵巣癌・卵管癌・LPM	26	子宮全摘術	32
良性付属器腫瘍	106	異所性妊娠	11
子宮筋腫・子宮腺筋症	89	子宮体癌手術	2
子宮頸部上皮内腫瘍（CIN）	57	開腹手術	99
異型子宮内膜増殖症	3	付属器手術	31
頸管・内膜ポリープ	37	子宮全摘術	68
異所性妊娠	11	筋腫核出術	9
骨盤臓器脱	2	腔式子宮全摘術	1
卵巣出血	0	腔閉鎖	2
		子宮鏡手術	45
		円錐切除術	56
		悪性手術	38
		卵巣癌手術	18
		子宮頸癌手術	2
		子宮体癌手術	18

<今後の課題>

分娩の75%は時間外で、母児の人命にかかわる超緊急手術が時間外に度々あり、周産期センターは24時間体制の医療が求められる。令和6年度からはじまる医師の働き方改革のため、今後現状の周産期体制の維持が極めて困難になると予想される。周産期センターを維持するために、産科と婦人科の診療バランスを適正化し、様々な勤務条件をもつ優秀な人材を確保する必要がある。そのためにも婦人科手術の症例数拡大と適応拡大を行える環境を構築することが重要である。

<研究研修事項>

病院内研究研修会

精神科合同カンファレンス……………月1回	癌カンファレンス……………週1回
周産期カンファレンス……………週1回	術前カンファレンス……………週1回

刊行論文

- 妊娠第3半期に発症した特発性腹腔内出血（Spontaneous Hemoperitoneum in Pregnancy ; SHiP）の3症例
高田玲佳、吉田 晋、中西 叶、山口稜人、小松麗華、石井裕友、大槻摩弥、加藤真由子、石田享相、伊東 優、田中博子、高橋良子、池田佳代、高橋佳世子、脇本昭憲、辻江智子
市立豊中病院医学雑誌 24：11-14, 2024
- 再発子宮体癌に対して レンバチニブ+ペンブロリズムマブ併用療法開始後14日で 心原性ショックをきたした一例
小松麗華、石田享相、加藤 恵、中西 叶、山口稜人、高田玲佳、石井裕友、大槻摩弥、加藤真由子、伊東 優、田中博子、高橋良子、池田佳代、高橋佳世子、吉田 晋、脇本昭憲、辻江智子
市立豊中病院医学雑誌 24：15-18, 2024

学会発表

■妊娠後期に発症した特発性腹腔内出血（SHiP）の3症例

高田玲佳、池田佳代、石井裕友、大槻摩弥、竹井智彦、加藤 恵、伊東 優、田中博子、吉田 晋、高橋佳世子、脇本昭憲、辻江智子

第75回日本産科婦人科学会学術講演会

東京都 千代田区、東京国際フォーラム 令和5年5月12日－14日

■再発子宮体癌に対して Lenvatinib/Pembrolizumab併用療法開始後14日で 心原性ショックをきたした一例

小松麗華、加藤 恵、高田玲佳、石井裕友、大槻摩弥、伊東 優、田中博子、池田佳代、吉田 晋、高橋佳世子、辻江智子

第75回日本産科婦人科学会学術講演会

東京都 千代田区、東京国際フォーラム 令和5年5月12日－14日

■妊娠14週に子宮脱を発症した初産婦にペッサリー（サポートリング）を用いて整復を行った1例

小松麗華、辻江智子、中西 叶、山口稜人、高田玲佳、加藤 恵、石田享相、伊東 優、田中博子、高橋良子、池田佳代、高橋佳世子、吉田 晋

第59回日本周産期・新生児学術集会

愛知県 名古屋市、名古屋国際会議場 令和5年7月9日－11日

■子宮頸部円錐切除後の瘢痕のため分娩時に子宮頸管裂傷を発症した中期中絶の1例

高田玲佳、加藤 恵、小松麗華、中西 叶、山口稜人、石田享相、伊東 優、田中博子、高橋良子、池田佳代、高橋佳世子、吉田 晋、辻江智子

第59回日本周産期・新生児学術集会

愛知県 名古屋市、名古屋国際会議場 令和5年7月9日－11日

■悪性卵巣腫瘍との鑑別が困難であり腹腔鏡下手術により診断しえた高齢者の卵巣富細胞性線維腫の一例

伊東 優、中西 叶、山口稜人、小松麗華、高田玲佳、加藤 恵、石田享相、田中博子、高橋良子、池田佳代、吉田 晋、脇本昭憲、辻江智子

第63回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会

滋賀県 大津市、びわ湖大津プリンスホテル 令和5年9月14日－16日

■卵巣成熟奇形腫に対する腹腔鏡手術において内容物回収に胆石鋭匙が有用であった一例

田中博子、小松麗華、高田玲佳、石井裕友、大槻摩弥、加藤 恵、伊東 優、池田佳代、吉田 晋、脇本昭憲、辻江智子

第63回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会

滋賀県 大津市、びわ湖大津プリンスホテル 令和5年9月14日－16日

■腹痛と血尿を主訴とし子宮頸癌が疑われた陰唇癒着症の一例

伊東 優、加藤 恵、石田享相、高橋良子、池田佳代、辻江智子

第38回日本女性医学学会

徳島県 徳島市、あわぎんホール

令和5年12月2日－3日

■閉経後出血を契機に発見された高エストロゲン血症を伴う肝腫瘍の一例

石田享相、加藤 恵、伊東 優、高橋良子、池田佳代、辻江智子

第38回日本女性医学学会

徳島県 徳島市、あわぎんホール

令和5年12月2日－3日

研究会・集談会発表

■妊娠29週で胆石性胆嚢炎を発症し腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行した双胎の一例

小松麗華、吉田 晋、高田玲佳、石井裕友、大槻摩弥、加藤 恵、伊東 優、田中博子、高橋良子、池田佳代、高橋佳世子、辻江智子、脇本昭憲

第52回 大阪大学産婦人科オープンクリニカルカンファレンス

大阪市、ハートンホテル北梅田

令和5年11月11日

■深部子宮内膜症合併例における腹腔鏡下子宮全摘術

伊東 優

第13回 箕面市・豊中市腹腔鏡下手術懇話会

豊中市、千里ライフサイエンスセンター

令和6年3月7日

講習・講演

■婦人科がんの薬物療法

辻江智子

令和5年度 第3回豊中市薬剤師会6月研修会

Web開催

令和5年6月16日

20. 眼科

<現 況>

現在の眼科医師は、岡田正喜部長・的場あゆみ医師の2名である。令和5年は、コロナ禍が収束したので白内障手術件数を増やすことができた。令和5年度（令和5年4月1日～令和6年3月31日）に中央手術室で施行した眼科総手術件数は428眼である。そのうち白内障手術が428眼と中心である。

令和5年度は白内障手術装置を更新することができた。最新のセンチリオンシステムを導入し手術中の安全性が飛躍的に高まった。

病院の性質上、当院では80歳以上の高齢者・脳梗塞等の全身合併症を有する方々・緑内障等の眼合併症を有する方々・既に進行して混濁が成熟した方々が手術の対象となる。そのため全例が進行した手術難度の高い白内障症例であったが手術合併症は無かった。

視能訓練士は、宮本技師・鶴留技師の常勤2名である。視能訓練士の仕事内容は視力検査に始まり眼圧検査・眼底写真検査・蛍光眼底検査・断層撮影検査・視野検査・眼軸長検査・斜視検査など多岐にわたる。常勤2名体制となり、それらの多彩な検査がスムーズに行えるようになった。それに伴い外来診療の待ち時間は著明に短縮された。

また、当院にはNICUが併設されているので、未熟児の眼科管理も眼科医の重要な仕事の一つである。毎週1回NICU回診を行い、重症例には全身麻酔下に眼底レーザー治療を行なっている。

令和5年度中央手術件数

白内障手術	428眼
合 計	428眼

<今後の課題>

近隣開業医の先生方と連携しながら積極的に紹介・逆紹介を行う。また大阪大学と協力して地域の中核病院としての役割を果たすべく努力していく。

<研究研修事項>

病院内研究研修会

眼科カンファレンス……………週1回

司会・座長・その他

■座長：岡田正喜

「加齢黄斑変性の病態と治療アップデート」

演者：大津日赤病院 大音壮太郎

豊中市眼科医会学術研究会

豊中市、千里阪急ホテル

令和5年5月13日

■座長：岡田正喜

「フックス角膜ジストロフィ患者に対する診療の最新トピックス」

演者：大阪大学眼科 大家義則

豊中市眼科医会学術研究会

豊中市、千里阪急ホテル

令和6年1月13日

■座長：岡田正喜

「糖尿病網膜症診療ガイドラインを踏まえて」

演者：大阪大学眼科 西田健太郎

豊中市内科・眼科糖尿病連携フォーラム

豊中市、千里ライフサイエンスセンター

令和6年3月2日

21. 耳鼻いんこう科

<現 況>

令和5年度は、三谷健二部長、鎌倉 綾医長、山田弦太専攻医、藤澤 望専攻医の4人体制で診療を開始した。金曜日は手術日のため、大阪大学医学部附属病院耳鼻咽喉科から外来応援医師の派遣を受けている。紹介を受けた患者で病状が安定し保存的治療の適応となった場合は、積極的に再度紹介元に逆紹介している。頭頸部癌の治療は大阪大学医学部附属病院と緊密な連携を取りながら協力して行っている。難治性の幼児の滲出性中耳炎に対しては、日帰り全身麻酔手術を行い患児家族の負担の軽減に努めている。嚥下障害に対しては嚥下チームのメンバーとなり、嚥下検査の上、外科治療を行っている。地域医療機関との連携では、登録医の識名 崇医師が開放病棟を利用した鼻副鼻腔手術を行っている。

令和5年度手術件数

全体 480件（内、全麻396件）

■疾患部位別手術件数

耳	76件	喉頭気管	25件
鼻	101件	頸部	95件
口腔咽頭	183件		

■主な手術

鼓膜換気tube留置術	80件	（142耳）
鼓膜閉鎖術	6件	
先天性耳瘻孔摘出術	7件	
鼻中隔矯正術	47件	
内視鏡的副鼻腔手術	68件	（102側）
鼻副鼻腔腫瘍摘出術	6件	
口蓋扁桃摘出術	137件	
口腔腫瘍摘出術	1件	
ラリングマイクロサージェリー	9件	
気管切開術	6件	
喉頭気管分離術	2件	
耳下腺腫瘍摘出術	18件	
顎下腺腫瘍摘出術	3件	
甲状腺腫瘍摘出術	10件	
深頸部膿瘍切開術	1件	
正中頸嚢胞摘出術	6件	
副甲状腺腫瘍摘出術	1件	
頸部リンパ節生検	42件	
顎下腺摘出術（唾石症）	1件	
側頸のう胞摘出術	3件	
頸部郭清術	3件	

<今後の課題>

予約患者が多く、新規紹介患者の外来診察時の待ち時間も長くなっている傾向がある。逆紹介を推進し待ち時間の短縮に努める。紹介状をもたない方には病診連携の理念を説明し近隣の耳鼻科を受診していただき、当科が急性期疾患の治療に専念できるようにする。またタスクシフトを進め、外来診療の効率化を図っていく。

5月に新型コロナウイルス感染症が、5類感染症となり、手術件数、新入院患者数ともに回復傾向にある。

診療部門の現況と研究研修事項

I 医務局の現況と研究研修事項

それでもコロナ禍以前の状態にはまだ回復していない。近隣の医師との連携を強化し診療実績の回復に努めたい。

<研究研修事項>

病院内研究研修会

耳鼻いんこう科症例カンファレンス……………週1回 放射線治療症例カンファレンス……………週1回

学会発表

■動眼神経麻痺を来した 蝶形骨洞のう胞の1例

山田弦太、鎌倉 綾、藤澤 望、三谷健二

第364回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会大阪地方部会 大阪市、御堂会館 令和5年6月10日

■頸部に発症したSolitary fibrous tumorの1例

藤澤 望、鎌倉 綾、三谷健二、山田弦太

第365回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会大阪地方部会 大阪市、御堂会館 令和5年10月7日

■バック療法が奏功した深頸部膿瘍の1例

山田弦太、鎌倉 綾、藤澤 望、前田大介、東本究仁、三谷健二

第366回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会大阪地方部会
大阪市、大阪大学中之島センター 令和6年2月3日

講習・講演

■コロナ禍での耳鼻咽喉科診療について 渦中・現在

三谷健二

令和5年度豊中市耳鼻咽喉科医会総会・学術講演会
豊中市、ホテルアイボリー 令和6年2月3日

司会・座長・その他

■座長：三谷健二

慢性副鼻腔炎の病態と治療／めまい診療の第一歩

演者：JCHO大阪病院 前田陽平、大阪大学 真貝佳代子

第56回大阪めまい研究会 大阪市、新阪急ホテル 令和5年4月22日

22. リハビリテーション科

<現 況>

当院では外科系、内科系ともに積極的に手術や急性期治療を行っており、その患者の機能回復のためのリハビリテーションが当科の業務である。したがって、対象の多くが入院患者で常時約100名の機能訓練を行っている。令和5年度の入院患者新規リハビリテーション処方数3,535件である。そのなかで整形外科疾患は575件で、内訳は慢性疾患が358件、四肢外傷が201件、脊椎外傷が16件であった。また脳血管障害が376件、脳外科的疾患が262件、神経内科的疾患が104件、廃用症候群などの内科疾患が1,901件であった。令和3年3月より質の高いがん医療の提供のためにがんリハビリテーションを開始し、令和5年度は183件のがん疾患にリハビリテーションを行った。

3階北リハビリテーション病棟は50床あり、可能な限り在宅復帰をめざして、家屋の改造、器具の準備、各種福祉サービスの手配など退院後に円滑に在宅生活に移行できるように多角的視点から環境準備を行ってきた。新型コロナウイルス感染症に対応するため令和2年3月から3階北リハビリテーション病棟が閉鎖となり、これまでリハビリテーション病棟に転棟となっていた患者に対しては、看護師、療法士、ソーシャルワーカーが早期に介入し、早期退院、転院をすすめて対応を行った。新型コロナウイルス感染症入院患者に対するリハビリテーションについても廃用予防を中心に令和2年4月より取り組んでおり、令和5年度は89件の新型コロナウイルス感染症入院患者にリハビリテーションを行った。

近年、外科手術や内科疾患治療中に生じた廃用症候群の新規処方が増加しており、そのような患者にとって早期退院・QOL向上の為にはリハビリテーションは欠かせないものなので、当院が取り組んでいる在院日数短縮における当科の役割は重要である。

令和5年度入院患者新規処方数

	処方数
整形外科慢性疾患	358
整形外科四肢外傷	201
整形外科脊椎外傷	16
脳血管障害	376
神経内科的疾患	104
脳外科的疾患	262
廃用等内科疾患	1,901
小児	86
がん疾患	183
心臓疾患	48
合計	3,535

<今後の課題>

近年ますます廃用症候群の症例が増加してきており、そのような症例に対しては可及的早期にリハビリテーションを開始し、廃用の進行を止めるとともに早期の退院をめざす必要がある。

また当院は地域がん診療連携拠点病院であり、高齢化社会が進む中でがん患者数も年々増加傾向にあり、質の高いがん医療の提供のためにリハビリテーションの充実に取り組んでいく必要がある。

新型コロナウイルス感染症入院患者に対するリハビリテーションについても取り組んでいるが、リハビリテーションの適応、感染対策を含めた実施方法などをup dateしていく必要がある。

診療部門の現況と研究研修事項

I 医務局の現況と研究研修事項

<研究研修事項>

病院内研究研修会

がんリハカンファレンス……………週1回 手の外科カンファレンス……………月1回
嚥下リハカンファレンス……………週1回

学会発表

■Minima stemの短期成績

山本健吾、吉田礼徳、栗山幸治

第96回日本整形外科学会学術総会

神奈川県 横浜市、パシフィコ横浜 令和5年5月11日－14日

司会・座長・その他

■座長：山本健吾

「CT検査が有用と考えられた足根骨骨折-整形外科領域におけるCT検査の適応-」

演者：しみず整形外科 清水広太

第35回待兼山整形外科病診カンファレンス

豊中市、市立豊中病院

令和6年1月20日

23. 放射線診断科・放射線治療科

<現 況>

放射線診断科は中田早紀部長、塚部明大医長、永井啓介医員、阪上海央医員、平吹度夫嘱託医師と併せて専門医5名（常勤4名、嘱託1名）、および専攻医1名（西垣大毅）の計6名で画像診断、IVRを中心に診療を行った。

画像診断はCT2台（64列マルチスライス）、MRI2台（1.5テスラ、9月から1.5T→3T）がフル稼働し、複数の当日緊急検査にも対応。COVID-19感染症の影響もほとんどなくなり、前年度より全体件数の増加がみられたが、MRIが9月に1.5Tから3Tへと機器更新を行った影響で、MRIの年間総件数は減少した。読影業務は当院専門医で対応できない部分は応援医師に協力をお願いした。IVRは例年どおり多岐にわたる症例、手技に対応した。血管系（緊急止血術、HCCに対する肝動脈塞栓術、BRTO/PTOなど）、非血管系（PTGBD/PTBD、胆管ステント留置、生検、ドレナージなど）、その他（PICC/CVなど）。総件数増加がみられた。

放射線治療科は足立加那医長が常勤医として診療にあたった。午前中は大学からの応援も得て、二人体制で外来診療を行った。外照射の他、SRT（定位放射線治療）や緩和照射なども積極的に行っている。

読影件数		IVR件数		放射線治療	
CT	31,919	総検査数	769	総治療数	367
MRI	5,689	件数（人）	435	定位放射線照射	17（脳5、体幹部12）
核医学	615				
消化管造影	6				

<今後の課題>

放射線診断科：年々増加している画像診断の件数（当日緊急も増加）、1件あたりの撮像範囲の拡大傾向、およびthin sliceでの多断面画像評価や機器進歩に伴う検査内容の複雑化等の影響で負担増加傾向が続いており、画像管理加算2の維持のためには、それに比例して専門医の確保が必要と考える。また、救急科の患者数増加などの影響もあり、IVRの件数も増加傾向見られる。いずれの検査も流れの効率アップと安全性の確保に向け、医師、看護師、技師、受付の各部門での引き続き業務の見直し、タスクシフト・タスクシェアを進めていく必要があると考える。

画像診断報告書の管理体制も既読率向上に努め、見落としをゼロにするシステム確立が望まれるが、人的システムだけでなく、ソフト面でのサポートも今後の課題である。

放射線治療科：積極的に行っている定位放射線治療や緩和照射を引き続き継続し、症例数増加に努める。現在、当院での患者増加がみられている前立腺癌など、当院でIMRT（強度変調放射線治療）ができないため、他院へほとんど紹介となっているが、将来的にはその治療拡大をめざしたいと考えている。ただし、現状の診療報酬の条件（専門医2名常勤）や放射線治療機器では難しく、将来の診療報酬改定の時に条件緩和された場合に対応できるよう、今後の治療機器更新時にあわせて、その体制を整えていきたいと考える。

<研究研修事項>

病院内研究研修会

肝胆膵カンファレンス……………週1回

耳鼻いんこう科放射線科カンファレンス……週1回
（症例のあるとき）

診療部門の現況と研究研修事項

I 医務局の現況と研究研修事項

学術・研修活動（市立豊中病院主催・共催・その他）

◎市立豊中病院主催・共催

■緩和ケア研修会(PEACE) ◎

療養場所の選択と地域連携（肺がん）

二宮万里恵、佐々原友子、和田民樹、柏木雄次郎、滝本佳予、足立加那、石田享相、松下 慎

豊中市、市立豊中病院 参加者：約24名 令和5年12月17日

著書

■骨軟部病変から予測する原発巣

塚部明大

画像診断 Vol.43 No.13 p1278-93 秀潤社

令和5年11月

学会発表

■両側卵巣、卵管、子宮頸部に異なる病変が見られ術前診断に難渋した1例

塚部明大、豊田聡史、阪上海央、永井啓介、中田早紀、辻江智子、足立史朗

第36回日本腹部放射線学会

宮城県 仙台市、仙台国際センター 令和5年6月9日－10日

■乳房インプラント破損後シリコン遺残が片側性に見られた事により軟部腫瘍を疑われた1例

塚部明大、西垣大毅、阪上海央、永井啓介、赤木謙三、中田早紀

第59回日本医学放射線学会秋季臨床大会

徳島県 徳島市、ハイブリッド開催（あわぎんホール：徳島県郷土文化会館） 令和5年9月15日－17日

研究会・集談会発表

■症例検討 S6-3 出題

西垣大毅

第43回神経放射線ワークショップ

鹿児島県 鹿児島市、城山ホテル鹿児島 令和5年7月20日－22日

■症例検討S1- 1 回答

塚部明大

第43回神経放射線ワークショップ

鹿児島県 鹿児島市、城山ホテル鹿児島 令和5年7月20日－22日

講習・講演

■レクチャー 前回症例の振り返り

塚部明大

第350回 関西NR勉強会

Web開催

令和5年10月18日

■シンポジウム10：脳血管障害：脳内出血のUpdate

塚部明大

第43回日本画像医学会

東京都 千代田区、ステーションコンファレンス東京 令和6年2月23日－24日

司会・座長・その他

■座長：塚部明大

session II 中枢神経・頭頸部・胸部

演者：大阪総合医療センター Maciej Pas、京都大学医学部附属病院 石川 翔、
大阪医科薬科大学病院 山口亜沙美、奈良医科大学附属病院 中西祥子、
尼崎総合医療センター 栗山香織、神戸大学医学部附属病院 戎 直哉、
京都府立医科大学附属病院 弓場健太郎、淡路医療センター 小野有美

第334回関西地方会（第406回レントゲンアーベント）

大阪市、ホテルエルセラーン大阪

令和5年6月24日

24. 病理診断科

<現 況>

常勤2名と非常勤1名で運営しており、マンパワー的にはかなり厳しい状況にある。事故防止の観点からも増員が喫緊の課題である。

<今後の課題>

常勤病理の増員が必要である。

<研究研修事項>

病院内研究研修会

乳腺外科・病理カンファレンス……………週1回	泌尿器科・病理カンファレンス……………隔週
消化器内視鏡・病理カンファレンス……………隔週	外科・病理カンファレンス……………週1回

学会発表

■芽球性形質細胞様樹状細胞腫瘍の5例

田村裕美、土井玲子、足立史朗

第113回日本病理学会総会

愛知県 名古屋市、名古屋国際会議場 令和6年3月28日－30日

25. 救急科

<現 況>

救急科では令和5年4月より小林正直特任顧問が赴任され、平日日中は救急専門医が2名で診療する体制が整えられた。上級医が研修医（1年次・2年次）を指導しながら診療を行う体制が整備されたことにより、救急車の応需件数は更に増加した。小林顧問は蘇生講習の専門家であり、蘇生講習チームの一員として積極的に活動して頂く事によってBLSやICLSといった院内蘇生講習のレベルアップにつながったものと思われる。

また、令和5年5月から病態不明患者、専門診療科不明患者、経過観察目的等の短期入院加療を目的とした救急科病床5床の運用を開始した。これにより救急車の応需が行いやすくなり、救急車受入れ件数の増加、救急外来からの入院数増加につながったものと思われる。病床開設当初から年度末まで212人の入院患者診療を行った。

統計上令和5年度は、救急外来患者数は年間20,239人（前年度19,454人）、救急車受入れ数が7,850件（前年度6,685人）、救急からの入院数が4,994人（前年度4,171人）といずれも前年度に比べて増加し、コロナ禍以前と比べても救急車応需件数は過去最高となった。

<今後の課題>

地域の高齢化に伴い、当院への救急診療需要は増加の一途をたどっている、現在の専門医2名では十分とはいえ、今後地域のニーズに応えるには以下の課題に対し継続した取組みを行っていく必要がある。

- 1) 救急専門医、非常勤応援医師の確保
- 2) 一般救急応需率、応需件数の増加
- 3) 救急外来からの入院件数の維持
- 4) 働き方改革への対応
- 5) 若手医師や医学生、コメディカルの指導体制の充実
- 6) 消防局救急救命士の病院常駐（救急ワークステーション構想）
- 7) 夜間休日の診療体制整備
- 8) 蘇生講習の質の向上

講習・講演

■「救急蘇生にまつわるお話」～蘇生ガイドライン・救急蘇生法の指針を中心に～

小林正直

令和5年度市立豊中病院登録医総会 豊中市、千里ライフサイエンスセンター 令和5年4月22日

■第52回ACLS大阪（大阪府医師会）二次救命処置講習会（ICLSコース）

小林正直

市立豊中病院 豊中市、市立豊中病院 令和5年9月10日

■救急蘇生法up to date～蘇生ガイドライン・救急蘇生法の指針を中心に～

小林正直

令和5年度豊中消防プレホスピタルセミナー 豊中市、豊中消防本署 令和5年10月24日

■第53回ACLS大阪（大阪府医師会）二次救命処置講習会（ICLSコース）

小林正直

市立豊中病院 豊中市、市立豊中病院 令和5年11月12日

■第54回ACLS大阪（大阪府医師会）二次救命処置講習会（ICLSコース）

小林正直

市立豊中病院 豊中市、市立豊中病院 令和6年1月21日

診療部門の現況と研究研修事項

I 医務局の現況と研究研修事項

■RRS(Rapid Response System)院内迅速対応システム

小林正直

京都府臨床工学技士会生涯学習セミナー

Web開催

令和6年2月15日

■RRS(Rapid Response System)～院内心停止の予防～

小林正直

市立豊中病院令和5年度第2回RRS研修

豊中市、市立豊中病院

令和6年2月22日

26. 歯科・歯科口腔外科

<現 況>

スタッフは、今井智章（部長）、藤田祐生（医長）、榊井敦史（医員）、笹部倫世（専攻医）の体制で診療した。金曜日外来は大阪大学歯学部附属病院口腔外科からの応援医師・西元彩乃が担当した。歯科衛生士は、常勤の増野有希子、嘱託職員として大藤宏美、那須野千代子、佐藤 優、臨時職員として高岡智子、小林愛子が勤務した。

初診患者数は歯科702人（前年度700人）、口腔外科2,537人（前年度2,372人）の合計3,239人（前年度3,072人）であり、口腔外科患者数が顕著に増加していた。手術室での手術件数は229件（前年度228件）、新入院患者数は286人（前年度263人）であり、新型コロナウイルス感染症の影響により減少していた各指標は、全般的に回復基調、あるいは上回った。

<入院手術実績>

口腔悪性腫瘍切除術（頸部郭清術を含む）	21件
良性腫瘍摘出/切除術	29件
顎顔面骨折（上顎、下顎、頬骨）観血的整復固定術	6件
顎骨骨髓炎等消炎手術	25件
唾液腺関連手術（唾石摘出、顎下腺摘出）	3件
顎関節手術（関節結節形成、顎関節強直症）	2件
骨隆起形成術	12件
口腔上顎洞瘻孔閉鎖	4件
嚢胞摘出術	78件
埋伏歯抜歯術	108件
その他	

<今後の課題>

当科の入院患者のほとんどは手術患者であり、新規入院患者の増加には手術枠の拡大を要するとともに、入院治療適応の初診患者の増加が必要である。豊中市歯科医師会を中心とした地域歯科医院のみならず、医科からの紹介の増加につながる地域医療機関との緊密な連携を引き続き努めていく。

初診患者をより多く受入れるためには、「働き方改革」のなかで、より一層の外来診療の効率化が求められる。当院は地域医療支援病院であることより、病態がおおむね安定（あるいは改善傾向）し、かつ、口腔外科手術や処置を要しない（あるいは希望しない）患者については、再診回数を減らし、さらには地域医療機関への逆紹介、病診連携を進める。

現在、地域医療機関からの予約申込みから予約日までの期間は、初診日当日外来処置（埋伏智歯抜歯など）の場合（外来小手術枠）は、約1か月であるのに対して、それ以外では1～2週間程度である。小手術依頼に迅速に対応するために、外来では数回に分けて行う智歯抜歯処置を、短期入院下、静脈内鎮静法にて一度に対処することにより、早期治療を望む患者のニーズに応えることができるとともに、紹介患者の増加につながると考えられる。

<研究研修事項>

病院内研究研修会

歯科口腔外科症例検討会……………週1回

学術・研修活動（市立豊中病院主催・共催・その他）

◎市立豊中病院主催・共催

■豊中市歯科医師会学術講演会

薬剤関連顎骨壊死：最近の動向と自験例を振り返る

今井智章

豊中市、豊中市医療保健センター 令和5年9月27日

学会発表

■生検後に退縮した上顎顎堤の結節性筋膜炎の1例

藤田祐生、一山紗知、多月佳澄、笹部倫世、今井智章

第77回日本口腔科学会総会・学術集会

岡山県 岡山市、岡山コンベンションセンター 令和5年5月11日－13日

■パノラマX線画像における下顎智歯一下歯槽管頬舌的位置関係の自動判定深層学習モデルの構築の試み

桂 尚、武部克希、窪田星子、西元彩乃、今井智章、鶴澤成一

第77回日本口腔科学会総会・学術集会

岡山県 岡山市、岡山コンベンションセンター 令和5年5月11日－13日

■下顎良性腫瘍に対しTruMatch Reconstructionシステムを用いて下顎再建を行なった4例

森田祥弘、竹下彰範、今井智章、松永和秀、鶴澤成一

第47回日本頭頸部癌学会

大阪市、大阪国際会議場 令和5年6月

■口腔癌同種同所移植マウスモデルを用いた腫瘍微小環境における炎症性サイトカインの検討

西元彩乃、森田祥弘、西村遵也、北平有紀子、高山 峻、今井智章、鶴澤成一

第47回日本頭頸部癌学会

大阪市、大阪国際会議場 令和5年6月

■パノラマX線画像における下顎智歯一下歯槽管頬舌的位置の予測：自動判定深層学習モデルの構築と評価

西元彩乃、桂 尚、武部克希、窪田星子、今井智章、鶴澤成一

第54回日本口腔外科学会近畿支部学術集会

Web開催 令和5年7月1日

■深層学習によるパノラマX線画像の下顎智歯一下歯槽管位置関係の複合判定モデル

武部克希、西元彩乃、桂 尚、窪田星子、今井智章、鶴澤成一

第68回日本口腔外科学会総会・学術大会

大阪市、大阪国際会議場 令和5年11月10日－12日

■COVID-19感染症に続発した無疱疹性三叉神経帯状疱疹の1例

榊井 敦史、今井智章、藤田祐生

第35回日本口腔科学会近畿地方部会

Web開催 令和5年12月9日

■生検後に悪性と診断された後に退縮した上顎顎堤の結節性筋膜炎の1例

藤田祐生、榊井敦史、今井智章

第42回日本口腔腫瘍学会学術集会

北海道 札幌市、札幌コンベンションセンター 令和6年1月25日－26日

司会・座長・その他

■座長：今井智章

第35回日本口腔科学会近畿地方部会

Web開催 令和5年12月9日

27. 麻酔科

<現 況>

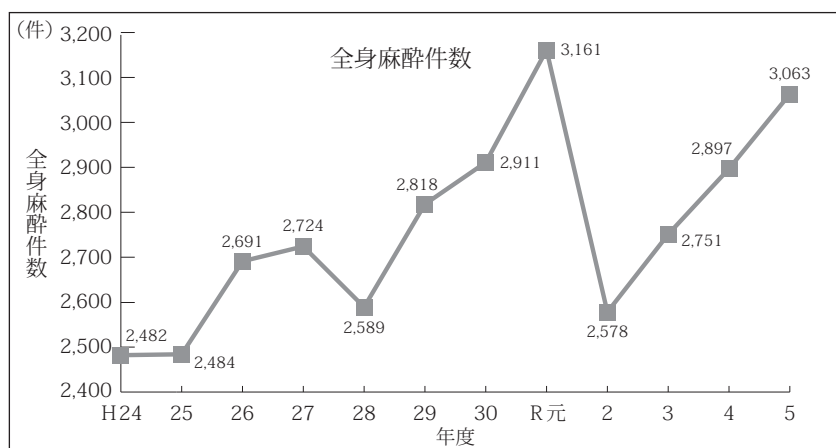
令和5年4月は人事異動がなく前年度と同様に常勤医8名と後期研修医1名の9名態勢での業務遂行となった。応援医師の確保も継続することにより、日常業務内容には大きな変化を生じることなく以下の業務を行った。

1. 手術室での全身麻酔を中心とした術中麻酔管理
2. 集中治療室での呼吸循環を中心とした全身管理
3. 術前診察外来

COVID-19感染症の流行により当院でも中等症・重症患者の受入れのため病棟閉鎖が継続されたが、第5類への移行により臨床業務への影響は少なくなった。引き続き重症患者の集中治療室受入れは行った。

手術に関しては年間5,569例と前年度から559例(11.2%)の増加となった。全手術件数中約55%の3,079例が麻酔科管理であり、その内3,063例が全身麻酔である。全身麻酔件数は前年度から166件(5.7%)の増加となった。過去12年間の全身麻酔症例数の変遷をグラフに示す。

麻酔科医の増減を如実に反映したグラフとなっているが、COVID-19感染症の影響は少なくなり、ほぼCOVID-19前の状況に戻っている。また最近の傾向として硬膜外麻酔の減少と各種神経ブロック併用の増加が顕著である。硬膜外麻酔併用は今年度175例で前年度より15例微増したが、各種神経ブロック併用(表参照)は1,262例と前年度の1,246例から16例増加した。全身麻酔症例中、外科が約40%を占めており各科の症例数は表に示すとおりである。



各種ブロック	令和5年度	令和4年度
腕神経叢ブロック	133	118
前鋸筋-肋間筋膜面ブロック	16	59
腹横筋膜面ブロック	414	397
腹直筋鞘ブロック	144	217
傍臍神経ブロック	40	32
腸骨鼠径神経ブロック	65	67
腸骨筋膜下ブロック	158	141
PENGブロック	104	61
閉鎖神経ブロック	15	24
陰茎神経ブロック	2	1
大腿神経ブロック	3	44
内転筋管ブロック	84	37
坐骨神経ブロック	21	21
膝窩神経叢ブロック	63	27
合計	1,262	1,246

診療部門の現況と研究研修事項

I 医務局の現況と研究研修事項

手術件数	令和5年度		令和4年度	
	麻酔科管理	全身麻酔	麻酔科管理	全身麻酔
外科	1,067	1,067	1,126	1,126
整形外科	631	631	558	558
脳神経外科	106	106	91	91
心臓血管外科	50	50	69	69
皮膚科	52	52	53	53
泌尿器科	296	295	296	294
産婦人科	278	264	271	259
眼科	0	0	0	0
耳鼻いんこう科	391	391	302	300
歯科	131	131	138	138
麻酔科	1	0	2	0
形成外科	67	67	0	0
内科	9	9	9	9
小児科	0	0	0	0
合計	3,079	3,063	2,915	2,897
月平均	257	255	243	241

集中治療室においてはICU・HCUの運営を継続しているが、今年度はCOVID-19感染症重症例を8例受入れた。ICU(8床)年間入室者数が922例と前年度945例より23例の減少、HCU(4床)年間入室者数が546例と前年度417例より129例の増加であった。ICUへのCOVID-19重症患者受入れが前年度より8例減少したためと考えられる。麻酔科管理症例はICU・HCUを合わせて702例で前年の735例より33例減少したが、手術後入室患者の割合は約83%で前年と同等であった。外科・心臓血管外科・脳神経外科患者と高齢・重度の合併症を有する術後患者が対象となる。また内科を中心として重症肺炎・肺炎・各種ショック患者も対象となる。各科の麻酔科管理症例数(ICU・HCU)は表に示すとおりである。

また術前診察は毎日午前中に診察している。

麻酔科管理 ICU・HCU入室症例数	令和5年度	令和4年度
外科	415	417
整形外科	52	58
脳神経外科	80	59
心臓血管外科	47	68
皮膚科	6	5
泌尿器科	25	22
産婦人科	19	38
耳鼻いんこう科	5	3
歯科	3	3
消化器内科	0	0
内科	42	59
神経内科	3	3
眼科	0	0
小児科	5	0
合計	702	735
月平均	58.5	61.3

＜今後の課題＞

全国的な麻酔科医不足の影響による常勤医の定員2減と後期研修医定員1減の状態改善が望まれる。常勤医と後期研修医の積極的な採用とホームページなどによる麻酔科医の公募を継続していく予定である。

新型コロナウイルス感染症の流行に対応して集中治療室で新型コロナウイルス感染症重症患者受入れを進めていく。

業務内容の見直しと効率化を図り、より安全で質の高い麻酔を提供できるようにしていきたい。

＜研究研修事項＞

病院内研究研修会

麻酔科抄読会……………週1回	集中治療症例検討会……………週10回
麻酔科術前症例検討会……………週5回	集中治療死亡症例検討会……………年2回
麻酔科術後症例検討会……………週5回	

学術・研修活動（市立豊中病院主催・共催・その他）

◎市立豊中病院主催・共催

■第1回 緩和ケア勉強会 ◎

非がんの緩和ケア～心不全の観点から～

二宮万理恵 豊中市、市立豊中病院 参加者：約70名 令和5年7月20日

■臨床倫理講演会 ◎

アドバンスケアプランニング、どうすべき？

二宮万理恵 豊中市、市立豊中病院 参加者：約50名 令和5年11月30日

■ピースプロジェクト緩和ケア研修会 ◎

e-learningの復習

滝本佳予 豊中市、市立豊中病院 参加者：約30名 令和5年12月17日

■第2回 緩和ケア勉強会 ◎

非がんの緩和ケアと急性期病院における意思決定支援

二宮万理恵 豊中市、市立豊中病院 参加者：約60名 令和6年2月15日

学会発表

■術後の呼吸抑制によって偶発的な硬膜下カテーテル留置を検知し得た2症例

滝本佳予、奥野勇輔

日本区域麻酔学会 第10回学術集会 大阪市、大阪国際会議場 令和5年4月14日－15日

■人工股関節置換術における鼠径上アプローチの腸骨筋膜下ブロックと股関節包周囲神経群ブロックの術後鎮痛効果についての後ろ向き研究

奥野勇輔、滝本佳予、仲井祐貴、桐山圭司、二宮万理恵、高田幸治

日本麻酔科学会第70回学術集会 兵庫県 神戸市、神戸ポートピアホテル 令和5年6月1日－3日

■灸治療後に methicillin-susceptible Staphylococcus aureus (MSSA) 菌血症を伴う多発膿瘍を来した1例

奥野巴琉音、桐山圭司、小川達也、八木拓也、奥野勇輔、松永寛紀、滝本佳予、二宮万理恵、香河清和、高田幸治

日本集中治療医学会第7回関西支部学術集会

兵庫県 神戸市、神戸国際会議場 令和5年7月29日

■周術期に高血糖性意識障害を認めた服薬アドヒアランス不良糖尿病患者の一例

有島史紘、香河清和、小川達也、八木拓也、奥野勇輔、桐山圭司、滝本佳与、二宮万理恵、高田幸治

日本集中治療医学会第8回関西支部学術集会

兵庫県 神戸市、神戸国際会議場 令和5年7月29日

- 全身麻酔下でのホルミウムレーザー前立腺核出術(HoLEP)において、生理食塩水の体内吸収により高クロル性アシドーシスを来し術後人工呼吸管理を行った一症例

深堀太翔、滝本佳予、奥野勇輔、桐山圭司、香河清和、高田幸治

日本麻酔科学会 第68回関西支部学術集会

大阪市、大阪国際会議場

令和5年9月2日

- 開頭術中に原因不明の無脈性心室頻拍へ移行した1例

浜野彰太、八木拓也、奥野勇輔、滝本佳予、二宮万理恵、高田幸治

日本麻酔科学会 第68回関西支部学術集会

大阪市、大阪国際会議場

令和5年9月2日

- 不適切な症状に対して長期高用量オピオイド投与中患者の全身麻酔中にオピオイド退薬症状を疑い術後に集中治療室での鎮静人工呼吸管理下での観察を要した一例

古賀千紘、二宮万理恵、小川達也、八木拓也、奥野勇輔、松永寛紀、桐山圭司、滝本佳予、香河清和、高田幸治

日本麻酔科学会 第68回関西支部学術集会

大阪市、大阪国際会議場

令和5年9月2日

- クロルヘキシジングルコン酸の消毒が原因と考えられたアナフィラキシーショックの1例

戎井 遼、奥野勇輔、小川達也、八木拓也、二宮万理恵、高田幸治

日本麻酔科学会 第68回関西支部学術集会

大阪市、大阪国際会議場

令和5年9月2日

- エイミーPCAの進化 そして術後疼痛管理はエイミーViewerで楽になる

高田幸治

第45回日本手術医学会総会

神奈川県 横浜市、パシフィコ横浜

令和5年11月25日

- 血管内治療後に造影剤脳症による一過性の不全片麻痺が生じた一例

小川達也、八木拓也、奥野勇輔、桐山圭司、二宮万理恵、香河清和、高田幸治

日本集中治療医学会第51回学術集会

北海道 札幌市、ロイトン札幌

令和6年3月14日－16日

講習・講演

- ハンズオンワークショップ実技10 アドバンストコース 頭頸部 インストラクター

滝本佳予

日本区域麻酔学会 第10回学術集会

大阪市、大阪国際会議場

令和5年4月14日－15日

- 超音波ガイド下ブロック ハンズオンセミナー 頸椎椎間関節・後枝内側枝ブロック 講義

滝本佳予

日本ペインクリニック学会 第4回関西支部学術集会

大阪市、大阪国際交流センター（大阪カンファレンスセンター）

令和5年10月14日

- 超音波ガイド下ブロック ハンズオンセミナー 頸椎椎間関節・後枝内側枝ブロック インストラクター

滝本佳予

日本ペインクリニック学会 第4回関西支部学術集会

大阪市、大阪国際交流センター（大阪カンファレンスセンター）

令和5年10月14日

- 腹部手術、乳房手術の周術期疼痛管理 ハンズオンセミナーインストラクター

滝本佳予

周術期疼痛管理のための超音波ガイド下末梢神経ブロックセミナー

大阪市、コニカミノルタ関西支社

令和5年11月25日

- ACP実践のための次の一歩

二宮万理恵

市立ひらかた病院 緩和ケア勉強会

枚方市、市立ひらかた病院

令和6年2月9日

司会・座長・その他

- 座長：滝本佳予

「緩和ケアにおけるリハビリテーションについて」

演者：市立池田病院 浅野雅也、濱田亜紀

第26回五月山緩和ケア研究会

池田市、市立池田病院

令和5年5月25日
- 座長：滝本佳予

「緩和照射が役にたつとき」

演者：市立池田病院 立川琴羽

第26回五月山緩和ケア研究会

池田市、市立池田病院

令和5年5月25日

28. 各種学会認定医師名簿

ICD 制度協議会	ICD：阿部欣也、藤田祐生、森村 治、桐山圭司、高橋弘毅、清水潤三
J R R T A	腎代替療法専門指導士：竹治正展
ダヴィンチサージカルシステム認定資格(術者)	三宅 修、佐藤元孝、柳本喜智、鈴木陽三、鄭 則秀、池永雅一、清水潤三
ダヴィンチサージカルシステム認定資格(助手)	今村博司、川瀬朋乃、山下雅史
近畿外科学会	専門医：山下雅史
厚生労働省	死体解剖資格：田村裕美
	精神保健指定医：東 眞吾、森原剛史
	麻酔科標榜許可：香河清和、小川達也
	臨床研修指導医：田村裕美、松本健吾、岩橋博見、滝本佳予
	臨床研修指導医育成講習会：稲田慎也
三学会構成心臓血管外科専門医認定機構	修練指導医：後藤隆純
	心臓血管外科専門医：後藤隆純
社会医学系専門医協会	指導医：竹治正展
	社会医学系専門医：竹治正展
大阪大学歯学部附属病院	歯科医師臨床研修指導歯科医：今井智章
日本 I V R 学会	専門医：塚部明大
日本アレルギー学会	専門医：阿部欣也
日本オンプラスティックサージャリー学会	乳房再建エキスパンダー／インプラント責任医師：前田大介
	乳房再建エキスパンダー／インプラント実施医師：東本究仁
日本がん・生殖医療学会	暫定がん・生殖医療ナビゲーター：石田享相
日本がん治療認定医機構	がん治療認定医：小杉 智、辻江智子、今村博司、三宅 修、西田 勉、 足立加那、川瀬朋乃、佐藤元孝、森村 治、高橋良子、 松本健吾、鄭 則秀、伊東 優、富田尚裕、池永雅一、 萩原清貴
	がん治療認定医（歯科口腔外科）：今井智章、藤田祐生、榊井敦史
	暫定教育医：今村博司、川瀬朋乃
日本ステントグラフト実施基準管理委員会	胸部ステントグラフト指導医 AFX ステントグラフトシステム：後藤隆純
	胸部ステントグラフト指導医 ENDURANT ステントグラフトシステム：後藤隆純
	胸部ステントグラフト指導医 Gore Excluder Endoprosthesis：後藤隆純
	胸部ステントグラフト実施医 ENDURANT ステントグラフトシステム：後藤隆純
	胸部ステントグラフト実施医 Gore Excluder Endoprosthesis：後藤隆純
	胸部ステントグラフト実施医 GORE TAG Thoracic Endprosthesis：後藤隆純
	胸部ステントグラフト実施医 VALIANT Captivia：後藤隆純
	腹部大動脈瘤ステントグラフト指導医：藤村博信
	胸部ステントグラフト実施医 AFX ステントグラフトシステム：後藤隆純
日本ストーマ・リハビリテーション学会	ストーマ認定士：鈴木陽三
日本ペインクリニック学会	専門医：滝本佳予
日本めまい平衡医学会	めまい相談医：三谷健二
日本リウマチ学会	専門医：山本健吾
日本リハビリテーション医学会	専門医：来 真希子
	認定臨床医：来 真希子
日本ロボット外科学会	Robo-Doc 国内B級：鈴木陽三
日本遺伝性腫瘍学会	遺伝性腫瘍指導医：富田尚裕
	遺伝性腫瘍専門医：富田尚裕、鈴木陽三

日本遺伝性腫瘍学会	家族性腫瘍カウンセラー：富田尚裕
日本医学放射線学会	研修指導医：永井啓介 指導医：中田早紀、足立加那、塚部明大、平吹度夫 放射線治療専門医：足立加那 放射線診断専門医：中田早紀、塚部明大、永井啓介、平吹度夫
日本医師会	認定産業医：小杉 智、阿部欣也、福井浩司、岡内幸義、竹治正展、 田村裕美、桐山圭司、岩橋博見、鈴木陽三、来 真希子、 早野絵梨、森原剛史、肥後智子、富田尚裕、柏木雄次郎、 松山辰男、土井玲子、杉原隆太
日本宇宙航空環境医学会	認定医：三谷健二
日本化学療法学会	抗菌化学療法認定医：阿部欣也、高橋弘毅
日本外科学会	指導医：岩澤 卓、今村博司、清水潤三、鈴木陽三、池永雅一、富田尚裕 専門医：赤木謙三、藤村博信、岩澤 卓、今村博司、川瀬朋乃、松永寛紀、 清水潤三、鈴木陽三、山下雅史、後藤隆純、小林 晶、富田尚裕、 池永雅一、萩原清貴
日本外科感染症学会	教育医：清水潤三 認定医：清水潤三
日本緩和医療学会	専門医：滝本佳予 認定医：二宮万理恵
日本肝臓学会	指導医：福井浩司 専門医：福井浩司、杉本 彩、中松 大、松本健吾
日本肝胆膵外科学会	高度技能指導医：清水潤三
日本眼科学会	専門医：岡田正喜
日本救急医学会	I C D：高橋弘毅 ICLS・BLSコースインストラクター：榊井敦史 指導医：高橋弘毅 専門医：桐山圭司、高橋弘毅
日本胸部外科学会	修練指導者：藤村博信 心臓血管外科専門医：藤村博信 認定医：岩澤 卓
日本区域麻酔学会	指導医：滝本佳予
日本形成外科学会	専門医：前田大介 指導医：前田大介 再建・マイクロサージャリー分野指導医：前田大介 レーザー分野指導医：前田大介
日本血液学会	指導医：小杉 智 専門医：小杉 智、茶山公祐、木田 亨 認定医：小澤孝幸
日本血管外科学会	血管内治療医：後藤隆純 心臓血管外科専門医：藤村博信 認定指導者：藤村博信
日本血栓止血学会	認定医：小杉 智、田所誠司
日本呼吸器外科学会	専門医：岩澤 卓
日本呼吸器学会	指導医：阿部欣也、森村 治 専門医：阿部欣也、森村 治 認定専門医：中坪彩恵子

診療部門の現況と研究研修事項

I 医務局の現況と研究研修事項

日本呼吸器内視鏡学会	気管支鏡専門医：阿部欣也、岩澤 卓、森村 治 指導医：阿部欣也
日本口腔科学会	指導医：今井智章、藤田祐生、榊井敦史 認定医：今井智章、藤田祐生
日本口腔外科学会	指導医：今井智章、藤田祐生 専門医：今井智章、藤田祐生、榊井敦史
日本抗加齢医学会	専門医：三宅 修
日本高血圧学会	指導医：中川 理 専門医：中川 理
日本産科婦人科遺伝診療学会	認定医（周産期）：辻江智子
日本産婦人科学会	指導医：辻江智子、吉田 晋、高橋良子、伊東 優、田中博子、脇本昭憲 専門医：辻江智子、吉田 晋、高橋良子、伊東 優、田中博子、脇本昭憲
日本産婦人科内視鏡学会	技術認定医：脇本昭憲 認定医：辻江智子
日本耳鼻咽喉科学会	専門医：三谷健二、鎌倉 綾 専門研修指導医：三谷健二、鎌倉 綾 補聴器相談医：三谷健二
日本手外科学会	指導医：栗山幸治 専門医：栗山幸治
日本周産期・新生児医学会	暫定指導医：徳永康行 新生児専門医：徳永康行 新生児蘇生法インストラクター：吉川真紀子、徳永康行 代表指導医：辻江智子
日本集中治療医学会	専門医：高橋弘毅
日本循環器学会	専門医：中川 理、熊田全裕、岡崎由典、林 隆治、肥後智子、杉原隆太
日本女性医学会	女性ヘルスケア指導医：辻江智子 女性ヘルスケア専門医：辻江智子
日本小児科学会	指導医：吉川真紀子、徳永康行、茶山公祐 小児科専門医：吉川真紀子、徳永康行、茶山公祐、川西邦洋、安田紀恵 認定医：高橋邦彦 認定専門医：西本静香
日本小児循環器学会	専門医：高橋邦彦
日本消化管学会	胃腸科指導医：西田 勉、富田尚裕、池永雅一 胃腸科専門医：西田 勉、中松 大、富田尚裕、池永雅一
日本消化器外科学会	指導医：清水潤三、鈴木陽三、松下克則、富田尚裕、池永雅一、萩原清貴 消化器がん外科治療認定医：柳本喜智、鈴木陽三、池永雅一、富田尚裕、萩原清貴 専門医：清水潤三、鈴木陽三、山下雅史、富田尚裕、池永雅一、萩原清貴 認定医：赤木謙三、今村博司
日本消化器内視鏡学会	指導医：山本政司、西田 勉、池永雅一、富田尚裕 専門医：山本政司、西田 勉、杉本 彩、中松 大、松本健吾、池永雅一、富田尚裕
日本消化器病学会	指導医：福井浩司、今村博司、西田 勉、中松 大、池永雅一、富田尚裕 専門医：福井浩司、山本政司、今村博司、西田 勉、杉本 彩、中松 大、大杉直人、松本健吾、池永雅一、富田尚裕、萩原清貴
日本職業・災害医学会	指導医：柏木雄次郎

日本食道学会	食道科認定医：柳本喜智
日本心血管インターベンション治療学会	専門医：熊田全裕
	認定医：飯田卓馬、福島直樹、杉原隆太
日本心臓リハビリテーション学会	心臓リハビリテーション指導士：中川 理、熊田全裕
日本心臓血管外科学会	心臓血管外科専門医：藤村博信
	認定指導者：藤村博信
日本神経学会	指導医：横江 勝、来 真希子、仲谷利栄
	専門医：横江 勝、来 真希子、村田 尚、早野絵梨、仲谷利栄
日本神経内視鏡学会	技術認定医：西尾雅実、森 康輔
日本神経免疫学会	神経免疫診療認定医：村田 尚
日本人工関節学会	認定医：吉田礼徳
日本人類遺伝学会/日本遺伝カウンセリング学会	臨床遺伝指導医：富田尚裕
	臨床遺伝専門医：富田尚裕
日本腎臓学会	指導医：竹治正展、楠 康生
	専門医：竹治正展、楠 康生
日本整形外科学会	脊椎脊髄病医：釜谷崇志
	専門医：吉田礼徳、水野直子、山本健吾、栗山幸治、釜谷崇志 岡田倫太郎、吉川秀樹
	認定スポーツ医：栗山幸治
	認定リウマチ医：栗山幸治
	認定運動器リハビリテーション医：栗山幸治
日本精神神経学会	指導医：森原剛史、柏木雄次郎
	精神科専門医制度指導医：東 眞吾
	専門医：東 眞吾、森原剛史、柏木雄次郎
日本静脈学会	下肢静脈瘤血管内治療 指導医：後藤隆純
	下肢静脈瘤血管内治療 実施医：藤村博信、後藤隆純
	指導医：藤村博信
日本静脈経腸栄養学会	認定医：岩澤 卓
日本脊髄外科学会	認定医：森 康輔
日本脊椎脊髄病学会	指導医：岡田倫太郎
	脊椎脊髄外科専門医：森 康輔
日本創傷外科学会	専門医：前田大介
日本造血・免疫細胞療法学会	認定医：小澤孝幸
日本胎児心臓病学会	胎児心エコー認証医：高橋邦彦
日本大腸肛門病学会	指導医：池永雅一、富田尚裕、鈴木陽三
	専門医：鈴木陽三、池永雅一、富田尚裕
日本中性子捕捉療法学会	認定医：藤田祐生
日本超音波医学会	指導医：土井玲子
	超音波専門医：土井玲子
日本定位・機脳神経外科学会	技術認定医：細見晃一
日本糖尿病学会	研修指導医：松山辰男
	指導医：岡内幸義、岩橋博見
	専門医：岡内幸義、岩橋博見、稲田慎也、松山辰男
日本透析医学会	指導医：竹治正展、楠 康生
	専門医：竹治正展、楠 康生

診療部門の現況と研究研修事項

I 医務局の現況と研究研修事項

日本内科学会	指導医：中川 理、小杉 智、福井浩司、岡内幸義、竹治正展、西田 勉 岩橋博見、横江 勝、稲田慎也 総合内科専門医：小杉 智、阿部欣也、福井浩司、岡内幸義、山本政司 竹治正展、熊田全裕、西田 勉、楠 康生、杉浦由理 森村 治、中松 大、木田 亨、松本健吾、岩橋博見 横江 勝、稲田慎也、来 真希子、小澤孝幸、村田 尚 早野絵梨、林 隆治、仲谷利栄、杉原隆太 認定医：楠 康生 認定内科医：中川 理、小杉 智、阿部欣也、福井浩司、岡内幸義、山本政司、 竹治正展、西田 勉、飯田卓馬、杉本 彩、福島直樹、杉浦由理、 岡崎由典、森村 治、中松 大、大杉直人、木田 亨、松本健吾、 岩橋博見、横江 勝、中坪彩恵子、高橋弘毅、稲田慎也、 藤井祥史、来 真希子、村田 尚、早野絵梨、肥後智子、 松山辰男、土井玲子、仲谷利栄、宮岡 愛
日本内視鏡外科学会	ダヴィンチ手術プロクター(直腸)：鈴木陽三、池永雅一 技術認定医：辻江智子 技術認定医(胃)：柳本喜智 技術認定医(消化器・一般外科)：清水潤三 技術認定医(大腸)：鈴木陽三、池永雅一 技術認定医(泌尿器腹腔鏡)：三宅 修、佐藤元孝、鄭 則秀
日本内分泌学会	指導医：岡内幸義、岩橋博見 専門医：岡内幸義、岩橋博見、稲田慎也、安田紀恵
日本乳癌学会	指導医：赤木謙三 専門医：赤木謙三 認定医：赤木謙三
日本認知症学会	指導医：森原剛史、仲谷利栄 専門医：森原剛史、仲谷利栄
日本熱傷学会	専門医：高橋弘毅
日本脳神経外科学会	指導医：西尾雅実、後藤 哲、森 康輔、細見晃一 専門医：西尾雅実、後藤 哲、森 康輔、細見晃一
日本脳神経血管内治療学会	指導医：西尾雅実 専門医：西尾雅実、杉浦由理、後藤 哲、森 康輔
日本脳卒中の外科学会	技術指導医：西尾雅実 技術認定医：森 康輔
日本脳卒中学会	指導医：西尾雅実、杉浦由理、後藤 哲、森 康輔、来 真希子、細見晃一 専門医：西尾雅実、杉浦由理、後藤 哲、森 康輔、来 真希子、細見晃一
日本泌尿器科学会	指導医：三宅 修、佐藤元孝、鄭 則秀、松下 慎 専門医：三宅 修、佐藤元孝、鄭 則秀、松下 慎
日本泌尿器内視鏡学会	ダビンチ手術プロクター(前立腺・膀胱・腎)：三宅 修、佐藤元孝 腹腔鏡技術認定医：三宅 修、佐藤元孝、鄭 則秀、松下 慎
日本皮膚科学会	専門医：横見明典
日本肥満学会	指導医：岡内幸義 専門医：岡内幸義
日本病理学会	指導医：足立史朗、土井玲子 専門医：足立史朗、田村裕美、土井玲子

日 本 病 理 学 会	専門研修指導医：田村裕美 分子病理専門医：田村裕美
日本腹部救急医学会	腹部救急教育医：池永雅一 腹部救急認定医：池永雅一、鈴木陽三
日本腹膜透析医学会	認定医：楠 康生
日本放射線腫瘍学会	放射線治療専門医：足立加那
日本麻酔科学会	指導医：高田幸治、二宮万理恵、香河清和、桐山圭司 専門医：高田幸治、二宮万理恵、香河清和、桐山圭司、八木拓也、奥野勇輔 認定医：香河清和、奥野勇輔 標榜医：川瀬朋乃、松永寛紀
日本脈管学会	専門医：藤村博信、飯田卓馬
日本輸血・細胞治療学会	細胞治療認定管理師：田所誠司、小澤孝幸 認定医：田所誠司
日本臨床栄養代謝学会	認定医：岡内幸義
日本臨床化学会	認定臨床化学者：松山辰男
日本臨床細胞学会	専門医：田村裕美 専門研修指導医：田村裕美
日本臨床腫瘍学会	がん薬物療法指導医：西田 勉、川瀬朋乃 がん薬物療法専門医：西田 勉、川瀬朋乃、杉本 彩
日本臨床神経生理学会 術中脳脊髄モニタリング	認定医：細見晃一
日本老年医学会	指導医：肥後智子 専門医：肥後智子
母体保護法指定医	辻江智子、吉田 晋、高橋良子、田中博子、脇本昭憲、高橋佳世子

29. 各種認定及び指定

各種学会認定（専門）医制等による研修施設

日本外科学会専門医制度修練施設証	日本高血圧学会専門医認定施設
日本整形外科学会専門医研修施設認定証	日本肝胆膵外科学会高度技能専門医修練施設B認定証
日本眼科学会専門医制度研修施設認定証	日本ペインクリニック学会指定研修施設認定証
日本麻酔科学会認定病院	下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術実施施設認定証
日本泌尿器科学会専門医教育施設	日本リハビリテーション医学会研修施設認定証
日本病理学会研修認定施設B認定証	日本脈管学会研修関連施設認定証
日本皮膚科学会認定専門医研修施設証	日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科専門医プログラム基幹研修施設
日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設指定証	日本臨床栄養代謝学会 栄養サポートチーム専門療法士認定規定認定教育施設
日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設認定証	日本内分泌学会認定教育施設認定証
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設	浅大腿動脈ステントグラフト実施施設診査終了証
日本救急医学会救急科専門医指定施設	マンモグラフィ検診施設画像認定証
日本精神神経学会精神科専門医制度認定研修施設認定証	女性ヘルスケア専門医制度による認定研修施設
小児科専門医研修支援施設認定証	日本女性医学会専門医制度認定研修施設
内科領域専門研修プログラム認定証	日本心血管インターベンション治療学会研修施設
日本消化器内視鏡学会認定指導施設証	日本胆道学会認定指導医制度 指導施設認定書
日本消化器外科学会専門医修練施設証	日本大腸肛門病学会認定施設
日本肝臓学会認定施設	日本血液学会専門研修認定施設
日本血液学会認定血液研修施設認定証	生殖医療専門医制度研修連携施設
日本神経学会専門医制度教育施設認定証	遺伝性腫瘍研修施設認定
日本糖尿病学会認定教育施設証	がん診療連携病院連携研修病院認定
日本口腔外科学会認定研修施設認定証	日本外科感染症学会 外科周術期感染管理教育施設
三学会構成心臓血管外科専門医関連施設認定書	エキスパンダー実施施設
母体保護法指定医研修機関認定証	日本消化管学会 胃腸科指導施設証
日本栄養療法推進協議会N S T稼動施設認定証	日本口腔科学会認定医制度認定証
日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関認定証	NIPTを実施する医療機関（連携施設）認定証
日本乳癌学会認定医専門医制度認定施設認定証	日本認知症学会 教育施設認定証
日本腎臓学会研修施設認定証	日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師研修事業研修施設認定証
日本手外科学会認定研修施設認定証	特定非営利活動法人日本緩和医療学会認定研修施設 認定証
日本がん治療認定医機構認定研修施設認定証	フォトサーベイ（婦人科系病変）認定証
日本呼吸器学会認定施設認定証	栄養改善法第9条の2第3項の基づく指定通知書
日本透析医学会専門医制度認定施設認定証	日本胃癌学会認定施設A認定書
日本肥満学会認定肥満症専門病院認定証	大阪府指令医看 第2208号 地域医療支援病院 承認
日本臨床腫瘍学会認定研修施設認定証	日本医療薬学会認定薬剤師制度 研修施設認定
日本静脈経腸栄養学会N S T稼動施設認定証	日本消化器病学会専門医制度審議委員会 認定施設
日本呼吸器内視鏡学会認定証	卒後臨床研修評価機構認定病院